

はいへ天未だ周を見棄てず
従つて鼎の輕重はお尋ねに
なるべき筋合のものにな
い」と答へた故事より出づ
雁の便り 遠い人からの通
信。漢の武帝が蘇武を匈奴
に遣はした。匈奴は蘇武の
人物を見込み、臣下にしよ
うとしたが聞入れぬので長
く幽閉した。漢は使者を送
つて蘇武をかへせと云ふと
蘇武は死んだと答へた。そ
こで使者は、そんな筈はな
い、先日天子が狩に出て雁
を射落したら、脚に蘇武の
手紙が結んであつたと計略
にかけると、匈奴は止むな

最近發表した所によると次のやうである。

陸軍		中隊數		機數		海軍		隊數		機數	
戰鬥機	—	—	—	—	—	追擊機	—	—	—	—	—
地上襲撃機	—	—	—	—	—	戰鬥機	—	—	—	—	—
偵察機	—	—	—	—	—	偵察機	—	—	—	—	—
重爆撃機	—	—	—	—	—	重爆撃機	—	—	—	—	—
輕爆撃機	—	—	—	—	—	輕爆撃機	—	—	—	—	—
練習機	—	—	—	—	—	練習機	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	合計	—	—	—	—	—
總計一二、四五二機を持ち、航空關係工場五十。これが三ヶ月間に陸上機三四											
四八機、水上機五〇〇を造つたといふから、その製造能力も大したもので、昭和十三											
年末には恐らく一萬六千機に達したらうといふ。ソ聯自慢の戰鬥機は、お馴染のイ											
一十五型及び十六型であり、イー十六型は時速四百五十軒といふ快速を持ち、TB											
五型重爆撃機も時速四百軒、三千軒の爆弾を積んで時速二百五十軒、航続距離二											

く蘇武を返した。
畫龍點睛 睛は瞳。龍を畫
いて最後に睛を畫き入れる
こと。肝腎な或る一點に手
を加へて物事を立派に仕上
げるを云ふ。張僧繇といふ
畫師が金陵(今の南京)の
安樂寺の壁に四匹の龍を畫
いたがどれにも睛を入れな
いで云ふには「若しこれに
睛を入れたら龍は忽ち飛び
去つてしまふだらう」と。
これを聞いて人々が嘲笑し
たので、彼は試みに一匹の
龍に睛を入れるや、不思議
にも忽ち雷鳴起り電光きら
めき、龍は壁を突破つて雲

千軒と云ひ、TB六型は機關砲や機關銃を多く裝備し、時速四百軒、航続距離三千
五百軒の性能を持つ。このTB型といふのは、先年北極を超えて米國に飛び無着陸
長距離飛行の世界記録を樹立したA・N・T型のことである。輕爆撃機に快速双發
動機のT・B・K型、SB型等があり、SB型は全金屬低翼單葉で、M二五型空冷
七百五十馬力の發動機二基を備へ、最大速度三百五十乃至五百軒、航続距離八百軒の
ものであり、昭和十三年七月三日安慶上空で我軍のため撃墜せられたが、非常な優
秀なものであつた。又、偵察機のM三五型、地上掃射機のZKB一九型等の優秀機
もある。猶その他、一機に百人近い歩兵を乗せて飛び、一ヶ聯隊の兵力を落下傘で
敵の後方に落とすなどといふソ聯得意の戦法に用ひる大飛行機もあり、侮るべからざ
る實力を持つてゐる。

オソアビアヒムとは何か

これはロシア語で、國際飛行化學協會とでも云ふべき半官半民の航空思想普及會

に乗り昇天したといふ物語より出づ。

汗牛充棟 蔵書の多いことを云ふ。書物を車に積んで牛にひかせると餘りの重さに牛が汗をかき、家の中に積み上げると棟にまで充ちるほど澤山あるとの意。

邯鄲の夢 盧生といふ人が趙の都の邯鄲の宿屋で女中が粟飯を炊く間に見たといふ幸福な夢のことで、人の世の榮華の恃むに足らない譬へ。

管鮑之交 非常に親密な交、互に信じ許し合ふ間柄

である。即ち會員から僅かではあるが一定の會費を取り、航空及び防空思想を普及するばかりでなく、その實習訓練を行ひ、以て國家の空軍充實を助けるものである。會員千八百萬人を擁し、中婦人會員だけでも六百萬人と號してゐる。飛行機も五百機持ち、操縦士や機關士を養成すると共に、パラシュート學校やパラシュート練習塔を持つてパラシュート降下の訓練をする。又グライダーの練習、防空訓練も盛に行ひ、會員はみな防毒面を持つてゐる。

米國の飛行機製造能力

米國は世界一の飛行機製造能力を持つ國で、優秀な技術を持ち、ボーイング、ダグラス、カーチス等有名な會社九十六、發動機專門製造業者三十人あり、年々製造能力を増し、昭和十二年には軍用機九百五十、民間機二千三百、合計三千二百五十機を造り、中六百三十機を輸出してゐる。併し最大能力を出せば、世界大戦でも年二萬一千機を造つたから、今日ならその倍は造るだらう。

日常科學知識

天文と自然現象

地球の大きさはどの位か

地球は蜜柑のやうに圓くはあるが南北が少し短かく、赤道直徑一萬二千七百五十六・三八浬（三千二百四十八里）に對し南北直徑は四十二浬（約十里）だけ短かい。赤道で測つた周圍は一萬百八十七里あり、表面積は三千三百六萬七千二百三十五方里、そのうち陸地面積は約九百六十四萬六千方里で、海は約二千三百四十二萬六千六千方里あり、地球の體積は百七十八億八千八十九萬八千四十七立方里である。

太陽は地球の何倍か

周の時代に管仲といふ人があり、後に立身して齊の宰相となつたが、或る時その無二の友鮑叔を懷つて次のやうに語つた。「私がまだ若くて貧しかつた時、鮑叔と共に商賣を始めたことがある。私は利益の分前を多く取つたが彼は私を愆張りだとは云はなかつた。私の貧乏を知つてゐたからだ。又或時私は鮑叔のために事を計畫して失敗したが彼は私を愚だとは思はなかつた人の爲す事には時に利不利があるのを知つてゐるからだ。私は嘗て三度君に仕へ

て三度共免職されたが、彼
は私を無能者とは思はな
かつた。私が時世に容れら
れないのを知つてゐるから
又私は三度戦つて三度共敗
れて逃げた事がある。それ
でも彼は私を卑怯者だとは
云はない。私に老母がある
ことを知つてゐるからだ。
魯との戦に齊の公子の糾が
敗れ召忽は戦死した。私は
捕虜となつて押籠められ、
この上もない恥辱を受けた
が彼は私を恥知らずとはし
なかつた。私が小節を敢て
恥とせず、天下に名が顯れ
ないのを男子の恥と信じて
ゐる事を知つてゐるからだ

太陽の直径は約三十五萬四千里であるから、地球直径の約百九倍であり、その體積は地球の約百三十萬倍に當る。これを物に譬へてみれば、地球を粟の實とすれば太陽は林檎ほどあり、地球を一個の角砂糖とすれば太陽は四疊半の部屋一杯に相當する。

恒星・遊星・衛星・惑星の區別

以上四つのうち遊星と惑星は同じものだから、區別は恒星、遊星、衛星の三つしかない。恒星とは一群の遊星の中心となり、自ら自轉はするが公轉しないものこととて、太陽はその代表的なものであるが、他の星——一夜のうちに東から西へ動かず、北極星を中心として廻つてゐるやうに見える星は、大抵恒星である。遊星とは恒星から分離して恒星の周圍を公轉してゐる星で、我が太陽系の水星・金星・地球・木星・火星・土星・天王星・海王星等はそれである。これは毎夜東から出て西に没するから直ぐ見分けられる。衛星は遊星から更に分離し、親遊星の周圍を廻つてゐるもので、地球に於ける月はその代表的なものであるが、土星も火星も各自の衛星を持つてゐる。太陽以外の恒星は、各自の遊星を地球から見ることが出来ないが、恐らく太陽同様に遊星も衛星も持つてゐることだらう。

【キ】

あゝ、懐へば私を生んでくれたのは父母であり、私を眞に知つてくれたのは鮑叔である」と。

北極星が何時も北にある理由

太陽も月も動いてゐるやうに見える。星も動く。多くの星を仔細に觀察すると、太陽同様に東から西へ動くものと、北極星を中心にして空で大きく圓を描くものがある。所が北極星だけは何時も北の空の同じ所に輝いてゐる。これは北極星が丁度地球の頭の眞上、北極の眞上に當る方向にあるからである。地球は南北の兩極を心棒とした獨樂のやうに西から東へ廻つてゐる。これを自轉といつてゐる。そして毎日一回自轉しながら太陽の周圍を公轉してゐる。若しこの場合、地球の南北の心棒が直立してゐると假定したら、或る時は北極の眞上にあつた星も、次の日には眞上でなくなつてゐる筈だ。(公轉のために地球自身が走り動いてゐるから) 所が地球

奇貨居くべし 珍しい品は大事に保存して高く賣れる時機が来るまで待つべし、又役に立ちさうな人間は庇護して置いて役立つ時機の来るまで待つべしの意。
樹靜かならんと欲すれど風止まず 樹が靜かに居ようとしても風が止まないのので靜かにすることが出来ない

種々な外部の事情に妨げられて思ふ事が達せられないのに譬ふ。

驥尾に附く 驥は一日千里を走るといふ名馬のこと。蠅が名馬の尾に附いて千里の遠きに至るやうに、後輩が立派な先輩に従つて事を成す意。又案内などを知つた人の後について行く事にも云ふ。

牛耳を執る 盟主となる、仲間を引廻すの意。昔支那で諸侯が相會して盟をする時、その盟主が牛の耳を裂いてその血を啜つた故事による。

九仍の功を一簣に缺く 一仍は八尺、簣は土を運ぶモツコ。もう一息、事が成就しようといふ所で失敗すること。

澆季の世 人情澆く道義の衰へた季の世。

堯舜の治 堯、舜は共に支那上代の帝王の名。何れも明君として聞え、國がよく治つた。聖王、明君によつて行はれる理想的専制政治 杞憂 取り越し苦勞すること。杞の國に取越苦勞ばかりする人があり、天が落ちはせぬか、地が裂けはせぬかと心配ばかりしてゐた。

の心棒は軌道面に對して五度八分傾斜してをり、その傾斜は常に一定の方面にのみ傾斜してゐるのではなく、北極星の方向に頭を向けてゐる。丁度我々が獨樂を廻す時、獨樂の心棒が傾いてゐると、ブンブンと自轉しながら、大きな輪を描いて廻るが、その時心棒は常に輪の中心に向つて傾いてゐるやうなもので、若し獨樂の心棒の先に糸をつけてピンと張つておいたとしたら、その先は一點に集中され、そこに圓錐形が出来るだらう。地球の場合も同様であり、五度八分の傾きと公轉とで作る圓錐の頂點に丁度北極星があるのである。だから北極星は一年中常に一定の所にある、決して動かない。實は極く少しづつ動いてゐるが、人の眼につくほど大きなものでないから、こゝ千年や二千年では北極星の位置は變るまい。

回歸線とは何か

地球は五度八分傾いてゐる。若し地球が眞直に立つてゐるなら、太陽光線はいつも赤道を直角に照らす、傾斜してゐるために何時もといふわけには行かない。春

分、即ち毎年三月二十一日頃には太陽は赤道の眞上にあるが、その後漸次北へ移動し、夏至、即ち六月二十二日頃には北緯二十三度半の所まで來、それから再び漸次南へ下り、秋分、即ち九月二十三日頃には再び赤道の眞上へ行き、猶一層南下を續け、冬至、即ち十二月二十二日頃には南緯二十三度半の所まで行き、これを境として再び北上して來るのである。かうして太陽が往復する線、即ち南北二十三度半の線を回歸線といふ。我が臺灣は赤道よりもズット北にあるが、然も熱帯地方同様であるのは、その中心が北緯二十三度半の上にあるからである。因に臺灣の極北は北緯二十五度三八、極南は二十一度四五である。

宇宙の廣さは幾らか

光は一秒間に地球を七廻り半する。即ち秒速三十萬キロの速さで走る。その速さを以てすれば一年間に何キロ走るか？ 暇な人は計算してみるがよい。此の想像もつかぬ長い長い長さを天文學者は一光年と名付け、星までの距離或は宇宙の廣さを

金烏玉兔 金烏は太陽、玉兔は月の異名。即ち日と月轉じて月日、光陰のこと。略して烏兔とも云ふ。

金甌無缺 甌はカメ、物事の堅固で完全なこと。特に國家の基礎固く聊かも他國の侮りを受けない様を云ふ場合が多い。宋の武帝が自國の強固を讃へて「我が國家はなほ金甌の一の傷缺なきが如し」と云つたのによる。

槿花一朝の夢 榮華の儚ないことを槿の花が朝咲いて夕に萎むのに譬ふ。

巾幗者流 巾幗は支那で婦

此の物差で測る。そこで早い話が天の河の河幅は肉眼では三十種もあるかなしだが實は二十萬光年あるといふから、それから推して眼に見える限りの空の廣さだけでも大したもの。そして或る學者は宇宙の直徑を百億光年だといふから、半徑の自乗にパイをかけると、七千八百五十四億平方光年となる。大體どの位の廣さか想像のつく人は手を上げて頂きたい。地球公轉の軌道の長さは三億千で、その直徑を一耗と假定すると、太陽の直徑は二百分の一耗、地球の直徑は二萬四千分の一耗で、太陽系中最も遠い所にゐる冥王星の公轉軌道の直徑が四十耗、そして此の冥王星に一番近い他の恒星までの距離がこの割合で百三十二米あるのだから、宇宙全體の廣さなどは我々の物尺では假に考へることさへ出来はしない。

地球は何が支へてゐるか

地球は空中にポカーンと浮いてゐる。誰も支へてゐる者はない。だのに何故何處かへ落ちて行かないのか？ これは地球ばかりの問題ではなく、月も星も空にフワ

人が喪中にかぶる頭巾。婦人の仲間を云ふ。
金枝玉葉 皇族をいふ。幹を國王に譬へ、その枝葉を金玉と美しく形容したものの琴瑟相和す 夫婦仲の非常に圓滿なこと。琴は古來支那で用ひられてゐる六絃の琴、瑟は琴の大型のもの。この二つはよく合奏されたので、例へば妻が琴を弾けば夫が瑟を奏するといふやうに、夫婦兄弟などの相和するに譬へたのである。

【ク】

群盲象を評す 大勢の盲が

りと浮いたまゝで一向何處へも落ちて行く様子がない。地球も月も星も自轉しつつ公轉してゐるが、その眼に見えぬ軌道を少しも踏み外さずに一定の廻轉を續けてゐる。その理由は萬有引力のためである。物質には必ず引力がある。我々の肉體も物質である限り引力を持つてゐる。けれども我々の肉體の如きは餘りに小さくて、引力の力がどの位の大きさを計算することも出来ない。ところが地球だ太陽だとなるところとお話にならぬほど大きいから、引力もまたお話にならぬほど大きい。そこで大きい物は小さいものをグイ／＼と引張る。太陽は地球の三十三萬三千四百餘倍もある。地球を嬰栗粒だとすれば太陽は林檎ほども大きい。そこで太陽はグイ／＼と地球を引張つてゐる。所が地球は元來太陽の子供で、太陽から飛出したものだから、太陽から逃出さうと力、即ち遠心力を持つてゐる。所が太陽は、地球が一億四千八百八十軒逃出した所でドッコイ遣まるいと引つ捕へた。行かう、遣るまい、逃げよう、逃がすまい、といふ二つの力が働いて、平均して、同じ所にドッコイとしてゐる。太陽といふ親父の腕の長さを半徑として親父の周圍をもがきながら廻

大きな象を手さぐりで撫でて様々の批評をし合ふといふことで、世の凡人達が各の小さい見識で偉大な人物をかれこれ批評しても多くは皮相な見方ばかりで、その真相、全貌は到底解るものでないの意。

【ケ】

傾城 絶世の美人のこと。俗に娼妓のことを云ふ場合が多い。傾國とも云ひ、君主をしてその色に迷はせ、城即ち國を危くさせる意。漢の武帝の頃、李延年といふ歌舞の名手あり、或時帝

つてゐる、といふのが地球の現状であり、これが地球をして宇宙に宙ブラリンに浮かせてゐる理由である。もつと判り易い例をもつてすれば、毬はたゞ投上げただけでは間もなく必ず落ちる。ところがこれに糸をつけてブン／＼振り廻すと、毬は落ちずに空中の一定の所を走り廻つてゐる。それは毬が遠心力で逃げようとする力と糸が引張る力とが平均してゐるからである。地球が宇宙に浮いてゐるのもこれと同様である。

太陽は何故落ちないか

地球は太陽の引力と自らの遠心力とによつて空間に浮いてゐるが、太陽が空間に浮いてゐるのもこれと同様か、といふと決してさうではない。太陽もなるほど動いてゐる。自轉しつゝ織女星の方向に向つて毎秒十九軒の速さで動いて行く。では織女星に引張られてゐるかといふと決してさうではない。勿論織女星に引張られてゐる。だがその位の力では太陽自身も織女星を引張つてゐるし、又他の星からも引

の御前で舞を舞ひながら、「北方に佳人あり、絶世にして獨り立てり、一たび顧れば人の城を傾け、再び顧れば人の國を傾く」と歌ひ、遂にその妹を後宮に奉つて武帝の寵を蒙つたといふ。蟹の功 種々の不便を忍んで苦學した功、又普通勉學の功の意に多く用ふ。晋の車胤は家が貧しく燈油を買ふ金にも不自由したので夏は練絹の袋を作つてそれに數十匹の螢を入れ、その微かな光で本を読んだ。後に勉學の功現れて官吏となり尙書郎といふ官に昇つた

張られつゝ引張り返してゐる。従つて太陽が空間に浮いてゐる理由は地球の場合とは違ふ。一口にいへば、誰にも引張られてゐないから浮いてゐるのだといふことが出来る。投上げた物體が落ちるのは地球の引力が働いてゐるからだ。若し引力が働かなかつたら、物は空中に宙ブラリンとなつて浮いてゐるだらう。太陽もこれに強く働く引力がないから浮いてゐるのである。では何故織女星の方へ動いて行くかといへば、その運動は太陽が本來から持つてゐる運動の惰性で動いてゐるのである。惰性は何時かは消える筈である。所がそれは何かに突當るか、空氣その他の摩擦によつて減殺されるからで、運動を妨げるものがなければ何時までもその運動は止まないだらう。太陽の周囲は眞空であるらしい。だから彼を妨げる何物もない。そこで彼は織女星の方向へ動いてゐるのである。かういふ運動は太陽ばかりでなく、織女星その他の恒星もみな持つてゐる所であるが、毎秒十九軒位の速さ（飛行機の三百倍）も、大きな太陽、限りなく廣い宇宙にとつては誠に目にもとまらぬほど微々たるものである。

又その頃孫康といふ人があり、同じく家が貧しかつたので冬になると窓際に雪を積み、その淡い光で書を讀んだ。多年の苦學が報はれて官に仕へ、遂に御史大夫といふ顯官に昇つたといふ

鷄鳴狗盜 もの眞似などして小策を弄すること。齊の公子の孟嘗君が秦に来ると昭王はこれを押籠めて殺さうと計つた。それと察した孟嘗君は、秦を逃出さうと一策を案じ、前に孟嘗君から昭王に献じた狐の裘を狗の眞似をして物を盗むに妙を得た従者に盗ませ、こ

太陽を構成する物は何か

太陽は攝氏六千度の高熱で燃える瓦斯體であるが、石炭瓦斯の燃えるやうな状態ではなく、熔鑛爐の中のやうに、凡る物がドロドロに熔けて燃えてゐる。これを分光器で觀察すると、酸素・水素・鉛・鐵・銅・アルミニウム・ニッケル・コバルト・マンガン・カルシウム・ソジウム・マグネシウム・ストロンシウム・カドミウム等の元素から成り、別に珍しいものもなく、地球を形成する元素と同一である。これから考へ合せると、地球もその昔は太陽と同様であつたらうし、太陽もまた冷えれば地球のやうになるだらうと想像される。

太陽の黒點の正體

太陽を見ると幾つもの黒點がある。或る物は大きく、或る物は小さく、然もそれらは大きくなつたり小さくなつたりし、又多くなつたり少くなつたりする。それが

れを昭王の寵妃に献じて歡心を買ひ、寵妃のとりなしで辛うじて釋放された。そこで孟嘗君は變装して秦の都を逃出し齊の國へ急いだが、偶々函谷關といふ關所へ着いたのは眞夜中だつた關所の規則として鶏が鳴くまでは門を開けない。しかし秦の追手がいつ迫るか分らない。所が従者の中に鶏の鳴眞似の天才があつたので、それにコケツコーと鳴かせると、本物の鶏が誘はれて一時に鳴き出し、關所の役人は直ちに門を開けて一行を通したといふ。

月下氷人 月下老の氷上人

何であるか、六千度の高熱を以てしても熔けない或る物が浮きつ沈みつしてゐるのかとも考へられるが、最近では、燃え盛る火が大旋風のやうに渦巻き、それが人間の眼に黒く見えるのだらうと云はれてゐる。然も此の黒點はいゝ加減に出来るのではなく、一定の周期を以て増減してゐる。即ち黒點數の最も少い時から漸次多くなり、再び少くなる迄には約十一年間かゝるといふ。黒點が何であるかは今もなほ謎であるが、兎に角黒點の増減や大小によつて地球上の氣候に變化を來したり、黒點の多い時に北極光が頻繁に見えたりする事實から考へて、何か空中電氣と密接な關係があるのだらうと云はれてゐる。

地球の年齢は幾つか

地球は太陽の一部分が振り切られて飛んだ物だとされてゐるが、一體それは何年程前の事か？ 學者により計算は大いに違ひ、昔ケルビン卿は二千萬年乃至四千萬年と云つたが、それは恐らく地球上に生物が発生した時期に等しいから、地球の誕

のことで、縁組の神、即ち結びの神のことを云ひ、轉じて婚姻の仲人を云ふ。

【三】

恒産なければ恒心なし 恒は常、産は一定の生業。生活の基礎となる一定の生業のない者は確固たる信念をも持つことが出来ぬの意。狡兎死して良狗烹らる「狡兎死して走狗烹らる」とも云ひ、危急な場合や必要の時に散々働かされた揚句、不用になると何かと難癖をつけて酷い目に逢はされる事。漢の名將韓信は高祖の

生はその何十倍か前でなければならぬ。そこでラッセル教授は八十億年といひ、他の學者は八千萬年乃至一億年だといひ、九億年説を立てる人もある。それ等はみな地質や、ラヂウム放射や、生物の發生進化等の研究から計算したものであるが、何にしても數億年以下といふことはないやうである。

太陽が朝夕大きいのは何故か

凸レンズは中央の膨らみが厚いほど物が大きく見える。光線の屈折が大きいからである。板ガラスでは如何に厚くても光線が屈折しないから少しも大きく見えな。太陽や月が朝夕だけ大きく見え、天心に來た時に小さく見えるのもその理窟と同様である。地球の周囲には約七萬メートルの厚さで空氣が取巻いてをり、空中には幾多の塵埃や水蒸氣の微粒子が飛んでゐて光線を屈折する作用を持つてゐるからこれを厚さ七萬メートルの球面ガラスと思へばよい。太陽が正午に天心へ來た時はこれを直角に通して見上げることになるから、太陽はそのまゝの大きさにしか見えぬが、朝夕には斜めに通して見るので空氣が大きな凸レンズの作用をし、太陽も月も大きく見えるのである。従つて空氣中に塵埃や水蒸氣の多い日と少い日によつて太陽の大きさも多少相違する。然も光線は屈折して來るから、太陽が地平線に昇つた時、實は太陽はまだ地平線のズット下に隠れてゐるのである。

奸計に陥つて捕へられた時「狡兎死して良狗烹らるれ、高鳥盡きて良弓藏れ、敵國破れて謀臣亡ぶ」と云つて嘆息した。狡兎はすばやい兎の意で、漢の敵であつた楚趙等を指す。功名を竹帛に垂る 歴史に名を残すこと。昔紙のなかつた時代には竹の札に字を書いて紙の代用としたので書物のことを竹帛といふやうになつた。

吳下の阿蒙 元の儘の馬鹿者、吳下は吳の城下、阿蒙は呂蒙といふ人を親しんでいふ。吳の呂蒙が學問を始

朝焼や夕焼はどうして生じるか

朝日や夕日が大きく見えると同様に空氣の層が厚いからである。晝でも夕方でも太陽の光線や光の強さに變りはない。所が晝は空氣の層が薄く、その上直射して來るから、光線の屈折が我々の眼に達しない。所が朝夕は光が斜に來るから光線が屈折する。殊に山の端にかゝつてゐる太陽や、姿をかくしてゐる太陽の光線は空で屈折して我々の眼に達する。屈折するといふのは、「空」といふ固定した青天井で屈折するのではなく、空氣中に浮いてゐる多くの夾在物、早い話がゴミや水蒸氣に當つて屈折するのであるが、かういふ場合七色の太陽光線中、紫や青や藍などといふ

めた頃、魯肅といふ人が呂蒙と談論し、蒙の肩を叩いて云ふには「僕は今まで君を武略一方の人間だとばかり思つてゐたが、中々どうして學識が博くて、昔の吳下の阿蒙でないのに驚いた」と。

古稀 七十歳をいふ。杜甫の「曲浦の詩」の中にある「人生七十古來稀なり」の句から出たものである。

五常 人たる者の常に行ふべき五つの道、即ち仁、義、禮、智、信をいふ。又君臣、父子、夫婦等の間に守り行ふべき道をいふ。「孟子」に

波長の短いものは反射力が少なくて我々の眼にまで達しない。波長の長い赤や黄だけが反射して来る。そこで空が赤黄色く見え、火事のやうに焼けて見えるのである。

眩しい太陽も朝夕は見られる理由

太陽は、日中は眩しくて直視出来ない。若し直視すれば、その強い紫外線に作用されて眼がくらみ、暫く物を見ることが出来ないばかりが、長く太陽を見詰めてゐると盲目になつてしまふ。所が朝日や夕日は平氣で見える。然も日中は白熱した金屬のやうな色なのに、朝夕だけは赤いのは何故かといふと、空氣中で光線が屈折する時、光が弱められ、變色されるからである。

星は何故またゝくか

星はみな瞬いてゐる。併しあれは星が瞬いてゐるのではなく、七萬メートルの空氣の厚みの中には濃さが幾重にも違つてをり、然も上層には常に激しい風が吹いて

「父子親あり、君臣義あり、夫婦別あり、長幼序あり、朋友信あり」と。

【サ】

塞翁が馬 人間の禍福は常に移り變つて定まらないこと。塞といふ處にゐた者の馬が逃げて胡に行つた時、隣人がこれに同情するとその父翁は、悲しむことはない、まだどんな幸福が来るかも知れぬと答へた。數月してその馬が胡の良馬を連れ歸つたので隣人が喜ぶと翁は却て禍になるかも知れぬと答へた。果してその子

ゐて下層の空氣と摺れ違つてゐたりするので、そのために光が遮られ亂されて瞬くのである。月や太陽の光線も同じわけではあるが、光線が強いから、それ位のことでは亂されない。遠い家の灯が瞬くのも同じ理由である。

日蝕・月蝕はどうして起るか

地球は太陽の周圍を廻つてゐる。月は地球の周圍を廻つてゐる。そこで一ヶ月に一度づゝは月は地球と太陽の間を通り、又一度は地球が月と太陽の間へ来る。大抵の場合それは幾分かづゝ反れてゐて三角形を形づくるが、時としては此の三つが一直線上に並ぶことがある。若し月が地球の前へ立塞がれば、太陽は月に遮ぎられて見えなくならう。これが日蝕であり、若し地球が月の前へ立塞がれば月は隠れてしまふ、これが月蝕である。この場合全く一直線上に並んで完全に太陽や月を隠す場合を皆既蝕といふが、地球や月の位置によつて一直線上を少し反れてゐる場合には皆既蝕とはならず、太陽や月が幾分顔を出したりするが、日蝕の場合は、

が落馬して脚を折つた。人が悲しむと翁は、これが却て福になるかもしれぬと云つた。一年後に胡が塞に攻め入つたので若者は皆戰場に出て澤山の死者を出したが、彼の子は跛だつたので父子戰場に出づることなく助かつた。禍福はかく移り變つて窮りないといふのである。

左遷 官位を下げられること。支那の漢の時代には右を尊び左を卑んだので、官位を下げられることをかく云つた。

左袒 袒は袖をまくつて肌

地球上の或る地點では皆既蝕であつても他の地點では部分日蝕となる。これは月が小さいから太陽を全く隠し切れず、横の方から幾分のぞけるわけである。地球全體として日蝕は十八年間に約四十一回、月蝕は二十九回あり、月蝕は満月の夜、日蝕は新月の晝に限られる。

月は何故いつも同じ顔をしてゐるか

地球が自轉しながら太陽の周圍を公轉してゐるやうに、月も自轉しながら地球の周圍を公轉してゐるといふが、若し月が自轉してゐるならば月は何故いつも同じ顔をしてゐるか、たまにはその裏側を見せてもよいではないかとの疑問は當然だが、よく考へてみると、月が何時も同じ側ばかりを見せてゐるといふことが自轉してゐる證據である。何故なら、假に中央へマツチ箱を立て、その周圍をゴールデンバツトの箱に廻らせてみるがよい。バツトの蝙蝠の繪をこちらに向けたまゝでマツチ箱の周圍を廻らすと、吾々には何時も蝙蝠がこちら向いてゐるが、マツチ箱から見れば

を現すこと。味方する意。漢の將軍周勃が呂氏一族の亂を鎮めようとした時、軍中に令して「呂氏の爲にする者は右袒し、劉氏の爲にする者は左袒せよ」と云つた所、全軍皆左袒したといふ故事より出づ。

山雨來らんとして風樓に

滿つ 山雨がまさに降り出さうとする前冷い風が高樓に吹き滿つること。轉じて何か事件が起らうとする前四圍の情勢が何となく穩かでないことに云ふ。

三舍を避ける 勢に恐れ、

或る時はバツトの側面、或る時は裏面が見える。若しマツチ箱の方へ何時も蝙蝠の繪を向けておかうと思つたら、バツトを公轉させながら少しづつ自轉させてやらないではならぬ。そしてそれは、丁度一回の公轉に對して一回自轉させねばならぬ。月も同様に、地球の周圍を一回廻る間に丁度一回自轉する。月も地球から分離したばかりの時は、もつと速く自轉してゐたらうが、今はかうなつた。もし我々が何千萬年か後まで生きてゐたならば、月の自轉速度はもつと遅くなり、お月様の裏を見ることが出来たらう。

月は何故満ちたり虧けたりするか

月はそれ自身光つてゐるのではなく、太陽の光線を反射してゐるだけである。從つて太陽の光線を受けた側(半分)だけが光つて見えるのであるが、月は地球の周圍を廻つてゐるので、その光つた部分が多く見える時と、少し見える時と、全く見えない時とが生じるわけで、圖をかけばそれが直ぐ了解出来よう。月が地球の下へ

或は謙遜して遙かに退いて居ること、一舍は三十里（我が五里）。

三遷の教 孟子の母は初め寺の近くに住んでゐたが、孟子が葬式の眞似ばかりするので我子のために良くなまいと思つて町に移つた。すると商人の眞似をして遊ぶので更に學校の近くに移ると、今度は祭に使ふ器を持つて來て禮法の眞似をして遊んだので「これは子供の住み場所として良い所だ」と云つて此處に居つた。母たる者のよく聽くべき尊い教訓である。

くれば満月、上へ來れば新月、横へ來れば下弦・上弦となる。

一日中最も暑い時・寒い時

一日中で最も暑いのは午後二時頃、最も寒いのは日の出前一時間乃至三十分頃である。何故なら、太陽が出ると、その熱で地上は温められ、太陽の直射熱と地の反射熱とで空氣はだん／＼暑さを増す。太陽の直射熱は正午に最高頂に達する。そして愈々地上は温められる。所が直射熱が最高頂の時には地上はまだ最高頂に熱せられてゐない。最高頂の直射熱を受けてから初めて最高熱に達する。これが丁度午後二時頃になる。その頃は直射熱はもう下り坂ではあるが未だ大して衰へないから、さてこそ一日中で最も暑い時となるのである。その後太陽熱の衰退と共に暑さは漸次降る。直射熱は太陽の没すると同時に全くなくなるが、地上の熱はまだ容易に冷めきらず、だん／＼降つて夜明には最低となる。太陽が上らなければまだ／＼下るのだが、丁度太陽が上るので再び温まる。だから一日中の最低氣温時間は太陽の昇

る少し前に當るわけである。

氣温が低くても暑いのは何故か

夏になると蒸暑い夜が続く。晝間でも、餘り太陽は照つてゐないのに堪らなく蒸暑いことがある。曇つた日、雨催ひの日に限つて蒸暑い。寒暖計は餘り騰つてゐないのに堪へられぬ暑さを感じるのは何故かといふと、これは汗が發散し難いからである。汗は體内の熱を發散して體温の平均を保つ働きをするものである。だから汗がダラ／＼流れ／＼ば却つてそれほど暑くない。所が汗が流れず、油汗がジリ／＼と出るやうだと、體温が發散しないから、發熱した時と同様に、自分の體温を自分で感じて堪らなくなる。一體體温は三十六度五分前後で、もしこれを氣温にしたら大變なものだ。それを直接に感じるのだから堪らないのも無理がない。晝でも夜でも暑くつて、風がなくて、水蒸氣が空中に充滿してゐる時は汗の發散が悪い。だから蒸暑く感じるのである。併し寒暖計には體温がなく汗腺もないので空氣の温度を正

【三】

耳順 六十歳をいふ。「論語」に「五十にして天命を知り、六十にして耳順ふ」とある。人間六十歳にもなれば人格が圓熟し、社會百般の事情を同情と理解を以て受け入れることが出来るの意。

四面楚歌 四方を敵に取圍まれること、又反對者とか敵を多く持つこと。漢と楚が天下を争つた時、楚王項羽は漢軍に破られ、垓下といふ所で漢軍の重圍に陥つた。楚軍は兵も少く糧食も

殆ど盡きた。夜になつて漢の軍隊が皆楚の國の歌を歌ふのを聞いた項羽は大に驚き「あゝ、漢は既に楚を占領したのであらうか。それにしては楚人の多いことよ」と嘆息した。そして寵姫虞美人に舞を舞はしめ、騷といふ愛馬に跨つて、有名な「力山を抜き氣は世を蓋ふ」の悲詩を吟じながら落ちて行つた。

弱冠 二十歳をいふ。支那では昔、男子が二十歳になると元服の式を擧げた。「禮記」に「人生十を幼といひて學ぶ。二十を弱といひ

直に感じるから、餘り上昇しないのである。「蒸暑い」とは眞の暑さでなく、皮膚に感じる暑さである。それは丁度、灼けつくやうな太陽の直射下に立つてゐても風さへ吹いてゐてくれればそれほど暑く感じないのと同様である。臺灣や熱帯地方が氣温の割合に過しよく、日本の夏が氣温の割合に過し難いのは、日本の空氣が水蒸氣が多くて汗の發散を防ぐからである。

汗は何のために出るか

人間には汗の出る孔（汗腺）が全身に七百五十萬もあり、一日平均〇・七立（約三合九勺）出る。汗は體内の餘剰水分を排出するためにも出るのであるが、それは副産物で、第一の目的は體温調節にある。一體液體が水蒸氣となつて蒸發する時は周圍の温度を奪つて行く。蒸氣が盛なれば盛なほど温度を奪ふ力が大きい。氷が水より冷たいのは蒸發力が強いからであり、液體空氣が氷の何十倍も冷たいのは蒸發力が何十倍も強いからである。汗が發散する時には體温を奪つて行く。だから汗

て冠す。三十を壯といひて室あり。四十を強といひて仕ふ」と。
賢子とも謀るに足らず
賢子は人を罵り嘲る語で、青二才、小僧ツ子といふやうな意。共に事を爲すに足らないこと。

首鼠兩端 兩端は二つの態度の意。何れに従ふとも決めないで態度を曖昧にしてゐること。鼠は疑深くて、穴を出る時進んでは退き退いては進むといふやうにハツキリしないからである。
酒池肉林 豪遊を極めること。殷の紂王は姐己の容色

がどん／＼出れば、左程暑く感じず、汗の出ない日は蒸暑くて堪らない。寢汗をかくとひやりとするが、汗の出ない時、即ち病氣で新陳代謝の力が弱くなると體熱が出て暑くて堪らぬ、だから薬をのんだり蒲團をかぶつたりして發汗させるとサツパリするといふのも皆同じ理由である。夏は汗が出ていやになる。併し萬一汗が出なかつたら蒸暑くて堪つたものではない。だから體温調節のために汗が出るので、造化の神様の思召の深いことを今更感謝しなくてはならぬ。

風が吹くと何故涼しいか

元來風は、空氣が温まつて膨脹し、稀薄となつて上昇した空虛を埋めるために冷たい所の空氣が流れて來て起るものだから、風となるべき空氣、殊に地上近くにある風は元來が冷たいものである。だから涼しく感じるのは當然であるが、それ以外にも大きな原因がある。即ち風が吹くと空氣が動く。人間の周圍にある空氣がド／＼流れて行き、その度に體温を奪つて行く。だから一層涼しいのである。

に迷つて國政を顧みず、民に重税を課して奢りを極め酒で池を造り肉を懸けて林とし、長夜の飲を催して國の亡びるのも知らなかつた出藍の譽しゆつらんほまれ。「青は藍より出でて藍より青し」に同じ。食指しよくしゆ動く、食指は人さし指御馳走になる前兆。轉じて物を慾しがる心のある事。支那の周代に楚人が鄭の靈公に大きなすつぽんを献上した。その時公子（靈公の子）の宋と子家とが靈公に謁見しようとした時であつたが、不思議に子公（宋）の食指がブルブルと震へた。

暴風の前兆を知る方法

- 暴風の前兆を知るには、次のやうな觀察をするがよいと昔からいはれてゐる。
- 一、地上に風がないのに高い煙突の煙がひどく風に靡く場合。
 - 二、地上に風がないのに山頂の嵐が強く、下層雲の雲足が速い場合。
 - 三、日本内地なら、東風が強く吹く場合。
 - 四、貿易風が逆に吹く場合。
 - 五、天氣がよく、極く薄い上層雲に暈が出来た場合は暴風が近い。
 - 六、卷雲が羽毛か馬の尾のやうな形になつて四方になびく場合。
 - 七、山頂を激しく雲が包む場合。
 - 八、天氣がよいのに海鳴りの激しい場合。
 - 九、土用波のやうな大きな浪が襲つて来た場合。
 - 十、風がないのに驟雨が二三日續いて頻々と降る場合。
 - 十一、太陽や月の色が不氣味に赤くなつた場合。
 - 十二、夕焼が血のやうに赤味を帯びてドンヨリ赤くなつた場合。
 - 十三、天候が急激な變化を示した場合。

すると子公はその指を子家に示して「僕は人さし指が震へると必ず御馳走にありつく前兆なのだ」と云つたやがて御殿に入ると例のすつぽんの料理に取掛らうとする所だつたので、それ見たことかと二人は顔見合せて笑つた。靈公は變に思つて笑ふ譯を尋ねると、子家は事の次第を有りのまゝに話した。さて愈よすつぽんを重臣達に振舞ふ段になつて靈公はわざと子公に料理を與へず、食指動くの前兆を無効にしようとした。子公は憤つてその肉を煮た鍋に指をつけ、これを嘗めて

暴風雨標式の見方

晝と夜とは信號が違ふ。晝は、球・圓筒・同錐・圓菱・鼓形を高い標式柱の中央に一個とその兩側に二個づゝ吊るし、夜は白・赤・緑三色の燈火を掲げる。晝間のものゝうち二個は中心位置標といつて暴風雨の中心位置を示し、反對側の二個は進行方向標とて暴風雨の中心の進行方向を示し、中央の一個は中心の時刻及び強弱を示す。これを直ちに讀みとつて理解することは一般の人は容易に出来ない難しいことであるが、誰にでも判る點だけを云へば、進行方向標は左の通りである。



孔明あるは猶魚の水あるが如し、願はくばまた言ふことなかれ」と諭したので以後彼等も黙してしまつたと

【七】

赤繩 夫婦の縁を云ふ。「赤繩を結ぶ」といへば夫婦になること。唐の韋固が宋城といふ地に旅した時、囊にもたれて讀書してゐる奇異な一老人に會つた。「その囊の中の赤い繩は何に使ふのか」と尋ねると老人は「これは夫婦の足に繫けるのである。この繩が一たび繫がるとたとへ仇家であらうと

い。それは空氣の厚みが小さくなるのにもよるが、又、高くへ行くほど空氣が稀薄になつてゐるからで、氣壓は空氣の密度に正比例し、高さに反比例する。飛行機の高さを氣壓計で計り得るのはそのためである。

不連続線とは

風は普通には、空氣が温まつて稀薄になり空高く上昇すると、その空虛を埋めるために寒い所から冷い空氣が流れて來る時に起る現象である。所が冷い空氣がドツと殺到すると熱い空氣も反對の方向に流れる。その時兩方の空氣は衝突融和せず勝手な方向に流れて摺れ違ふ。そこで丁度その接觸面に當る所では北風が吹いたかと思ふと南風が吹き、その温度も方向も連續的に變らず不連續的に變化する。この面を不連續面といひ、これが地上へ延びて來た線を不連續線といふ。これは何處にでも勝手に起るものではなく、低氣壓と高氣壓が起り易いその位置により、地方々々により大體に於て一定の方向がある。我國では北から西南に延びてゐるので、關

他國の者であらうと、直ちに夫婦の縁を結び免れることは絶對に出來ない」と答へたといふ。

【ソ】

操觚 文筆に携ること又文筆に携る人のこと。操觚者といへば新聞雜誌記者や著述編輯に携る人のこと。觚は四角い木の板で、昔は紙の代りにこれに字を書いた糟糠の妻 貧乏時代に苦勞を共にして來た妻。後漢の光武帝の時、帝の姉の湖陽公主がやもめ暮しをしてゐたが、大臣の宋弘に秘かに

東では温い東南風が吹いてゐるのに關西では寒い北西風が吹くといふやうな現象が生じ易いのである。

夕風のおこる理由

夏など、夕方になると、今まであつた風がパツタリ止んで無風状態となり、非常に蒸暑くなる。これを夕風といひ、海上などでは帆前船が進まず、死んだやうな静けさが海上を領する。これは夏に限らず、一年中何時でも起る現象である。これは貿易風の關係による。風は空氣の温度の低い方から高い方へ吹く。特に大きな低氣壓や高氣壓がない限り、晝は海から陸へ吹き、夜は陸から海へ吹く。これは、晝は太陽熱のために陸が焼けて暑くなるのに海は涼しいからであり、夜は陸上の熱が早く冷めてしまふのに水の熱は容易に冷めないからである。かういふやうに往つたり來たりする風を貿易風といふが、この貿易風は丁度夕方、日没頃から全く暗くなる頃までの三四十分間が往來の轉換期となるので、その頃は風がパツタリ止み、所謂

心を寄せてゐた。帝は公主の心中を察して宋弘を招き、公主を屏風の後に置いてきて云ふには「諺に富めば貧しき舊友を棄てて新しき友を選び、立身出世すれば妻を取替へると云つてゐるがこれは人情の常であらうか卿はどう思ふか」と。すると宋弘は「貧賤の交りは忘るべからず、糟糠の妻は堂より下さず」と申し上げたので、帝は公主を顧みて「姉上、見込みがございません」と云つたといふ。「堂より下さず」は大切にする意。

宋襄の仁 婦女子のなさけ

夕風となるのである。

生物學上の話

微菌とはどんなものか

微菌は普通にバクテリアといはれるもので、世界中で一番小さい生物である。夥しい種類があるから大きさも一概にはいへないが、一ミリの五分の一から千分の一といふのが普通で、一番大きいものでも三分の一ミリしかなく、一滴の水の中に二十億も入れるといふのだから以て知るべきである。形によつて分類すると、球状菌、桿状菌、螺旋状菌、糸状菌の四種となる。球状菌には齧歯や腫物の病原となるストレプトコッカス、水や飯を腐敗させるマイクロコッカス等があり、桿状菌は肉類を腐敗させたり、肺炎、癩病、腸チフス、結核等の病原となるものであり、螺旋状菌には、コレラの病原となるスピリルムなどがあり、糸状菌には菌糞に着くビブ

つまらぬ同情の意。宋の襄公が楚の威王と戦つた時、襄公の公子目夷が敵の不意に乗じて急襲しようと提議したが襄公は「君子たる者は人を險しく狭い所に苦しめるものではない」と云つてこれを用ひなかつたので逆に楚に大敗してしまつた時人はこれを「宋襄の仁」と云つて嘲笑したと。

滄桑の變 滄海が一變して桑田となるの意で、世の中の變遷の甚だしいのに譬ふ「神仙傳」に「東海三たび變じて桑田となる」とある。桑田變じて滄海となる 前

リオなどがある。バクテリアは何處にでもゐる。空中にも植物にも動物にも、土の中、水の底、我々の体内などに到る處にゐる。併もそれが何千億、何千兆となく居る。生の牛肉を空中に置けば數日にして腐敗する。もしこれを煮ておくと、少しは長持するが間もなく腐る。みなバクテリアが作用するからである。今もし牛肉を水でよく煮、これを消毒した硝子管の中に入れて眞空にしてしまへば、恐らくバクテリアも居なくなつたらうと思ひきや、矢張り何十日かの後には牛肉は腐る。執拗なバクテリアはまだ何處かにゐて殆んど眞空の中でも生存してゐるのである。バクテリアは一つの細胞から成つてゐる生物であり、一定の大きさまで成長すると自ら分裂して繁殖する。分裂するまでには凡そ二十分間かゝるが、これが二倍二倍になつて行くのだから大變で、若し一時間に一回づつ分裂したとしても一晝夜の後には一千六百七十七萬七千二百十六となるのだから、二十分間おきでは以て知るべきで、何萬兆といふ恐るべき數になる。若しさうだとすると如何に微細なものでも此の世の中はバクテリアで充分して身動きも出来ぬ筈だが、バクテリアとして生物、諸行無常

項に同じ。「滄海變じて桑田
となる」ともいふ。

尊俎 尊は酒樽、俎は犠牲
即ち牛や豚等の肉を載せる
まないた。轉じて公けの宴
會又は平和の間に外交問題
などを處理することを「尊
俎折衝」といふ。「後漢書」
孔融傳に「謀を尊俎の間に
起す」とある。

【夕】

泰斗 泰山北斗の略で、そ
の道で世人の最も仰ぎ尊ぶ
人、大家、第一人者。泰山
は五嶽の一人で山東省泰安縣
にあり、北斗は北斗星。宋

の法則を無視する事の出来ないのは我々にとつて幸である。彼等は紫外線に當つたが最後忽ち死ぬ。百度以上の熱に會つても死ぬ。尤も中には百八十度の熱泉中に棲む琉黄バクテリアもあるが、大抵のものは熱に弱い。醫者が日光消毒や煮沸消毒をすゝめるのはこのためである。

バクテリアはみな有害か

バクテリアには有害なもの、更に有益にして無くてはならぬものがある。物を腐敗させるのはみな有害なやうではあるが、若し物に腐敗といふ作用がなかつたら非常に困る事がある。無用なものが何時までも残骸を洒してゐて困る。腐敗してくるからこそ助かることが多い。納豆や味噌や醤油や漬物の出来るのは醗酵バクテリアの働きによるのであつて、甚だ有益である。我々の体内にも何千億といふバクテリアが寄生してゐる。といへば病原菌の巢のやうな感じでゾツとするだらうが、食物が消化するの之等バクテリアの助力によるのだから有難いわけで

景文が韓愈を賞して「韓愈
は學者中の第一人者で他の
學者は彼を泰山北斗のやう
に仰ぐ」と。

他山の石 よその山から出
た石で玉を磨いてその光を
出すやうに、君子にとつて
はどんなつまらぬものでも
己の徳を磨き知識を廣める
助けとなるといふこと。又
人のことを見たり聞いたり
して己を誠め自己の手本と
するといふこと。詩經に「他
山の石は以て玉を磨くべ
し」とある。

蛇足 不必要なこと、餘計
なこと。楚の國の神官

全く無菌状態にして動物を飼つておくことと忽ち死んでしまふのだから、以てバクテリアの有難味が了解されよう。勿論多くの病氣、殊に傳染病の大部分はバクテリアの作用で、これこそ困りものではあるが、たかゞ五百分の一ミリしかないバクテリアの事だから、これが何萬何億あるやうとも、その位のことでは人間は死ぬものではない。消化器や食物の中には多くの酸がある。これはバクテリアを殺す毒藥である。また人間の血液内には白血球がある。これはバクテリアを大好物としてゐる生物で、片端からバクテリアを捕へて食べてしまふ。従つて身體が健康で、活潑に活動してさへすればバクテリアの跳梁を許して置くものではない。だがその元氣が衰へるとバクテリアは前述の計算で忽ち大繁殖する。そして分裂の度毎に自ら熱を出し、人に病熱を感じしめる。やがて彼獨特の毒素を分泌する。これが有害なので、毒素のために嘔吐したり下痢したり、或は身體に腫物が出来たり、各部の作用が止まつたりし、コレラのやうに急性なものになると數時間にして殺されてしまふ。普通の人にはバクテリアを蛔蟲や條蟲と同様に考へ、我々の攝取した營養分を吸収してしまふ

が酒を貰つたが、その量が一人では飲むには多過ぎ、蛇の畫を描いて出来上つた者から飲まうと決めた。一人が描き上げて飲まうとして杯を持ちながら「足をつけよう」と云つた。すると次に描き終つた者がその杯を取返して「蛇には足はないぞ」と云つて酒を最初に飲んだ。餘計な足をつけたばかりに最初に描いた者は酒にありつけなかつた。

多々爲と辨ず 多ければ多いほど一層よく處置することが出来る意。漢の高祖が

からだと思つてゐる人もあるが、一滴の水の中に二十億も入るやうな小さなバクテリアは、如何にバンドを緩めて營養分を食べても何の痛痒も感じるわけがない。ただ問題は毒素である。毒となれば耳かきに半分の毒薬でも優に生命を奪ふ。バクテリアの恐ろしいのは此の毒素である。そこで此の毒素を消せば病氣は癒る。血清注射、種痘その他の豫防注射などは此の理を應用したもので、血液の中に抗毒素を多く作り、バクテリアの毒素を中和させたり、バクテリアを殺したりするのである。

バクテリアは植物か動物か

バクテリアは日本語で微菌といふほどで、既に一種の菌であつてみれば動物ではなく植物であると即断する人もあるが、實は植物とも云ひ切れぬ點がある。バクテリアには胞子が出来る。胞子が出来て繁殖するのはシメジや松茸のやうな菌類である。然もバクテリアは炭素同化作用をする。炭素同化作用をするのは主として植物である。これ等の點でバクテリアは殆んど植物的である。所が彼は自ら動き廻る。

韓信に「自分はどの位の兵を指揮することが出来るだらうか」と尋ねると「十萬位でせう」と答へた。「では汝はどの位か」「多ければ多いほど處理することが出来ます」高祖は笑つて「ではなぜわしの臣下などになつたか」「あなたは多くの兵の將たることは出来まいが將の將たる技倆がありまです上に人の君たる徳を持つてゐられるからです」と。

斷金の友 非常に仲のよい友達のこと。二人が一心同體となれば金をも斷つことが出来るやうにどんな難し

此の點では立派に動物的であるが、更に考へると、堂々たる植物の中にも自ら動くものがある。鞭毛蟲といふのは名こそ蟲だが立派な植物で、然も二本の鞭毛によつて歩き廻り、公孫樹の花粉は精蟲となり、蘭の花粉も雌蕊にとまると自ら運動を起す。だから動くからといって動物とは云ひ切れぬ。そこでバクテリアは八分植物、二分動物で、どつちつかずの「生物」だと云ふのが正當な答だらう。

アミイバは動物か植物か

「アミイバから人間まで」といふ本がある。人間はアミイバから進化したものである。してみればアミイバは動物であらう、とは簡単に斷定出来ない。一體進化論によれば、無生物から水垢か水草のやうな生物が出来、それから動物が出来たといふ。してみると人間の先祖は水垢なりと云つてしまつては餘りに話が單純すぎる。一體バクテリアとかアミイバとかいふやうな微生物になると、動物か植物かの區別が薄弱になる。動くから動物、動かぬから植物とは云ひ切れず、バクテリアを菌の一種

い事でも出来るといふこと
端午 五節句の一。端は物の始めで、昔は五月の第一の午の日に行はれたが、後に五日と定められた。又「句」は「供」が本當で、その季節のものを供へまつるといふ意味。支那では五月五日は有名な詩人屈原が諷言のため江南に遷された時赴任の途中で汨羅といふ川に投身したので、楚人が憐れに思ひ水筒に米を入れて水中に投じて祭つたといふ我國で徳川時代に行はれた五節句といふのは正月七日(人日)三月三日(上巳)

だと断言出来ないのと同様である。アミーバには眼も口もない。だが何かしら心臓とでもいふべき中心物がある。これを核といふ。目と普通にいふ鶏卵の目がそれである。卵は動物か? といふと一寸困る。併し鶏が生れるのだからマア動物に違ひない。卵の生命は目、即ち核にある。だが核のある物は動物なり、とは云へない。細胞には必ず核があり、生物は悉く細胞から出来てゐる。我々人間は何十兆といふ細胞の集積であり、松も薔薇も同様に細胞の集積である。細胞とは眼にもとまらぬ小さな物で、生命の源泉たる核を中心にして原形質といふもので思ひ／＼の形をしてゐる。バクテリアも一個の細胞から出来たものであり、アミーバも同様に単細胞である。そしてアミーバもバクテリア同様に體を分裂させて繁殖する。そして動き廻る。自分が行きたいと思へば、自分の身體の十分の一もないやうな小さな孔の中も潜り抜けて行く。一端を細くして孔に首を突込み、向ふへ出てから段々此方を手繰りよせて出てしまふ。犬が堀の下を潜り抜けるよりも鮮かである。感々動物的である。そこで最後に、バクテリアとは反對に、アミーバとは動物八分、植物二分の生物である

物であると答ふべきだらう。

生物進化の證據は何處にあるか

人間はアミーバから進化したといふ。勿論それは一足飛びにはなく、何千萬年だか何億萬年だかの長い時間を費してのことであり、進化論者の説によれば、地球が出来た時は勿論太陽のやうな一箇の火の玉であつたが、これがだん／＼に冷え、地殻が出来るやうになり、海と陸とが別れた頃に、海水は不斷に岸に押し寄せ、海邊にあつた無生物が、何かの拍子に化合し、これに生命が宿つて單細胞の生物が出来、これがだん／＼に進化し、一方にはバクテリアのやうなもの、一方にはアミーバのやうな物が出来、そして植物となり動物となつて行つたのだらうと想像される。そして、その後どんな動物がこの世に生存したかは化石の研究によつてだん／＼明かになつて来たのであるが、敢て化石に待つまでもなく、現在この世に生存してゐる動物を下から上まで、バクテリアから人間までズラリと配列してみると、大

五月五日(端午)七月七日(七夕)九月九日(重陽)である。

断腸 悲しみに堪へないこと又堪へ難い悲しみの事。臨川の東に住んでゐた或る人が山から猿の子を捕へて歸ると母猿が後からその家までついて来た。子猿を庭前の木に縛ると母猿は助けを乞ふ恰好であつたが彼は遂に子猿を殺した。すると母猿は悲しみ叫んで自ら頭を地に打ちつけて死んだので、腹を切開いてみると愁嘆のため腸がすた／＼に断ち切れてゐた。

【子】

竹園 天子の御子孫。我國では竹の園生と申上げる。梁の孝王は漢の孝文帝の子であつたが、三百里四方の園を造つて中に竹を植ゑたので、竹園を天子の皇子のことに云ふやうになつた。**知命** 五十歳をいふ。論語の「五十にして天命を知る」より出づ。**頂門の一箴** 箴は針のこと略して頂箴ともいひ、頭の上一本の針をさし入れるといふことから、人の急所

體こんな順序で進化したのではないかといふことが判る。即ちアミーバのやうな單細胞動物からナマコのやうな腔腸動物となり、蟲となり、心臟が出来て魚となり、鰓を持ち、鰓が肺に變つて獸となり、尾を持ち、四肢が生え出して鳥、獸となり、象、獅子、猿、人間と列んでゐる。これと同時に、我々萬物の靈長といつて誇つてゐる人間が母の胎内に宿つてからオギヤアと生れるまでの發展過程を詳細に並べてみると、何と不思議なことに、アミーバから人間までの一聯の動物系統と殆んど一致することに驚かされる。これはヘッケルの固體發生説といひ、ダーウインの進化論を力強く裏書きしたものである。先づ人間は精子と卵子が結合して受胎するのであるが、精子や卵子はアミーバ同様一個の單細胞で、これが結合して初めて人間たり得る基礎を固める。この事は牛も馬も、蚊蜻蛉も同様である。受胎すると卵はその時から大活動を開始し、アミーバのやうに分裂に分裂を重ねて行つて細胞の數を増すが、アミーバのやうに個々別々にならず、細胞と細胞との間に原形質が食附き合つて一つの物となつて然もなほ分裂成長して行く。この分裂成長の有様を見てゐると、先づ腔腸動物のやうなものから蛆蟲のやうなものになり、血管や心臟が出来て鰓を生じ、鰓が肺に變り、五ヶ月頃には全身に細毛が生え、眼、口、鼻が生じ、手足が生え、尻尾を持ち、これがだん／＼人間らしい形に變つて来る。この状態を人間ばかりでなく、魚や鳥や、馬、猿などと比較してみると、六ヶ月頃までといふものは、どれがどれだか見分けのつかぬほど似てゐる。二ヶ月頃は全く同じ物であり、三ヶ月頃から若干相異して来るが猶見分けは困難である。かういふ成長過程から考へてみても、ダーウインが配列した生物進化の過程と殆んど一致するばかりでなく、少くとも脊推動物にあつては魚も牛も猿も人間も同一先祖から出て来たものであることが判る。一方これを骨格的に調べると、猿と人間とは實によく似てをりゴリラ等の類人猿は野蠻人の骨格と殆んど異らない。では猿の進化したものが人間で、現在の猿も何十萬年か後は人間になるのか、といふと、さうではない。先祖は同一であつても、今では猿は猿、人間は人間と全く異つて来てしまつた。化石の中にピテカントロプスエレクトゥス即ち猿人といふものが發見された。人でもなく猿

を押へて痛切な戒めを與へる意。**中原の鹿** 多くの人が争ふこと。支那では天子の位のこと。趙の石勒が徐光に向つて「あなたは戦法に優れてゐるから漢の高祖にも負けないでせう、天下を取つてはどうか」と。石勒は笑ひながら「高祖の才には及ばぬから家來として事へなければならぬ。しかし光武帝の才能位はあるからこの皇帝とは中原に争はねばならぬ。鹿は誰の手によつて死すか分らぬ」と答へた。又「逐鹿」ともいひ議員選舉の

と、先づ腔腸動物のやうなものから蛆蟲のやうなものになり、血管や心臟が出来て鰓を生じ、鰓が肺に變り、五ヶ月頃には全身に細毛が生え、眼、口、鼻が生じ、手足が生え、尻尾を持ち、これがだん／＼人間らしい形に變つて来る。この状態を人間ばかりでなく、魚や鳥や、馬、猿などと比較してみると、六ヶ月頃までといふものは、どれがどれだか見分けのつかぬほど似てゐる。二ヶ月頃は全く同じ物であり、三ヶ月頃から若干相異して来るが猶見分けは困難である。かういふ成長過程から考へてみても、ダーウインが配列した生物進化の過程と殆んど一致するばかりでなく、少くとも脊推動物にあつては魚も牛も猿も人間も同一先祖から出て来たものであることが判る。一方これを骨格的に調べると、猿と人間とは實によく似てをりゴリラ等の類人猿は野蠻人の骨格と殆んど異らない。では猿の進化したものが人間で、現在の猿も何十萬年か後は人間になるのか、といふと、さうではない。先祖は同一であつても、今では猿は猿、人間は人間と全く異つて来てしまつた。化石の中にピテカントロプスエレクトゥス即ち猿人といふものが發見された。人でもなく猿

ことを「逐鹿戦」など云ふ。
朝三暮四 體裁のいゝことを云つて人を陥れたり、人を詐り弄ぶこと。宋の狙公は猿を澤山飼つて可愛がつてゐた。家財をその飼育に宛て、十分に食べさせてゐたが次第に乏しくなつたので慣らして食量を制限しようとしてドンダリの實を朝三つ晩四つにした所、猿が怒つたので朝四つ晩三つにする。と今度は喜んだ。一日に同じく七つでも與へ方によつて怒らしたりする。
重陽 九月九日の節句のこと。九は陽の數で、これを

でもなく、齒は人に似てゐるが頭は猿に似てをり、立つてはゐるが顔は殆んどゴリラみたいである。どうやら人間の祖先らしいといふ。かういふ中間物が存在したところから考へて、猿と人間とは兄弟であることが判る。既に兄弟であれば親があつた筈であり、親の親、その又親の親とたどつて行けば、體てはアミーバに達するわけである。然らばどうして今日のやうに多種多様なものが出来たか？ これに對してダーウインは自然淘汰説を述べ、適者生存により、環境に順應して變化して行くのだといふ。けれども、弟が人間となつたのに兄は何故猿となつたのか。その答へとして後世の學者は突然變異説をとき、突如として妙な不具者が生れ、それが子孫に遺傳しながら特長を發達させて行くのだといふ。いづれにせよ萬物進化といふことは間違ひないところらしい。

人間は何時頃發生したか

人間はアミーバから進化して猿になり、人間になつたのは何程前の事か、判然し

二つ重ねるから云ふ。菊花酒を飲み岡に登り詩を作つて祝つた。
朝令暮改 朝出した命令が夕方には變ること。命令の常に一定しないこと。

【ツ】

杜撰 誤りの多いこと。杜撰はよく詩を作つたが、その多くは種々の規定に合つてゐなかつた。それで杜撰の撰といふ所から出た語である。
恙なし 無事のこと。恙は病氣の意味であるが、又恙

た事は判らないが、今日人間らしい物の跟跡を最初に残してゐるネアンデタール人の石器は第四氷河期の地層に發掘されたから、彼等は五萬年以前に此の世に生活してゐた事が判る。ネアンデタール人は今日の人間とは全く種屬が違ひ、ゴリラよりは進歩してゐるが、殆んどゴリラに近い物であつたらしく、その次に現れた馴鹿人は三萬五千年ほど前の地層に遺跡を遺してをり、人間科の元祖ともいふべき爲が忽然として現れたのは、恐らく十萬年昔の事であらうし、今日の人間、我々の元祖が現れたのも、恐らく一萬年ほど昔のことだらうと云はれてゐる。

生物は何時頃發生したか

勿論想像であつて、學者によつては非常に開きが大きく、十六億年といふ人もあり、二千五百萬年といふ人もあり、まるで桁が違ふ。併し、中間をとつて妥當ではないかと思はれる説をとると、無生物から生物らしいものが出したのは約八千萬年前だらうといふ(始原代)、それから二千萬年ほどして水母や藻や苔のやうなものに

虫のことで、毒があつて噛まれると死ぬといふ。旅行者が道中でこの虫に噛まれぬやうにといふ所から出た語とも云ふ。

【七】

庭訓 家庭の教訓、家庭の掟。孔子が縁側に立つてゐると、その子の鯉が庭を走り過ぎようとしたので呼びとめて「詩を學んだか。詩を學ばなければ人情道理に通ぜず、人に對して物を言ふことが出来ぬ」と教へた。數日後又鯉が通り過ぎたので「禮を學んだか。禮を學

まで進化し、(始生代)、三千六百萬年前にヒトデ、三葉蟲その他脊推動物の先祖となるものが發生し、(初期古生代)、二千六百萬年ほど前に魚類や兩棲類が生れ(後期古生代)、千四百萬年前に、爬蟲類、羊齒、ソテツが出来(中生代)、四百萬年前頃に初めて今日の哺乳類や胎生動物が出来、魚類、肺魚、兩棲類、爬蟲類、鳥、一穴類、有袋類、貧齒類、齧齒類、游水類、有蹄類、翼手類、食蟲類、食肉類、猿類、人類となつたものらしい。

海水は何故鹹いか

海底に鹽の原料がある譯ではない。みな鹽を陸地から運び込むからである。元來生物は鹽分がなくては生存出来ない。故に身體を構成する要素の中には多量の鹽類がある。これが少しづつ溶けて出るから汗や涙は鹽鹹いのである。人間は鹽や醬油を食べるから鹽分のあることもうなづけるが、別に鹽をなめない野生の動物にも同様に鹽分がある。それは彼等の食ふ植物に既に多量の鹽分があるからであり、植

ばなければ動作に規律なく身を立てることが出来ぬ」と教へた。孔子は斯くその子に對しても門人と同じやうに直ぐその場で教へたので、孔子の側に居てこの事を知つてゐた伯魚が陳亢に語つて孔子の徳を賞した。庭で教へた所から出た語である。

鐵中の錚々 人物の相當に優れてゐること。大人物ではないが凡人中で出色の者の事。後漢の光武帝が西方の戎の赤眉を討つた時降服した赤眉の大臣の徐宣に向つて「降參したことを後悔

物は又地中から種々の鹽化物を吸収する。かうして地球上の凡る物が鹽分を持つてゐるので、その排泄物や死んで腐つて分解した鹽分などが地下水に溶けて流れ、この流れが川となつて海に注ぐ。そこで地球上の全ての水には多量の鹽分が含まれてゐるのだが、川は小さいから蒸發が少い上に、不斷に流れてゐるので、人間の舌に感ずるほど鹽分が濃くない。所が海は非常に廣く、猛烈に蒸發し、然も何處へも流れ去る所がないから、丁度鍋で煮つめたやうに鹽分が濃くなるのである。それなら、何故湖の水は鹹くないかといふと、湖は廣いやうでも海に比較すれば非常に狭い。だから蒸發が少い。しかも周囲の川からは不斷に水が流込んで鹽分を薄めてしまふから鹹くならない。所がアラビアにある死海などは、小さくても、流込む水の量が少く、しかも熱帯だから蒸發が激しいので、海よりも却つて數層倍鹹く、ために魚が棲むことが出来ず、人間が入ると安樂椅子に寝たやうにフワリと水面に寝られる(水の比重が重いから)今、海と川の水の鹽分を調べてみると、川は百萬分の五、海は百分の三だけ鹽が含まれてゐる。だから若し一萬石の川水が大鍋に入れ

せぬか」と尋ねると徐宣は「私は今虎口を遁れて慈母の懷に歸つた譯ですから此上の喜びはありません」と答へたので、帝は「卿は所謂鐵中の錚々、庸中の佼佼たる者なり」と。「庸中の佼佼」は凡庸な人物の中の目立つた人物の意。

轡鐔の急 目前に迫つた急莊周が食ふに困り監河侯に米を借りに行くと言河侯は年貢が入つたら三百兩貸さうといつた。莊周は怒り、「いま道の轡の中に鐔が一疋ゐて、私に少しの水をくれといつたから、私は吳越

て根氣よく煮詰めたとしたら、いつかは海水同様に鹹くなるだらう。

海の魚は何故鹽辛くならぬか

魚屋は生臭い。大工は木臭い。染物屋の手は黒い。寫眞屋の手は茶色い。それなのに何故海の魚は鹽辛くならないか。これは一種の不思議である。魚は鹽漬にすれば忽ち鹽辛くなるし、鹽を少し振りかけて焼いても鹽辛くなる。だのに鹽辛い海にゐても魚の肉は一向鹽辛くならない。その理由は、第一に海の水は鹽辛いといつても、鹽漬ほどに鹽辛くはない。次に魚には鱗といふ硬いものがあつて水や鹽を體肉に滲み込ませない。鱗のないものでも、その作用をする皮膚があるから、鹽の滲みこむことを防ぐ。次に魚は鹽辛い水をいつも飲んでゐるが、あれは腹の中へ入るのではなく、鰓から直ぐ吐き出してしまふ。たゞ水中にある空氣を取つてゐるだけで決して水を飲んでゐるのではない。勿論若干の水は飲む。けれども胃袋や腸はこれを消化するから決してそのまゝの形では吸収しない。若し魚が鹽辛い水を飲むから

へ行、から西江の水を澤山持つて来てやらうといふと君が西江から歸る頃には私は乾物屋の店頭にゐるだらうといつた」と物語り、今日の米を借りた。

天衣無縫 詩や文章がうまく自然であること。郭翰といふ人が夏に庭で寝てゐると、天から人が降りて来て「われは天の織女である」とそこで着物を見ると縫目がないので怪しむと、天上の着物は針で縫ふのではないと答へた。天衣を詩文に譬へたもの。

椽大の筆 立派な文章、大

肉も鹽辛からうと考へる人があつたら、自分等人間のことを思ふがよい。人間は鹽氣のあるものばかり食べてゐるが、我々の肉は恐らく鹽辛くあるまいことは想像出来る。魚を漬けたり焼いたりして鹽辛くなるのは鱗や皮膚や消化器官が破れて、直接肉へ鹽が滲み込むからである。

魚は夜眠るか

鳥や獸物は眠る時には眼を閉ぢるが、魚は閉ぢない。魚や蟲は普段から目ばたきをせず、一切眼を閉ぢるといふことがない。従つて眠つてゐるのか居ないのか、眼を見ただけでは判らない。けれども魚も、蟲も、夜になればデツとしてゐる動かなくなる。金魚や鯉は巢を作つておいてやると、夜になればその中へ入りに行く。やはり眠りに行くのに相違ない。

魚に耳があるか

文章の意。晋の王詢は或時大きな椽のやうな筆を貫つた夢を見た。夢が覺めて人に「何か大きな文章を書く必要が起るかも知れぬ」と語つたが、間もなく武帝が崩じ、帝を悼む文や弔ひの文等を彼が皆書いたので夢が當つた譯である。

天網恢々疎にして漏さず

天は嚴正で悪事には必ず悪い報いを與へるの意。老子にある有名な語で、天の網は大きく目があらくて漏れるやうであるが決して漏らすことなく、悪報善報は必ずあるものである。

魚には耳がない。けれども音は聞える。池の鯉は手を叩けば集つて来る。音が聞える證據である。魚は音を腹の兩側にある側線で聞く。大抵の魚は、背と腹との境界に、頭から尻尾まで通つた條がある。鱗の形は別段變つてゐないが、色が變つてゐる。これが側線で、側線は、音によつて生じた水の震動を鋭く感知する。一體音は空中よりも水中の方が微妙に、迅速に、しかも速くまで傳はるものだ。だから魚は音に非常に敏感である。

駱駝の瘤は何の爲にあるか

駱駝の背中の瘤は一つある種類と二つある種類とがある。中に水が入つてゐて、水が缺乏した場合に、自然にそれを體內に廻して渴を醫するのだと考へてゐる人がある。併し實際の駱駝の水袋は首の下の邊にあり、背中の瘤はたゞの脂肪の塊である。併し決して伊達にあるのではなく、沙漠の中で食物を失くして愈々困つた時自然と此の脂肪を溶かして體內へ廻し、養分とするので、水袋と同時に駱駝の用意周到さを代表したものである。

象の墓場は何處にあるか

象は何處で死ぬか？ これは今だに世界七不思議の一つである。象は世界に幾十萬匹居るか判らないが、未だ曾て象の死骸を見た人がない。象だつて不老不死である筈はなく、何時かは何處かで死ぬだらうに、誰も死骸どころか、その骨の横はつてゐる所を見た人がない。そこで人々は、象には人に知られぬ一定の墓場があり、其處へ行つて死ぬのだらう。だから其の墓場へ行けば何百萬本といふ象牙が轉がつてゐるだらうといふので、世界中の探險家が躍起となつて探してゐるが、まだ見つからない。不思議な動物である。

動物の壽命はどの位か

餘り正確とはいへないが、種々な研究や考證や推定等の發表を綜合すると大體次

【ト】

登選 天子の崩御せられること。遐は遠の意で、遙かな天に登り給ふの意。

東道の主 主人となつて客をもてなし又、案内をすること。「左傳」に鄭の燭之武が秦の君に會つて「若し私を東道の主とし、使者等が來た時その世話をさせてくれるならば君も亦好都合であらう」と云つたとある。

鄭は秦の東にあるから東道と云つたのである。

登龍門 立身出世する道。龍門は黄河の上流にある急

ぬかれる譬へ。小盗人や拘摸などは直ぐつかまつて罰せられるが、巧みに法律の網を潜つてゐる大悪人、大奸物が却て罪を免れてゐることが多い。

【ナ】

長鞭馬腹に及ばず 鞭はいくら長くても腹までは打てない、力があつても無用なことに用ふべきでないといふこと。
南柯の夢 夢のこと。淳于棼は廣陵に住んでゐたが或時その家の南にある槐の

栗鼠	狐	蟬	猫	猿	家鶏	カナリヤ	蟾蜍	狼	牛	豹	虎	孔雀	
九一五	一五	二日一七日	一八	一六一九	二〇	一七二〇	二〇	二〇	二〇	二五	二五	二四	
鯉	紙切蟲	鱒	鼠	蟻の雌	兎	蝸牛	シミ	羊	牡蠣	田螺	蝶	蛙	烏貝
四	六	六	六	七八	七八	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一四
蠅	オサ蟲	鍬形蟲	紋白蝶	蚕	蜻蛉	コホロギ	蜂	蜘蛛	蜜蜂女王	ナメクジ	玉蟲幼蟲		
八日	一四日	一四日	四〇日	三月	一〇一五日	三二〇日	五月	二時間	一一二	二一三	三	三	

な流れの地で、鯉が此處に登つて上流に行けば龍になるといふ所から、官に仕へて出世することに譬ふ。
塗炭の苦 塗は泥、炭は火。泥と火の苦しみ、非常な苦しみのこと。
圖南の翼 遠方の地で大事業をなさうとすること。鵬といふ鳥は背は山の如く翼は天から下る雲のやうである。翼をひろげて高く飛揚するの南に向つて飛んで行き大に志をのべて事をなさんといふ姿勢である。
香舟の魚を漏す 小盗は捕へられ大盗は却て法網をま

の通りである。

しやこ	鰓魚	鵝	烏	鳶	鷺	鯉	鸚鵡	隼	象	鯨	龜	種類
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一一八	七〇一三〇	一五〇	一〇〇一五〇	一六〇	一五〇二〇〇	二五〇	二〇〇一三〇〇	壽命
鳩	熊	海狸	駝	路	鰻	獅子	磯巾着	鴉	鶴	鸞	川眞珠	種類
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	六〇	六〇	四〇七〇	六〇七〇	七〇	八〇	九〇	壽命
豚	鹿	犬	馬	蛙	金魚	鰐	郭公	驢馬	ベリカン	鷓鴣	鯰	種類
二〇一三〇	二〇一三〇	二二一三〇	二二一三〇	一五一三六	四〇	四〇	四〇	二五五〇	四〇一五〇	四〇一五〇	五〇	壽命

大木の下に酔つて寝た。すると夢の中に二人の者が現れて「大槐安國王の迎へである」と誘つたので穴に入つて王に謁した。王は「南柯郡の政事が治らぬ故に汝を其郡主として治めさせよう」と。かくて郡主となつて二十年、任を果して歸つたと思ふと夢が覺めた。そこで槐の下の穴を掘ると中は廣くて明るく、大きな蟻がゐるがこれは蟻の王であつた。又別の穴を進むと南柯(柯は枝、南方に出た枝)に上つた。此處は郡主となつて行つた處だつたので初めて夢の意味を覺つたとい

樹木はどの位長生きするか

林學博士本多静六氏が我國の樹木について發表した所によれば、次の通りである。
千 年——樟、杉、椎、公孫樹、櫻、檜、びやくしん、榧、ひば。
八百年——松、榕樹、こなら。
七百年——栎、玉樟。
六百年——榧、桂、棕、さはら。
五百年——たぶ、櫻、榎、しほぢ、榭、榿、榿、落葉松、あかしで、栗。
四百年——柳、えんじゆ、櫟、かちだも、青桐、梧桐、楓、さいかち、桑。
三百年——梅、はる楡。
世界を通じて古い木といへばアフリカにあるパンヤ科のバオバフで、六千年といはれ、シシリー島のエトナにある百馬の栗といふ巨木も四千年内外を経、周圍百五十尺餘あり、臺灣の阿里山の神木といはれるサワラも二千年はたつてゐるようといふ

ふ。「槐安の夢」とも云ふ。
南船北馬 あちこちと駆け廻つて任務をつくすこと。
東奔西走に同じ。支那では南は川が多くて船の交通が便であり北は山が多いので馬に乗つて交通の便をはかる所から出た語である。
南風競はず 南方の國(我國では南朝をいふ)の勢力が衰へて振はないこと。
南面 天子の位のこと。天子の座は南に向ふ所から云ふ。易經に「聖人をきく南面して天下の事をきく南は日が射して明るいから明るい方に向つて治めるの

事である。

世界中の大木と小木は何か

コンスタンチノーブルの近所にあるブレイツリーは世界一の大木といはれ、幹の高さは百尺しかないが、周圍は百六十五尺、直徑五十五尺、これを切れば切口に疊が百枚敷ける。カナリー群島中のテネリフ島にある龍血樹は百合科に屬するものであるが、直徑四十二尺あり、米國のカリフォルニアのシラネバタ山中にあるワウオナは、高さ四百尺、周圍百二十尺、根本にトンネルを穿つて馬車や自動車を通り、或る枯れた木の切株の上は廣いダンスホールになつてゐる。年齢は多分三千年以上だらうといふこと。
背の高い木では、濠洲のカルボンにあるセイタカユーカリで、高さ五百尺、周圍八十尺、一番背の低い小さな木は我が國にあるヂムカデといふ高山植物で、苔のやうに地面を這つてゐるが、春になると淡紅色の可愛らしい花を咲かせる。小笠原諸

である」とある。我國でもこれにならつて陛下の御座所は南向きに造られてある又これに對して上皇の御殿は北面して造られ上皇に仕へる武士を「北面の武士」と云つた。

【ネ】

拈華微笑 言葉の説明を待たずして深遠な道理を覺る事。釋迦が或時弟子達を集めてその前で華を拈つた。弟子達は大勢居たが誰もその意を覺る者はなかつた。その時迦葉が唯一人微笑したので釋迦は「迦葉だけが

島の母島にはウドの大木がある。周圍十二尺、直徑四尺といふ大ウドだが、水分が多く切つて乾かすとズイキのやうに萎びてしまふ。文字通り役にも立たぬウドの大木である。

螢は何で光るのか

光には大抵熱を伴ふ。ところが燐と螢の尻だけは全く熱がない。だから螢の光は一種の燐だらうと云はれた時代もあつたが、今日では燐でないことが判つた。然らば何かといふことは残念ながらまだ判明してゐない。

傳書鳩の通信力

傳書鳩の通信力は確實な所は百キロ乃至百二十キロ（三十里）以内とされてゐるが、我國の最高記録は、函館東京間七百キロ（約百七十五里）を十三時間で飛んだものであり、滿洲事變には軍用鳩が二百七十キロを二十八時間で翔破して使命を全

うした記録があり、世界的なものである。

傳書鳩は何故歸るか

傳書鳩は五百斤六百斤の遠方にでも歸つて行く。どんな能力があつて歸つて行くのか今でも疑問となつてゐる。傳書鳩の飛び方を觀察すると、一旦百米から三百米ほどの上空に舞上り、上空を數回クルクル廻つてから方向をきめて飛び去る。だから彼女は視力が素晴しくて、眼で見得る事から方向を定めるのだらうといふ説（視力説）もあるが、それにしても百里二百里の先まで見る事は不可能（たとへ視力は可能でも、その間に障害物もあり、地球は丸いから見通す事は出来ぬ筈）だらう。そこで波動説を唱へる人がある。鳩の巢からは一種の波動が發散してをり、それが空間に傳はつて彼女等に判るのだらうといふのである。第三には逆行説で、どんな遠い所へ運搬しても、沿道の風景を判然記憶する能力があり、それは夜でも、眠つてゐても働いてゐるのだらうといふのであるが、どれも餘り信用がおけない。

私の本當の心を覺つたのだ」とて彼に佛教の眞理を授けたといふ故事から出た語で、禪宗の淵源となる。

【ハ】

枚を銜む 軍隊が忍んで敵に近づくこと。枚は箸の形をした木で、兩端に紐をつけて口にくはへさせ、その紐で頭の後に結へつける。夜討などの時に聲を出さぬ爲めに用ひたもの。
背水の陣 覺悟を決めて全力をつくして勝敗を決すること。韓信が王趙歇を攻めた時、味方の軍に決死の覺

悟で戦はせんがため川を渡つて戦つた。退却すれば水に溺れるので前進するより道がない。
莫逆の交 親友のこと。莫は打消しの意味で、莊子に「心に逆ふこと莫く共に友となる」とある。
白玉樓中の人となる 文章家の死に譬ふ。唐の詩人李賀が臨終にあつて夢を見たが、夢の中に天使が現れ「天上に白玉樓が完成した。上帝が君を召してその記を作らせようとされてゐるから早く來られよ」といふのを聞いて間もなく死んだ。

日常の物理學

電氣の交流と直流の相違

稀硫酸の中へ銅板と亜鉛板を入れ、その兩端を針金でつなぐと、銅板の方に陽電氣が起り、亜鉛板の方に陰電氣が起つて陽電氣は針金を傳つて陰電氣の方へ流れ、陰電氣は稀硫酸を通して銅板の方へ流れ、かうして電流は環狀をして不斷に流れる。これはその方向が一定してゐるから直流である。又、南北兩極の磁石を近づけ、その中央へ一本の針金を置いて上下に動かすと、矢張り電流が生じるが、これは、動かす度に電流の方向が變る。併し間斷なく速く動かしてゐれば、流れの方向は變りながらも間斷なく電氣が流れてゐることになる。これを交流といひ、發電機は此の原理を應用して交流電氣を起してゐる。だから發電所で起す電氣はみな交流であり、これは送電、變壓に便利だから一層喜ばれ、大抵の電氣器具、機械は交流

伯仲の間 殆ど優劣のないこと。同じ位といふこと。伯は兄、仲は仲兄で弟。兄弟のやうに殆ど同様のことをいふ。

白眉 兄弟の中で一番優れたもの。又多くの人の中で秀でたもの。馬良は字を季常といつて五人兄弟の中の長兄であつた。兄弟五人とも常の字がついた名なので世人は五常と呼んだ。その中で季常が最も秀でてゐたが、彼の眉の中に白毛があつたので時人は「馬氏の五常、白眉最も良し」と云つた。

を用ひるが、電車、電氣分解、孤燈などは直流でなければならぬので、交流を直流になほして使ふ。このなほす場所を變電所といつてゐる。壓力をなほす所は變壓所である。

電流と電壓はどう違ふか

電氣に關する言葉に、アムペア、ボルト、オーム、ワット等いふのがある。ボルトは電氣の壓力、即ち電壓を計る單位の名であり、オームは、電氣が流れようとするのを通すまいとする性質、即ち電氣抵抗を計る單位であり、アムペアは電流の量を計る單位名で、一ボルトの電壓を以て一オームの抵抗を通して流す時の量である。今この三つを水に例へるならば、一定の間隔に於て或る高さを水が流れ下りようとする時、その高さが大きければ大きいほど水の落ちる力は大きくなる。緩流よりも急流、急流よりも瀧の方が水の力が強いだらう。これと同様に、陰陽兩電氣の差が大きければ大きいほど電壓（ボルト）は大きくなる。オームは川岸のやうなもので

伯樂 馬の良否を見分けることの上手なもの。又馬の醫者のことにも用ふ。伯樂は元來星の名で、この星は天馬をつかさどるといふ。孫陽といふ人は馬をよく取扱つたのでこれを自分の名とした。「伯樂既に歿し驥(名馬のこと)はたいづくにはからん」等と云つて、名馬も伯樂に會はなければその能力を現すことが出来ないやうに、賢人も名君に見出されなければ才能を振ふことが出来ないことに譬ふ

馬耳東風 人の意見や批評など少しも氣にとめないこと

川岸が廣ければ廣いほど水は抵抗を受けずに緩やかに流れるだらうが、狭いと強い抵抗を受け、押し合ひ揉み合つて流れる。電氣も同様で、針金が太いほど抵抗が少い。アムペアは、一定の川幅を一定の傾斜で流れる水の量といつたやうなものである。だから、一定の太さの針金には一定の電流しか通せない。多く通しすぎると抵抗が大きくなり、支へ切れなくなつて、焼切れてしまふ。ワットとは、電氣のなす仕事の單位で、一ボルトの電壓を有する二點間を一アムペアの電流が一秒間に流れる場合になす仕事を一ワットといふ。だからボルトにアムペアを掛けたものがワットとなる。

テレビジョンの原理

テレビジョンは電送寫眞の一種であるが、普通の電送寫眞が一枚の撮影された寫眞を電氣装置によつて離れた所へ送らうといふのに對し、テレビジョンでは、時々刻々に動きつゝ變化して行く被寫體を機械に受け、これを直ちにそのまゝ電送しよ

と。東風が吹いても馬の耳には一向に感じないの意。

馬謖を斬る どんな寵臣でも法を犯した者は涙をのんで處刑するといふこと。蜀の劉備に重く用ひられた諸葛亮は宰相となり、政に公平であつた。馬謖は亮に才能を見出されて事へてゐたが命令に違つて敗戦したので、亮は如何に愛する部下でも軍法は曲げられぬとて泣いてこれを斬り、その遺族を憐んで世話した。

破竹の勢 非常な勢。竹に刃を當てゝ二三節割ると、後は自然に勢よく裂けて行

うとするものであつて、謂はゞ活動寫眞から現像、焼付、配給、映寫の手續をはぶき、撮影そのまゝをスクリーンに寫し出さうとするものである。テレビジョンは世界が競つて實用化に努めてをり、幾多の様式があり、我國だけでも早大式、濱工式、逓信省式等の代表的なものがある。その理論は、被寫體を數千乃至數萬の繪素に分け、これを光電管に受取り、光の強弱によつて電流の時間的變化に變へ、これを有線又は無線で送電すると、受信機の方では丁度發信器と全く逆な装置があり、電流の時間的變化を光の強弱になほし、これを繪素に綜合してスクリーンに映し出すのである。

ラヂオの波長とはどんなものか

池の中へ蛙が飛込めば水面に波紋が出来る。波紋は水面に山が次々に出來て擴がつて行くのであるが、蛙の大きさにより、山と山との間に大小が出来る。その山と山との間隔を波長といふ。ラヂオは電氣を放電して空中に電氣の波紋を作り、その

くの譬ふ。

拔山蓋世「力山を抜き氣は世を蓋ふ」の略で、非常な勢、又は一世を吞む意氣。楚王項羽が高祖のために垓下といふ所で包圍された時今はこれまでと観念して歌つた悲詩の一句である。四面楚歌の項参照。

根本(源) 物事の根源に遡つて正しく處置すること。姑息の手段を用ひないで根本的に解決すること。しかしこの句は元來、物事の本源を塞ぎ上を蔑ろにして顧みないといふ意であ

波紋をアンテナに受けて受信するのであるが、電波の波長が百五十メートル以上のものを長波長、百メートル以下十メートル迄を短波長、十メートル以下を超短波長といひ、長きは數萬メートルから短かきは數十センチまであり、普通のラヂオ用としては二百乃至五百メートルであるが、外國放送又は近距離放送には短波長が用ひられ、テレビジョンは超短波長が用ひられる。

ネオンサインの色は何から出るか

電光に色をつけようと思へば、從來は、電球のガラスを染めたり、塗料を塗つたり、ゼラチン紙をかぶせたりし、光そのものには殆んど色の區別がなかつた。所が真空管の中へネオン瓦斯を密封し、これに電流を通じると、美しい牙えた赤色の光を放射する。これは光そのものが赤いので、ネオン瓦斯が魔術の種子だからネオン・サインと名づけられた。今日ではこれに似たもので青・紫・黄・緑・桃色など種々な色を出すやうになつたが、それはみな真空管の中へ入れる瓦斯の性質を變へ

るが後世意味が變つた。破天荒 未だ嘗て例のないことをすること。元來はまだ才能ある人の出たことのない地から初めて人才の出ることをいふ。唐の荊州の地には未だ嘗て文官試験に及第する者が出なかつたので、天荒(人智の開けないこと)と云はれてゐたが、劉蛻が及第したので此の天荒を破つたといふ所から出た語である。

反問苦肉の計 敵の間者を利用して敵の計略の裏をかく事。

盤根錯節 わだかまつた根

ることによつて種々な色を出すので、一般には總稱してネオン・サインと呼んでゐるが、ネオン瓦斯ではないのだから、正しくはネオン・サインではない。即ち白色は炭酸瓦斯、黄は窒素、紫は水銀蒸氣等である。

眼に見えぬ光線

光線は、人間の眼に見えるものと見えぬものとがある。それは波長が違ふからであまり波長が長いものや短いものは見えない。同じ可視線の中にも幾多の波長の相違があり、長いものから順にいふと、赤・橙・黄・緑・青・藍・堇となる。太陽の光線をスペクトルに通すと虹のやうに此の順序で光線が分解されるだらう。その時色と色との間に黒くて見えぬ所がある。こゝには眼に見えぬ光線が通つてゐる。紫外線は波長が堇よりも短いもので、紫色の光線の中に多く含まれてゐる。これは皮膚を焼けさせたり、細菌を殺したり、血球を變化させたり、新陳代謝を促進したり、病氣への抵抗力を増したりするので病氣療法として用ひられる。日光浴のよい

と入りまじつた節といふこと
とで入りくんで處理しにく
い事件を云ふ。虞詡が叛賊
が常に起つて治めにくい朝
歌といふ所の長官になつた
時「盤根錯節にあつてそれ
を切つて見なければよく切
れる双物であるかどうかは
分らない」と云つた。

萬乗の君 一天萬乗の君、
天子のこと。周の時代には
天子はその直轄地内から兵
車一萬輛を出すことの出来
る地、即ち千里四方を領有
してゐた。車一臺を乗とい
ひ、領地の大小を兵車の數
で現し、諸侯は千乗、諸侯

のもその爲である。併し眼に多く入ると盲膜をこわす。普通寫眞の乾板は紫外線で
寫すものである。所が最近赤外光線寫眞を時々見受ける。これだと八十キロ（二
十里）先のものまでハッキリ寫すことが出来るので、軍用として喜ばれてゐる。
赤外光線は赤よりも波長の長いもので、眼には見えない。

殺人光線は實際にあるか

光線を放射して地雷等を爆破したり、目的物を焼拂つたり、敵軍を撃殺したり出
来たならば、これほど都合なことはない。それは理論上不可能ではない。だから
各國とも軍隊では大いにその研究に努めてゐるが、まだ今日の所では實用にたえる
ものは出来てゐないやうである。今でも敵軍の眼をくらます、一時的又は半永久的
に盲目にする位の事は出来ぬわけではないが、塹壕戦となつた今日、それほどの點
まで實效があるかどうか疑問で、まだ使用されてゐない。併し遠からぬ將來に於て
必ずや實現するだらう。

の大夫は百乗とした。
萬綠叢中紅一點 多くの草
の中に咲いた一つの紅い花
といふことで、澤山のつま
らぬものの中の一つの秀れ
たもの、又男ばかりの中に
一人混る女の意味に用ふ。

【七】

鬚を拂ふ「鬚の塵を拂ふ」
とも云ひ、こびへつらふこ
と。宋の寇準が宰相となつ
た時、その門下生の丁謂は
參知政事となつて準に事へ
た。或時役所で會食したが
準が吸物で鬚をよごすと、

飛行機はどうして飛ぶか

風船は中に空氣よりも軽い水素瓦斯を入れてあるから空中に浮く。併し飛行機は
さういふものがないから空氣よりも斷然重い。だから何よりも先づこれを空中に浮
かせる工夫をしなくてはならぬ。風は空氣よりも重い。だが空中に上る。それは風
に風が當り、風の力で風を持上げるからである。今假に風ほどあるブリキ板を水中
に入れて見るがよい。勿論沈んでしまふ。所がブリキ板の向ふ側を斜めに上げてグ
ツと前へ押してやると板はズツと持つて水中から出てしまふ。水の力が働いて
下から持つ上げるからである。風も上手に糸をつけると丁度いゝ加減に斜めになるか
ら風が水平に當つてもブリキ板の水の場合と同様に上へ持つ上げる力が働く。飛行機
もこれと同様である。飛行機の翼は必ず水平ではなく、前方を持ち上げ、後方に垂れ
てゐる。即ち適當の傾斜をしてゐるのである。だから前方から風が當ると、風は持
上げてくれる。然も翼は所謂流線型をなし、前方が厚く、後方が薄い。そこで翼の

謂は立つて行つてその汚れを拭いてやつた。すると準は怒つて「參知政事は政治を行ふ大事な役人ではないか。なんで自分のために鬚を拂ふ役までするのか」と。謂は大に恥ぢ、そして準を怨むやうになつた。

上面に當つた風は上へ弾ちかれて行つてしまひ、翼の上面後方半分ほどの所に眞空が出来る。眞空が出来ると空氣の壓力によつて物がその方に吸ひ寄せられる力が生ずる。そこで翼は上方へ吸ひ寄せられる。此の上方へ吸寄せられる力と、下から持上げる力とが働くから、總重量何十噸といふやうな大飛行機でもグン／＼上昇するのである。併し何分にも重いものだから生優しい風の力では上昇しない。よほど強い向ひ風でなければならぬ。秒速十米や二十米位の風では到底持上げられない。秒速五十米の記録的大暴風にしても時速にすれば漸く百八十米にすぎない。この位の風なら持上げることは出来るが、風は注文通りの方向に吹いてはくれないから困る。そこで注文通りの風を起すためにプロペラが工夫されたのである。船はスクリューで水を蹴つて走る。プロペラも同様に空氣を蹴る。蹴るから飛行機は前へ進む。進むから風が當る。そこで汽車が走れば地面が後方へ流れて行くやうに、空氣は少しも動かなくても、飛行機の進むだけの速さで風が吹きつけたと同様の働きをする。飛行機が時速百料を出せば空中には百料の暴風が吹いてゐるのと同じことになる。

りした。
脾肉の歎 軍人が久しく戦争がないので手柄を立てたにも機會がなく空しく過ぎすのを歎く意。劉備が汝南から歸つて劉表と會見した時急に便所へ行つたが、戻つて来て涙を流した。表が怪しんで尋ねると「軍人は常に馬に乗つてゐれば脾(股の肉)はすれて瘦せるが、今は太平だから馬に乗つて戦場をかけ廻ることもないので股の肉がついた。日月が過ぎるやうに年をとるのに、功を立てることも出来ない。それが悲しいの

プロペラの巻き起す風は丁度それだけの風力を持つてゐるわけである。然もその風は何時でも注文通りの方向から吹いてくれるので、飛行機は何時も前へ前へと飛ぶことが出来るのである。

飛行機の方向はどうして變へるか

船の方向を變へるには舳の方に舵があり、舵板の先端を動かした方向へ向きを變へることが出来る。飛行機も同様である。飛行機の尾部には方向舵と昇降舵が附いてゐる。水平になつてゐる部分が昇降舵で、垂直に立つてゐるのが方向舵である。方向舵の先端を左へ曲げれば飛行機は左へ曲り、舵を右へ曲げれば機も右へ曲る。けれども方向舵を曲げただけでは急速に方向變換をすることが出来ない。そこで補助翼の力をも借りる。補助翼とは飛行機の兩翼の後方に細長く附いてゐるもので、これが上へでも下へでも曲るやうに蝶番になつてゐる。右へ曲る時には、飛行士は方向舵を右に曲げると同時に右の補助翼を上へ曲げ、左の補助翼を下へ曲げると、

だ」と。
百尺竿頭一步進む 百尺竿頭は百尺の竿の尖で、物事の達する最上の所を云ふ。従つて最上の所に達してゐても更に頑張つて一步を進めて行くこと。

豹變 性格や行ひが全く變ること。易經に「豹の皮の毛が抜け變つて美しい模様をつくるやうに、君子たる者は悪い事を改めて善い方にうつり變るものである」と。

比翼の契 夫婦の情愛の深いこと。白樂天の長恨歌の中に「天に在つては比翼の

機はグリーンと急速に右曲りをする。反對に左廻りの時は、左の補助翼を上げ、右の補助翼を下げ、而して方向舵を左へ曲げるのである。上昇する時は、尾部の昇降舵の先端に蝶番で附いてゐる補助翼のやうなものを上へ上げ、下降する時はそれを下げる。これ等のものを巧みに利用することによつて飛行機は横轉、逆轉、宙返り、横送り、木の葉落し、錐もみ等をすることが出来るのである。

茶碗に熱湯を注ぐと何故割れるか

物體は全て熱に會へば膨脹する。茶碗も同様である。所で茶碗には一定の厚みがあり、加へられた熱がその厚み全體に通るまでには幾秒かの時間を要する。所が今急に熱湯を注ぐと、熱を受けた内側の部分は、あわてゝ膨脹するが、冷え切つて縮こまつてゐる外側の部分はまだそのまゝで居ようとする。そこで平均が保てなくなり、ピンと割れてしまふので、徳利や瓶を急に熱湯の中へ入れた場合も同様である。この現象は物が冷え切つてゐる冬に殊に多い。だから熱湯を入れた場合には、一

鳥となり、地に在つては願はくば連理の枝とならん」とあるが、これは唐の玄宗が皇后楊貴妃と七夕の星の話から深い契を結んだ時のことを歌つたものである。比翼鳥は鴨に似た鳥で、翼をならべて飛ぶ故にかく名づく。

牝雞晨を告げる 妻が夫の権利を奪ふこと。周の武王曰く「古人が『雌の鶏はときをつくる事はないものだ。それが早朝啼くのは逆になるのだ』と云つてゐるが、商王が位を受けるのは婦人の云ふことを聞きいれ

且中間の熱で茶碗を温めておき、その後で熱湯を注ぐがよい。新しい茶碗は一度煮ると持ちがよいと昔からいはれてゐるが、それは嘘である。嘘だと思つたら寒い日に試してみるがよい。品物によつて割れ易いものと割れ難いものがあるのは、その質の強靱性や弾力性によることで、煮る煮ないに關係はない。

鬼火は實際にあるか

狐が火を點す、幽霊の出る時には火が燃える、火玉が飛ぶ、など云つて昔から鬼火や怪火の出た話は幾らもある。確かにそれはある。別に狐や幽霊のセイではないが、火のない所に怪火が燃える事は事實だ。試みに苛性ソーダの濃液を瓶に半分程入れ、これへ黄燐の小さい塊を入れ、栓をして熱し、發生した瓦斯を細い硝子管で微温湯の中に導くと、瓦斯は水中で大きな泡となり、水上へ浮上つてパツと散る。その時アラ不思議や、水上二三厘の所で怪しい火がメラメラと燃える。鬼火や人魂の正體はこれである。もつと簡単に鬼火を見たかつたら、蒲鉾の腐敗したのを暗中に

たためで、逆になるのであるから、今後はきつと衰へるであらう」と。

貧者の一燈 富める者が上げる澤山の燈明よりも貧しい者が不自由の中から上げるたゞ一つの燈明の方が尊く、その志も立派であるといふこと。貧者の僅かではあつても心からの恵みのこと。或る貧乏な老婆が佛前に燈明を供へようとしたがそれさへ出来なかつたので「生前佛に供養することも出来なくては死んでからどうなるだらう」と歎いて、毎日通行人から恵んで貰つ

置けばよい。即ち黄燐や燐化水素は空中で自ら燃えるが、少しの水を加へられると一層よく燃える。人體には燐が多い。屍體が腐敗すると燐が遊離する。そこへシヨボ／＼雨が降ると墓場の上へ人魂となつて浮かび出る。雨天でなくても出るが、小雨の時、殊に生暖い日には一層よく燃える。人魂が醒い風の吹く春雨の降る日に出易いのはそのためである。併し鬼火の中には、その他に發光バクテリアや光の蜃氣樓から起るものが多く、九州有明灣の不知火は一種の蜃氣樓であることが判つた。

幽霊はほんとうに出るか

幽霊にも種々ある。足の有るもの、無いもの、音だけのもの、感じだけのもの等古今東西、幽霊に逢つた話は多い。一人だけに見えて他に見えぬもの、何人か同時に見るもの等だが、果して幽霊は出るかといふと、科學的には出ないといふよりほかはない。幽霊は大抵或る特定の人だけに見え、然も夜や夕方や淋しい場所に定つてゐる。かういふ場所では、人間は大抵意識がボンヤリしてゐたり、夢幻の境に

て油を二錢宛買つた。油屋が不思議に思つて聞くと、「佛に供へるのだ」といふので同情して値段よりまけてやつた。老婆が持ち歸つて佛前に點すと、油が無くなつても灯は消えなかつた。これは佛がその心を汲み入れたのである。

【7】

風樹の歎 父母を失つた悲しみ。木が静まらうとしても風が止まねばどうすることも出来ない。子が親に孝行したいと思つても親はそれまで生き長らへない。過

ゐたり、心が一つの事に統一されてゐたりする。そこで或る人の事を思ひつめてゐると、その人の幻を見るだらうし、夢幻の境にゐれば半分眼を開いてゐて夢を見るだらうし、意識がハッキリしてゐない時には似もつかぬ物をも人の姿と思ひ違へる。殊に良心の苛責を受けてゐる人は幻影を描き易い。客觀的に、冷靜に研究してみれば不思議でも何でもないことを不思議にしてしまふ心が、幽霊や狐狸の傳説となるのである。

靈魂は何時までも残るか

人は死んでも魂は残る。昔から靈魂は不滅だといふ。併し果して不滅であるか無いか現在の科學では判らないといふのが正直な解答であらう。靈魂不滅の實證(?)は古來幾百千となく擧げられてゐる。併しまだ科學的に靈魂を試験管内に捕へた人はないのだから、無いともいへる。けれども今日の科學はまだ宇宙の全ての謎を解いたわけではないから、何年かの後には靈魂捕獲に成功するかも知れない。それは

武陵桃源 世間の煩雜を離れた別天地。「桃源郷」なども云ふ。晋の時代、武陵といふ所に一人の漁師が居た。或日谷川に沿つて上ると桃の花の咲いてゐる林に出た。更に行くと林は盡きて水源に一つの山があつて小さな入口があり、入つて暫く行くと廣々と開けて人が楽しく住んでゐる。漁師を見て驚いたが、その人の云ふ所によると、秦の亂を避けて此處に來たのだと。そして「今は何の世か」と尋ねた。即ち彼等は時代のことすらぬほど遠く離れた地に隠れ住んでゐたの

無線電	一九二六	ベアト	米	國
飛行機	一九〇三	ライ	米	國
ラヂウム	一八九八	キユリ	佛	國
テレビジョン	一九二六	マユニ	伊	國

日常生理學の知識

子供はどういふ風に受胎するか

婦人が成長すると卵巣が活動し初め、一ヶ月に一個づつ成熟した卵子を喇叭管内に排出する。喇叭管内には纖毛といふ柔かな毛が常に子宮に向つて靡いてゐるのでこの力に送られて卵子は徐々に子宮の方向に進んで行く。丁度その時男性の精子が陰内に注入されると、何億といふ精子は自ら尾を振つて前進し、子宮を通過して喇叭管内に進み、此處で卵子と出會ふ。併し卵子は非常に貞操堅固で、容易に精子

だ。漁師は世の移り變つた次第を詳しく話して別れを告げ、歸つて知事に話すと直ぐ人をやつて調べさせたが、道に迷つてどうしても行かれなかつた。
不惑 四十歳を云ふ。孔子の語から出たもので、人は四十になれば物の道理を見究めることも出来るやうになり、どんな事に出會つても疑つたり迷つたりしなくなるの意。
刎頸の交 生死を共にし頸を刎ねられても悔いしないほど親しい友のこと。固く結ばれて決してかはることな

の求婚に應ぜず、非常に氣に入つた精子がゐた場合、何百何千と群がりよる精子群の中から、氣に入つた精子たつた一人にだけ握手を許す。これは言葉の形容だけではなく、文字通り握手でもするかのやうに、丸い卵の外皮の一部分が柔かく膨らんで精子の入り易いやうにしてやる。精子は勇躍して外皮を喰ひ破つて中へ入る。これが受胎したのである。若し氣に入つた精子がゐないか或は卵子が喇叭管内にゐる時に精子が來なければ受胎はない。さて受胎した卵子は、活潑に分離を始める。一體精子と卵子とは一個の完全な細胞ではあるが、その中には二十四個づつゝの染色體（これは後述する）しか持たず、二つが合して四十八個となつて初めて完全な人間の細胞となるのである。而してこの細胞は、アメーバのやうに自分の體を分離しては數を増して行く。即ち一個の細胞は二個に、二個は四個、四個は八個にと、倍々になつて行き、細胞の數を増す毎に成長して行くのであるが、成長しながらも子宮への進行運動は止めず、遂に子宮に達し、内部の適當な場所を見つけて此處に止まる。子宮ではその頃内部の内膜が一層柔かくなつて受精卵の來るのを待ち構へてをり、

き交友。

【へ】

陛下 天子に對する敬稱。秦の始皇帝の時から始まる。陛下は堂に登る階。我國では天皇、太皇太后、皇太后、皇后の尊稱。

邊幅を修飾す 邊幅は布のへり。外見を飾ること。東漢の馬援は隗囂を蜀の成都にやつて公孫述の様子を見させた。援が行くと昔からの友であるのに、よそよそしく兵を並べ立て、迎へたので、家來に向つて「今は

來たら、それを柔かく包んで、母體の血液を送り込みながらその成長を助ける。かくして目にもとまらなかつた受精卵も妊娠一ヶ月目には既に米粒大となり、二ヶ月目には小指大となり、三ヶ月目には既に不完全ながら人間の形となり、かうして二百七八十日に完全な人間となつて出生するのである。

双生児はどうして出来るか

人間でも一時に三人、四人、五人と生むことがあるが、それは極く稀で、普通は一人づゝであり、百人に一人位の割合で二人を生む。双生児の出来る原因には一卵生と二卵生の二種類がある。一卵生といふのは、一つの卵に二つの精子が入つた場合であり、二卵生は二個の卵に各々一個づゝの精子が入つた場合で、同じ月に二個の成熟卵が排出される場合もあるからである。生れ出た双生児が一卵生であるか二卵生であるかは、妊娠の状態で判る。即ち二人の胎児が仲よく顔を見合せてゐるのが一卵生であり、顔を相手の足の方に向け合つて二つ巴のやうになつてゐるの

天下の雌雄は誰とも決しない、故に述は口中の食物を吐き出して直ぐ天下の秀れた人物を迎へるべきに、それをしないばかりか、つまらぬ外見を飾ることはまるで人形のやうだ。こんな事では名士をとめて置くことは出来ない」と云つて歸つた。

【木】

布衣 無紋の狩衣の意で、平民のことを云ふ。

暴虎憑河 危険なことの譬へ。又無謀の冒險の意。暴虎は虎を手で打つ、憑河は

は二卵生である。一卵生の場合、男或は女ばかりであり、顔も氣質も非常に似てゐるが、二卵生の場合には、どうかすると男と女が生れたり、餘り似てゐなかつたりする。一體双生児や三胎児などを産むのは體質が遺傳するらしく、双生児はまた双生児を産み易い。オーストリアに十一回の出産で三十二人、平均一回に三人づゝ産んだといふ珍しい夫婦は、夫が双生児であり、妻が三胎児であつた。

細胞内の染色體とは何か

人間に限らず生物は全て細胞から成つてをり、アメーバの如くたゞ一個の細胞で生きてゐるものもあれば、人間のやうに二十五兆五千億といふ多くの細胞から成つてゐるものもある。細胞は大抵は肉眼に見えぬほど小さなものであるが、鳥の卵のやうに大きなものもある。この細胞を顯微鏡で見ると、中に幾つかの染色體といふものがある。その正體はまだ完全には擱めないが、或る方法で着色すると、細胞の他の部分は少しも染まらないのに、その部分だけ染まるものがある。研究上まこ

河を徒渉する意。

木鐸 人々を教へ導く者のこと。金の鈴で舌(振り子)を木で作つてあるものを木鐸といふ。教へる時この鈴を鳴らして警めた。

蒲柳 蒲柳はかはやなぎ。蒲柳の質とも云ひ、身體の弱いこと。南宋の顧悦之は簡文帝と同年であつたが、悦之の方が年上のやうに見え早く老いてしまつたので帝が不思議に思つて尋ねると「松の木などは寒くなつて霜に降られても茂つてゐるが、蒲柳は秋が来るともろう涸んでしまふ」と病身を

とに有難いことで、かうして染まつたものを數へると、面白いことに、細胞の形や組織はどのやうに變つてゐても、同じ種類の生物に於ては、染色體の數が常に一定してゐるといふことである。例へば人間といつても幾多の人類や民族があり、一人の人間の中にも筋肉や骨や血や神経といふ風に組織が非常に違つてをり、従つて細胞の形が違つてゐるのに、人間の細胞には必ず染色體が四十八個ある。若しこれが一個でも少ないか多いかしたら、それは人間ではなく、猿か犬かになつてしまはねばならぬ。たゞ人體内にある細胞で染色體の數の少いのは精子と卵子だけだが、これは丁度その半分の二十四個づゝを持ち、二つが受精して初めて四十八個の完全な人間の細胞となることは、神の攝理の妙といふべきである。此の受精卵を顯微鏡下で見ると、受精した時は一旦混沌となつて染色體の存在がハッキリしなくなるが、間もなくハッキリして來、細胞の中央で四十八個の染色體が整然と二列縦隊を作つてゐる。暫くすると、その染色體の個々の中央が藪のやうにくびれて來、このくびれがだんく大きくなつて遂に染色體が二つに分裂する。この分裂と同時に

嘆いた。
奔命 君命によつて奔走すること。又人のために忙しく立廻ること。

【4】

矛盾 前後が一致しないこと。楚の人で矛と盾を賣る者があつた。客に「この盾は頑丈で決して矢など通らない」又矛をほめて「この矛の鋭いことはどんなものでも切り通せないものはない」と云つたので、或人が「ではその矛でその盾を突きさしたらどうなるか、ど

細胞全體もまた同様な形で分裂して二個となり、二個が四個、四個が八個となり、幾何級數的に殖えて行くのである。子供時代にはまだ細胞の數も少いが、時々刻々に細胞は分裂に分裂を重ねて人體を成長せしめ、二十五六歳となつて完全に成長し切つた頃には二十五兆五千億個といふ莫大な數となるのである。

男女の區別は何時出来るか

男女の區別は卵子が精子と握手して受精した、その時に既に決定してしまふ。卵子と精子の中には各二十四個の染色體があり、これが合して四十八個となり完全な人間の細胞となるのだが、その染色體を更に仔細に觀察すると、四十八個の中の二個だけが違つた形をしてをり、男はその二個が更に又一個づゝ異つた形をしてゐるが、女は二個とも同形である。そこでこれをX・Yと名づけると、男はXYであり女はXXであることが判る。そこで卵子内の染色體を檢べるとXが一個あるだけだが、精子の中には、YかXのどちらか一個ある。だから若し卵子が受精する時に

「ちらが勝つか」と尋ねると商人は答へられなかつた。寧ろ鶏口となるも牛後となるなかれ 大きなもの後につくよりも、小さくとも人の上に立つやうな者になれの意。春秋戦國の時代に洛陽の人蘇秦が大國の秦に當るには燕、趙、韓、魏、齊楚の六國聯合して秦の侵略を防ぐべしと主張し、韓の宣惠王に説いて云ふには「寧ろ鶏口となるも牛後となるなかれといふことがある。今、西に向つて秦に事へるならば牛後と異るところはない。あなたのやうな

Yの精子を受付けければXYとなつて男児が生まれ、X精子を受付けければXXとなつて女児が生まれる。だから昔から（今でもさう云はれてゐるが）母胎が粗食すると男児が生まれ、美食すると女児が生まれるとか、よく働いて日光浴すると男児が生まれ、日蔭にゐて遊んでゐると女児が生まれるとか、或は女の愛情が強いと男児、男の愛情が強いと女児が生まれるとか云はれたのは皆誤つてゐる。然らば男女の別は人爲的に全く左右出来ないかといへば、さうではなく、受胎の時、卵子がY精子を好むかX精子を好むかの卵子の好みを決定するものは、或は食物であり、或は紫外線の作用であり、或は愛情の力であるのかも知れぬ。そこまではまだよく判つてゐない。が、いづれにせよ男女の別は妊娠三四ヶ月頃に初めて決定するといふ説だけは完全に間違ひであるらしい。

動脈硬化と血圧の関係

血圧とは、血液が心臓から押出されて出る時、血管の内面と血液の流れとが摩擦

賢才を以て牛後など云はれるのは残念である」と。

【メ】

明鏡止水 心にやましいことのないこと。莊子に「鑑が明かならば塵や垢は止らない、止れば明かでない」と。又孔子の言葉に「人は流れる水にうつして心を考へるのではなく、停止して鏡のやうに静かな水を眺めて心を考へる」と。

【モ】

蒙塵 天子が事變のために

して生ずる壓力のことで、同じ血管なら、血液の流れが速やければ壓力は高くなり遅ければ低くなるが、同じ速さであれば、血管の弾力に反比例する。若い間は全てのものに弾力があり、血管も弾力性に富んでゐるので、血液がドツと流れて来ればゴム風船のやうに膨らむから餘り摩擦は起らないが、老人となつて血管が土管のやうに硬くなると、どうしても抵抗が強くなり、血流が鈍く不揃ひになる。動脈硬化とは血管に弾力性がなくなつて硬くなつたことで、動脈硬化の人の脈搏が速さも大きさも不揃ひであるのはこのためである。かうして動脈が硬化すると、血管がもろくなり、破れ易い。そこで激しい運動をしたり、精神的に非常な打撃を受けたり、熱い湯へ入つたりして血液の循環を速めると、血管はその壓力に堪へかねて破れる。これが脳溢血である。動脈硬化になる原因は、老衰・梅毒・酒毒等であり、老境に入つて餘り肥つた人や、瘦せすぎて神経質な人は脳溢血を起し易い。酒は動脈を硬化させるのみならず、血流を速くするので、血圧は一層高くなり、脳溢血を起し易い。注意すべきである。

皇居を出て外に行かれること。左傳に「天子が外に出
て塵をかぶる」と。天子は
常に道を清めて行き城の内
に居るところから塵をかぶ
つて出ると云つたのである
木猴きこうに冠くわんす 木猴は猿の一
種。猿に綺麗な着物を着せ
たやうに服装ばかり立派で
も心の浅い人の事をいふ。
韓生といふ者が項羽に「關
中は四方山に圍まれて大河
帶の如く、要害堅固で土地
も肥えてゐるから此處に都
を定めて諸侯の旗頭となら
れるがよい」と。しかし項
羽は秦の都だつた關中の今

脈搏と年齢の關係

脈搏は年齢によつて相違し、子供は殊に違ふから、一ト通りのことは記憶してお
くがよく、平均より多くなるのは病氣である。

生れたばかり	一四〇—一二〇
一歳—五歳	一二〇—一〇〇
五歳—八歳	一〇〇—八四
八歳—十二歳	八四—七五
十二歳—四十歳	七五—六五
四十歳以上	七〇—六五

人間の平熱は幾らか

人間の體温は人により、年齢により、測る時間により多少づゝ異なる。故に何度に
なつたから病熱があるとは即斷出来ない。故に平常から健康状態の時の熱を測つて

おくことが肝要である。

嬰兒	三七・五度—三七・六度	學齡兒童	三六・五度—三七・〇度
哺乳兒	三七・〇度—三七・五度	二十歳前後	三六・三度—三六・〇度
幼兒	三六・七度—三七・四度	成人	三六・三度—三六・七度

體温計は腋下で測るのが普通で、眞の體温より〇・五度低く、口中で測れば腋下より〇・一—〇・二度高く、肛門は更に少し高い。尙長く挟んでゐるほど體温計は上るから、五分間位を適度とする。體温は朝は低く、夕方が高く、食前よりも食後は高いのが普通である。

血液型とはどんなものか

血液は、血清といふ水（通常キシルと云ひ、摺むき傷をした時に出る水のやうなもの）の中に赤血球、白血球、その他のものが多く浮いてゐるのであるが、この血清も血球も人各々によつて異つた性質を持ち、若し性質の合はない血清が入ると、

はひどく荒れ果てたのを見て心が進まず、また東方の故郷に歸りたいと思つてゐたので、「人が富貴の身となつて歸郷しないのは丁度立派な錦の着物を着て暗の道を行くのと同じで誰も見てくれる者がなし」と答へると「世間の人が楚人は猿が冠をかぶつてゐるやうだと云つてゐるが、成程その通りだ」と嘲つたので、項羽は怒つて韓生を煮殺した。

門外雀羅もんぐわいせきらを設く 雀羅を張るとも云ひ、訪ねる人もな
く淋しいこと。翟公てきこうが裁判官になると訪問客が門前に

集つた。しかし辭めると誰も來なくなり、雀が群集するので羅を張つてこれを捕へることが出来る程だったが、再び任官すると客が又やつて來た。そこで彼は「一死一生によつて交情を知る。一貧一富によつて交情あらはる」と大書して門前に貼りつけた。

【ヤ】

燒野の雉夜の鶴 親の子に對する愛に譬ふ。雉は春に卵を草の中に生む。人が野の草を燒いて火が卵を生ん

だ所まで延びて來ると、雌は地面に翼をひろげ雄は卵をくはへてその翼の中に入れる。そして卵を包み雄は雌の背をくはへて火のない所へ飛んで行くといふ。鶴も子を大切に作る鳥で寒い夜など子を思つてやまないといふ。

病膏肓に入る 重病となること。晋の景侯が病氣に罹り秦の國の名醫の診断を求めた。まだその名醫が着かぬ間に侯は病魔が二人の豎(こども)となつて來た夢を見た。その一人が云ふに「秦から來る醫者は良醫で

血球は葡萄の房のやうに一つ所に塊つてしまふ性質がある。そこで多くの人の血を採り、その血清と血球とを分離して種々研究した結果、人間の血には大別してO・A・B・ABの四つの型のある事が判つた。今日ではこれ等をも一層細かに分類し幾十もに細分してあるが、大體この四つで代表されてゐる。そこで例へばO型の人の血はO型の血清とO型の血球、A型の人はA型の血清とA型の血球といふ風に分け、これを種々に組合せてみると、血球が塊まるものと塊まらぬものが出る。そこで塊まるものを(+)、塊まらぬものを(-)とすると、次のやうな表が出来る。この

	血清			
血球	O型	A型	B型	AB型
A型	-	+	-	+
B型	-	-	+	+
O型	-	-	-	-

表で一見して判る通り、O型の血球は、O型の血清以外には受けず、A型血球は、O又はA型血清のみを、B型血球はO又はB型血清のみを受け、AB型血球は全ての血清を受けける

性質がある。そこで、輸血(輸血とは、貧血した者に他人の血液を注入して補つてやること)をする場合には、その人の血球が受付ける血清を持つた人の血液を注入してやらねばならぬが、その場合、O型の人は誰にでも血をやれるといふ博愛的性質を持つてゐるのに反し、AB型の人は、貰ふ場合には誰の血でもよいが、與へる場合にはAB型の人以外には與へられないといふ獨善的な性質を持つてゐる。但し同じ型と云つても、O A型、O B型、O A B型、O O A型、O A A型……等と種々あるので、輸血の際にはなるべく此の細分に從ひ、同じ型の血液を與へるがよ

血液型で親子の鑑別が出来るか

昔から親子の血は近いと云ひ、白骨に血を注いだ場合、眞の親子であれば血は浸

あらう、我々は彼のために傷けられると大變だから逃げよう」と。他の一人が、「盲（心臓の下、横隔膜の上邊）の上で膏（胸肉の下部）の下に居ればどんな名醫でもどうすることも出来ぬから大丈夫だ」と云つた。やがて醫者が来て診察し、「病は治療出来ない。膏の上で膏の下に病源があるのでもうにも治しやうがなく薬もない」と。侯は「さすがは名醫だ」と厚く謝して歸した。故に病氣のことを「二豎」ともいふ。

夜郎大 漢の時に夜郎とい

込むが、他人の血は流れてしまふと云はれてゐる。併しそれは當にならぬ。血液型も兩親の型を受繼ぐことは確かだが、二つの型が混り合ふと別の型が出来ることが多いので、必ずしも血液型だけでは親子の鑑別は出来ない。しかし、上掲の結果でも判る通り、或る特定の場合、例へば兩親ともA Aであるのに、B型の子供が出来たとすれば、その母はB或はA Bの人と通じたかも知れぬ。併しこれもただこれだけの事では斷言出来ず、もつと細分された血液型の研究に従つて初めて判斷すべきであるが、

兩親の型	子の型
O × O O
A × A } A × O } A 又は O
B × B } B × O } B 又は O
B × B O, A, B, AB
AB × O } AB × A } AB × B } AB × AB } O, A, B, AB

それとても絶對とはいへない。たゞ、さうではあるまいかといふ疑問を與へる程度にししか研究が進んでゐない。

血液型で性格判斷が出来るか

ふ西南の蠻人がその仲間では羽振りがよく威張つたといふ所から、愚か者が自分の仲間の中ではゞをきかしてゐることに用ふ。

【三】

羊頭を懸けて狗肉を賣る
羊の頭をかゝげて實際は狗の肉を賣るの意で、看板ばかり立派で内容の悪いことを云ふ。

【ラ】

洛陽の紙價貴し 著作物が非常によく賣れること。齊

血液型で人の性格判斷を試みは早くから着眼され、目下まだ研究中で斷言は出来ないが、大體次のやうである。即ちA型の人には神經質で内気で悲觀的で藝術家肌であり、B型は快活で恬淡で派手好きで商才に富み、A B型はA型及びB型の性質を混せて持ち、見かけと腹との違ふ人が多く、O型は理智的で注意深く頑固で學者肌である。

老眼と遠視眼の相違

眼球は鞏膜といふ白くて丸い堅いものに包まれ、中に硝子體といふ透明な水が一杯入り、正面に虹彩といふ伸縮自在の黒眼があり、その中央に孔が開き、その孔を塞ぐやうにして水晶體といふ凸レンズみたいなのがある。瞳といふのは此の水晶體であり、これは無色透明ではあるが、中が暗いので黒く見えるのである。さて物

の左思は文才があつたが交際嫌ひで一人静かに住んでゐた。「齊都賦」を一年で完成し次いで「三都賦」を作らうとして門や庭や壁や便所にまで筆紙を用意して想を練り一句出来ると書きつけた。かくて十年にして出来上つたが誰もあまり讀んでくれない。晋の張華がこれを見て「班固の兩都賦と張衡の二京賦にも匹敵する」と賞したので、當時の金持や貴人が争つてこれを寫しに來たので急に紙の値が高くなつた。

瀬江と 瀬江とものゝ始め。岷江と

いふ川は源は岷山にあるが非常に細い流れで觸さへもあふれさせる位だが、下流では舟でなければ彼岸に行かないほどの川になる。

【リ】

柳營 將軍の陣營のこと。漢の文帝の時匈奴が國境を犯したので劉禮を霸上に、徐厲を棘門に、周亞夫を細柳に陣させて備へた。文帝は自ら將士を慰勞のため巡廻すると、霸上と棘門では將軍以下馬から降りて帝を送迎したが、細柳では全將士が甲冑をつけ刀を抜き弓

を見る時は、光線が水晶體から入り、硝子體を通つて鞏膜の内側にある盲膜に映じこれが視神經を刺戟し、大腦に傳達されて「物を見た」といふ感じを得るのである。若しその時光線が明るすぎると、虹彩が縮み、暗いと大きくなつて光線の入る量を加減し、見る目的物が遠い時は水晶體が薄くなり、近いと膨らんで光線の屈折を加減し、その映像が判然と盲膜に映じるやうにする。所が老年になるに従ひ、水晶體は伸縮力を失ひ、瘦せて來て、薄くなつたまゝである。だから遠い所の物はよく見えるが、近い所は見えず、新聞を讀むにもわざと遠くへやつて見るやうになる。遠視眼も、遠くの方がよく見える事は老眼と同様であるが、これは水晶體が瘦せたためではなく、鞏膜の丸みが前後に對して扁平に縮まつたからである。即ち水晶體から盲膜までの距離が、普通には十のものが、八・七と短くなつたために、水晶體が極力薄くなつてもまだ近くの物がハッキリ見えぬといふ状態になつたので、老眼とはこゝが相異してゐる。若くて老眼鏡をかける人は此の遠視眼が多い。序に近視眼を説明すると、遠視眼の反對に、その距離が遠く、十のものが十一・十二と

延びたものことである。

男の聲變りは何の作用か

辜丸ホルモンの作用である。ホルモンの項で云つたやうに、男は十五六歳になると胸腺や松果腺のホルモン分泌が少くなり、代つて辜丸ホルモンが活潑に活動し初め、身體の各部に毛を生ぜしめるばかりか、骨格・筋肉等の各部を發達せしめて、少年期から一躍大人に變つてしまふ。その時聲帯の瓣膜も肥厚するので、従つて聲變りがする。この聲變りは一般には發毛よりも先に來るものであるが、これは辜丸ホルモン特有の作用であるから、そのないもの、即ち女や去勢された男には聲變りが絶對にない。だから昔は、教會の讚美歌をうたふ歌唱僧は、みな少年時代に去勢したものである。

イザといふ時武者震ひする理由

をとつて敵襲に備へ、帝の先驅が來ても入れようとせず、隊長は「陣中であつては將軍の命はきくが帝の詔はきかぬ」と。やがて帝が來ても入れず、部下を亞夫の下に走らせて慰勞のため來たことを告げると漸く門が開いた。門番は帝の馭者に陣中では走ることの出來ぬ規則だと告げたので徐行して入り亞夫と會見すると、戦時中は甲冑の士は拜禮せぬときが軍禮を以て會しようといふので、帝は車から降り敬んで將軍を勞ふと告げ、禮をして去つた。帝は驚く部下を抑へて「こ

人間は嬉しい時、悲しい時、怒つた時、怖い時、緊張した時などには興奮する。昂奮すると神経が緊張し、血管が収縮して血液の循環が悪くなり、皮膚がしまつて総毛立ち、汗腺の口を防ぎ、體温の發散を妨げる。すると筋肉が反射的に収縮し、そのために不知不識に震へ出す。これは寒い時と同様で、寒い時に震へるのは、外部の寒氣を防ぐために皮膚が収縮し、汗腺や血管が収縮し、延いては筋肉も収縮して反射的に震へ出すので、一方は外部から、一方は内部の精神緊張から來たのである。寒い時に身を引き締めてゐるとそれほど寒くないのもこのためである。震へる時には寒さを感じる。眞夏でも怖い時は総毛立つて寒くなるのもこの理由による。所で震へるのも無駄な仕事ではない。筋肉が震へて自ら運動し、此の緊張を解いて體温を調節しようとする自然現象である。イザ出陣といふ時、イザ何か重大な事をしようといふ時、偉い人の前へ出た時、怒つた時等に震へるのは、みな精神緊張から來たものだ。だから昔から武者震は全身に勇氣が充ちたからだといふが、勇氣にもせよ臆病にもせよ昂奮した證據で、大事に處しても更に昂奮しない眞の大勇者

は、武者振ひもしない筈である。

欠伸は何故出るか

れこそ眞の將軍だ」と賞した。細柳營を略して柳營といふのである。
流連の樂 遊びに夢中になつて歸るのを忘れてしまふこと。晏子の言葉に「川の下流に遊びに行つて歸るのを忘れるのを流といひ、上流に行つて忘れるのを連といふ」とある。
梨園 俳優のこと。唐の玄宗は音樂や舞踊を好み、三百人を選んで梨園といふ所で自ら教へた。當時の人はこれを「皇帝梨園の弟子」と云つた。
六韜三略 韜はつゝみかく

眠くなつたり、退屈したりするといふのは、腦髓の中の血液の循環が悪くなつて老廢物が多く溜るからである。老廢物は血液がこれを持つて肺に行き、肺の中へ吐き出して酸素を吸収し、新鮮な血となつて再び全身に廻るのであるが、眠い時や退屈してゐる時には呼吸運動が活潑に行はれないので、肺の中には老廢物――つまり炭酸瓦斯が充満してをり、折角持つて來た物を吐出す餘地がなくなる。仕方がないから老廢物を持つたまゝで全身へ歸つて行く。この血液が延髓へ行くと、延髓は炭酸瓦斯に刺戟されて呼吸運動に命令を與へる役目を持つてゐるので、今多くの炭酸瓦斯に會ひ、急に緊急命令を發する。肺はこの命令を受けてビツクリし、自動的に深呼吸をする。これが欠伸である。深呼吸を連發すると肺の中に溜つてゐた炭酸瓦斯は外へ出て新鮮な空氣が充満し、血液はドシ／＼老廢物を吐出すことが出來

すといふ意味で、六韜は文韜、武韜、龍韜、虎韜、豹韜、犬韜の六つを呂尙といふ支那の兵法家が撰んだ兵書。略は謀の意味で、三略は上中下三卷から成る黄石公の兵書。一般には奇計の出て来る據りどころの意に用ふ。

梁上の君子 盜賊の事。

後漢の陳寔の家へ或る夜盜賊が入り、梁の上で機會を待つてゐた。陳は祕かにこれを見、子供達を其の部屋に呼んで良い習慣をつけよと訓戒を與へ、梁の上に乗るやうな悪習があつては君

る。そこで血は新鮮となり、延髓を刺戟しなくなり、欠伸も止む。だから若し、退屈した時や眠い時には、立上つて深呼吸をしたり運動したりすれば、欠伸も出ず、頭もサツパリするだらう。

鹽辛い物を食ふと何故咽喉が渴くか

鹽辛いものを餘り多く食べると、鹽分が必要以上に血液内へ溶込むので、早くこれを淡めて調節しなければならぬ。そこで血液は神經を刺戟して咽喉を渴かせる。だから水を飲みたくなり、水を飲めばこれが血液内へ入つて鹽分の調節が出来るといふ微妙な仕掛になつてゐる。

寒いと何故小便が近くなるか

人體は體重の五分の三は水で、平均體重を六十瓩とすると其の中の三十六瓩は水であり、量にして四立あり、毎日二立の水を飲まねば體がもたない。といふ

子といへないと云つた。盜賊は陳にその罪を謝した。陳は絹二匹を與へ、善心にかへれと諭した。爾來太丘縣には盜賊がなくなつた。**良二千石** 地方長官(知事)のこと。漢代には郡の太守(長官)は年俸二千石だつた。良は善良の意。

綸言汗の如し 天子の言は一度出ると變ることなしの意。一度口から出ると汗のやうにかへることがないといふのである。

【ル】

ふことは二立の水を排出してゐるからである。排出方法には呼吸・汗・大小便の三つの方法がある。そのうち呼吸と大便は夏冬とも大差ないが、汗は夏は多いが冬は少い。従つて寒い時は汗をかゝぬだけそれだけ餘計に小便として出るわけで、人間平均一日の尿量は七合であるのに、冬は一升もあり、然も膀胱が寒さで收縮してゐるので、少し溜れば直ぐ催はすのである。

満腹すると睡む理由

睡くなるのは、腦に血液が少くなり、乳酸といふ疲労物質が多く溜り、それが神經を痲痺させるからである。一體血液は身體の最も多く活動してゐる部分へ集る性質がある。故に物を食ふと胃腸が大いに活動を開始するので血液はその方へ集り、他の部分へは少ししか行かなくなる。そのために手足を初め全身がだるくなり、腦も痲痺して睡くなるのである。退屈したり疲労すると睡むのも、乳酸が全身に多く出来るためである。

墨々として喪家の狗の如し 家に不幸があると家人は哀しみの餘り犬に食物をやることも忘れ勝であるから、犬は彙々(志を得ないこと)としてしまふ。孔子は宋の桓魋に殺されようとして鄭に逃れた。鄭の人は孔子を評して「東の門の下に異様な人がゐて、その額の様は堯帝(古の名君)に似、襟元は阜陶(舜帝の重臣)に似、肩は子産(鄭の名高い家老)に似てゐる。腰から下は禹に比べる三寸低い。その様は、いかにも疲れ果てゝ喪家の狗のやう

足が冷えると眠れぬ理由

足が冷えるのは足の血が少くなり、それだけ餘計に血が脳に集まる。寝てゐる時は全身は全て休息してをり、活動し得るのは頭脳だけである。一旦寝そびれて頭が活動し初めると、その方にばかり血液が集まり、頭は愈々活動し、足は愈々冷え、益々眠れなくなる。故にこんな場合には起上つて體操するか、足を温め、頭に上つた血を足の方へ下げる工夫をすればよい。

食後の運動は有害か

食後には直ぐ激しい運動をしてはいけない。なるべく静かにしてゐた方がよい。といふのは、運動をすると厭でも血液がその方へ行かねばならぬから、そんなことをせず、なるべく多く長く血液を胃腸に集めて消化を促進させようためである。従つて食後の運動は有害である。

女は何故甘藷が好きか

女は生理的に便秘し易い體質である。そこで便秘を防ぐやう神は女に纖維質の食物を好む舌を與へ給ふた。甘藷や南瓜は纖維が多く、通じをよくする。女は不知不識これを食べて便秘を防ぐのである。甘藷や南瓜やバナナを好むのは日本の女に限つたことではない。

ビタミンの效力

ビタミンは生物のある部分を發達せしめたり衰微せしめたりする特殊な働きをもつてゐるが、脂肪、澱粉、蛋白質のやうに直接の營養劑ではないから、ビタミン劑を服用したからといつて、どんな病氣でも治つたり、身體が健康になるといふものではない。ビタミンにはA・B・C・D・E、等幾つかの種類があり、その作用も異つてゐる。Aは脂肪物の中に多く含まれ、肝油・バター・牛乳・卵黄等に殊

だ」と云つた。

【二】

輦轂の下 輦は手で持つて運ぶ車、轂はこしき、いづれも天子の乗用せられる車。輦轂の下はその車のあつる地の意で、首府のこと。連理の枝 夫婦の契、又愛情厚い男女のこと。宋の家老の憑の妻は美しかつた。康王はその美に迷つてこれを奪ひ憑を投獄したので憑は自殺した。或時妻は王に連れられて青陵臺に登つたが、夫の事が忘れられな

い彼女は王の隙を見て臺上から身を躍らして死んだ。王は怒つて埋めたが、この夫婦の墓は對ひ合つてゐて其處に生えた木は根が交り合ひ、枝も連つてゐたといふことである。

【五】

隴右を得て蜀を望む 常に満足しないのでその上くと欲張ること。東漢の光武帝は隴右を平定したが、なほ嘆じて云ふには「人は常に満足してゐることが出来ないのである」と心に苦痛がなくならないのだ。隴右を

に多い。これが缺乏すると夜盲症になる。Bは酵母・穀物・卵黄等にあり、麥及び米の胚芽に殊に多い。これが缺乏すると脚氣になり、肩がこる。Cは新鮮な果實や野菜の中に含まれ、非常に壊れ易いモロイ性質だから、野菜を煮たり焼いたり、古くなつたりすると直ぐ壊れてしまふ。これが人體に缺乏すると壊血病になる。DはAと殆んど同時に含まれ、最近まではAの一部だと思はれてゐたが、研究の結果若干性質の違ふことが判つた。これが缺乏すると骨の發育が悪く佝僂病になる。Eは小麥の中に多く含まれ、これがないと妊娠しない。猶これ以下のビタミンも存在するやうである。

ホルモンの作用

ホルモンとは内分泌液のことで、これまた營養素ではなく、又ビタミンのやうなものでもなく、一種の刺激劑であつて、或る物の發達や作用を助長したり阻止したりする著しい性質がある。ホルモンを出す顯著なものは、睾丸、卵巢、甲状腺、

得たら今度は蜀が欲しくなつた」と。遂に吳漢をやつて蜀を攻め、これを平定した。

臘月 陰曆の十二月のこと冬至の後三度目の戌の日に多くの神を祭ることを漢の時代に「臘祭」と云つた。この祭を行ふ月であるから云ふのである。

鹵簿 天子の行列。鹵は大きい楯で、天子の外出の時にはその楯を持ち甲冑をつけた者が前後に従ふ。その順を帳簿に記すところから云つた。

副甲状腺、腦下垂體、胸腺、副腎、脾臓、松果腺、胎盤等である。睾丸ホルモンは云ふまでもなく男子に限られてゐるが、鬚を生やしたり性的發達を上げしめる。これと同様のものは女子の卵巢ホルモンで、性的發達を上げしめると共に、月經、妊娠等とも密接な關係がある。胸腺ホルモンと松果腺ホルモンは以上の性ホルモンの活躍を阻害する性質があり、子供時代にはこれが發達してゐるが、年頃になると衰微するので性ホルモンが自由に活躍し出すのである。故に青年になつてもこれが衰微しない者は、いつまでも子供のやうである。甲状腺ホルモンは新陳代謝の機能を促進し、神経系統の障害を防ぐ。従つてこれが少いと一寸法師或は痴呆症となり、多過ぎるとパセドー氏病といつて眼球が飛出す病氣になる。副甲状腺ホルモンは骨や歯を硬くする性質があり、これが缺乏するとカルシウム分が少くなつて骨が軟かくなる。腦下垂體ホルモンは身體、殊にその尖端を成長させる性質があり、これが少いと一寸法師・痴呆症・脂肪過多症となるが、多過ぎると指や足先や顎や鼻などが無暗に長くなり、巨人が出來上つてしまふ。副腎ホルモンはアドレナリンと呼ば

俗語辭典

葦原將軍 陸軍大將の正服に勳章を佩して自ら將軍と名乗つてゐた狂人で松澤病院の人氣者であつた。誇大妄想狂のことを云ふ。

アジる 煽動すること。

アタピン 頭にピンと來る酒、安酒。

油蟲 怠け者、他人にたかつて飲食などする習癖の者あぶれる その日の仕事に有りつけぬこと。

天の邪鬼 天探女の轉化した

れ、含水炭素を糖分に變化する作用を持つから、多すぎると糖尿病になる。膀胱ホルモンはインズリンと云はれ、アドレナリンの作用を阻止する作用を有する。故にこれが少いと糖尿病になるので、糖尿病患者にはインズリンを注射する。胎盤ホルモンは妊婦の乳の出るのを防ぐ。故に妊娠すれば乳は出なくなり、出ても性質が悪くなるが、出産して胎盤が體外に出てしまふと急に乳が出るやうになる。

何故夢を見るか

我々は物事を記憶してゐる。記憶は腦髓の中にある運動中樞・視覚中樞・聴覚中樞等の各中樞が、多年の経験や學問によつて得た知識を各自に分擔して疊込んでおき、思ひ出さうとした時または何かをしようとした時に記憶を甦へらせ、それによつて適當な所へ活動命令を發して適當な働きを與へるのである。併し、各分擔された中樞は、たゞ自分の分擔を守つてゐるだけで、他との聯絡を計らない。例へばピアノならピアノを見て、その形や動きは視神經が記憶してゐるが、その音は聴覚中

た語で、人が右といへば左といふやうに反對のことを云ふ人。

板間稼ぎ 浴客を装ふて錢湯へ行き、客の品物を盗む泥棒。

一か八か 一擧に勝敗を決すること。

一言居士 會合などで必ず一言辯じないではゐられぬ人。

市松模様 寶曆の頃、佐野川市松といふ役者が江戸で楠正行に扮した時、石疊の模様を染出した衣裳をつけて好評を博したので、以來

樞が記憶し、その弾き方は運動中樞が記憶し、かくしてピアノ全體の働きや判斷は各中樞を綜合して初めて判ることである。かうして各分擔を綜合し或は聯絡するのは聯合中樞である。今若し聯合中樞が働かなかつたならば、視覚中樞はピアノを思出してゐても、聴覚中樞はバイオリンの音を思出し、運動中樞は喇叭吹奏の動作を思出すとしたら、ピアノのキーをブーブー吹いたらバイオリンの音が出たといふことになる。夢が大抵奇想天外の物語を創造するものこのためである。我々の睡眠は全ての神經中樞を休息させる。全神經中樞が完全に休息してゐる時は眞の熟睡でこの時はつねつても毆つても眼を覺まさない。併しさういふ時間は極く僅かで、暫く休養すると、どこかの神經中樞が眼を覺ます。寢返りを打つのも、寢ぼけるのも寢言をいふのも、みな運動中樞が部分的に眼を覺ましてゐて命令を發するからである。夢は視覚中樞の活動による。視覚中樞や聯合中樞の一部分が起きてゐて活動を初めると、眼は塞いでゐても物の形が見える(やうな氣がする)。記憶は次々に甦つて行くから、順序よく一つの物語を作ることもあるが、突然聯絡もないことを思出

石疊の模様をかく呼ぶやうになつた。

一六銀行 質屋のこと。

いのしし 十圓紙幣のこと
昔の十圓紙幣は裏に猪が印刷してあつた。

友愛結婚 米國のリンゼー

が始めて唱へたもので、男女が先づ別經濟で夫婦的生活をしてみて、然る後に結婚か否かを取極めるもの。

有卦に入る 有卦は富貴の意。大般若經の「貧窮無暇、入ニ有暇」から出た語で、

幸運が向いて來ること。
温州の旦那 金の無い客。

温州蜜柑には種がないのをもちつた語。

岡辰式 機智を以て金を儲けること。谷孫六の「岡辰押切帳」から出た語で、岡辰といふ主人公はこの種の代表的人物である。

岡目八目 小高い岡から見渡すと風景がよく見える、圍碁も、没頭して夢中になつてゐる本人よりも局外者の方がよく全局に通じ、八目位強いといふ意から、一般に當事者よりも第三者の方が冷静に觀察出來るといふ意に用ふ。

小田原評定 愚圖々々して

したりするものだから物語は飛躍する。然も運動中樞がこれに伴はないから、走つても走つても前へ進まなかつたり、聽覺中樞が寢てゐるから呼ばれても呼ばれても聲が聽えなかつたりする。併し聯合中樞が完全に活動してゐないので、物語を順序よく記憶することが出來ず、眼が覺めると同時に忘れてしまふことが多い。夢は五臟六腑の疲れだといふが疲れではない。眞に疲れてゐれば休息するから熟睡するが、眞に疲れず、腹の中に食物が溜つてゐたり、押合つて寢るとか、騒がしい中や明るい所で眠るとかすると、それ等で不斷に神經が刺戟されてゐるので、中樞が休むことが出來ず、フラ／＼と活動を續けてゐるので夢を見るのである。夢は願望を見る

ことが多い。心に願つてゐること、怖れてゐること、非常に興味を感じた事等を見る。これは寢ても忘れられぬほど願望が強いので、その中樞が休み切れず活動するからである。そして夢は現實離れた奇想天外なことを見るが、それは前述のやうに聯絡が順調でないことにも原因するが、又、自分の知識で想像し得る事は何でも見られるからである。記憶にないことは決して見るものではない。

寢言は何故いふか

夢の項で説明した通り、他の神經中樞が眠つてゐても、言語中樞だけが突然活動すると、思はず聲を發する。大抵はその活動が不活潑だから言葉も不明瞭だが、活潑な時は明瞭にいふ。病中には言を云ふのも同様であり、寢ぼけて起き上るのも運動中樞だけが活動するからである。併しこれ等は他の中樞、殊に聯合中樞が完全に活動しないので、大抵は記憶してゐない。

夢遊病者は何故不思議な事をするか

夢遊病とは要するに寢ぼけることであるが、それが病的に甚しく且つ長く、常習となつたものである。大抵は眠つてゐる時に起き出すのであるが、昂進した夢遊病者になると、起きてゐる時にも突然夢遊状態になる。立派に口もきき、全ての動作をし、普通人と殆んど變らぬやうな事をしておきながら、眼が覺めると全くそれ

相談のまともらぬこと。戦國時代に秀吉が北條氏政父子を小田原城に攻めた時、北條側では戦ふか和睦するか去就に迷つて評定が決定せず、遂に秀吉の軍に包圍されて落城してしまつたことから出た語。

籠抜け 會社、役所、ホテル等を利用して指定の場所へ品物を持つて來させ、これを受取つて代金を拂はずに姿を晦すこと。

金棒引 頼まれもせぬのに先棒になつて世間に觸れ廻る人間のこと。
カモ 詐欺賭博犯などが金

を記憶してゐない。それは聯合中樞が眠つてゐるからである。普通人と變らぬ動作をするのは、たゞ各神經中樞が平生の記憶を呼び起して比較的破綻なく活動を續けるからで、よく觀察すれば異状な點がすぐ判る。例へば夢遊病者は屋根の上を駆け廻つたり、木に登つたり、實に危険な事を平氣でする。それは「恐い」といふ事を知らぬからである。我々は平生に危険なことが出來ぬのは、眼や耳の働きにより「恐い」といふ判断をするからで、それがなければ屋根の上を手放しで走る位何でもない。恐いなどと云つてゐられない非常の場合には平然とそれをやつてのけると同様である。夢遊病中には此の総合的判断を缺くのが特長である。だから夢遊病者の犯罪行爲は犯罪とはならない。

二重人格とは何か

二重人格は夢遊病の一種であり、それが非常に昂進して夢遊状態が時間的に長くなつたものである。併し二重人格の特長は、夢遊病のやうに、その時その時の自由

の有りさうな、甘さうな人間に對していふ語。

カンカン 鐵船の錆を落したり修繕したり、ボイラや煙突の仕事をしたりする職工のこと。鐵を叩く音から出た語で、一般に鐵板職工の意にも用ふ。

監獄部屋 入つたら絶対に抜けられないといはれる北海道あたりの鑛山労働者の住居。

邯鄲師 枕探しのこと。

罐詰 選舉の時に候補者や有権者を押込めて置き自由行動をとらせないこと。

發作でなく、夢遊状態中の動作に常に一定の關聯があり、一つの性格を持つことである。夢遊病にも人により一定の型があり、木に登る癖とか、散歩する癖とか、人を殴る癖とか、盗む癖とか、悪いのになると殺人癖のある者もあるが、大抵は睡眠中に發作し、その時間も比較的短く、無言の事が多い。所が二重人格となると、眞晝間、完全に全神經中樞が活動し、一定の性格を持ち、それが又、平生とは大抵反對の性格となる。憂鬱寡黙の人が突然快活多辯になるとか、善良温順な人が慘忍狂暴になるとか、無智無能の人が有能強記になるとか、又その反對の場合とかである。然も氣味悪いことには、第二の人格でしたことは第二の人格内だけでは記憶し、第一の人格内では少しも記憶せぬことである。(少しは記憶してゐる場合もある)昔はこれを、頭の中に惡魔が棲んでゐると考へた。有名な小説「ジギル博士とハイド氏」はこれを描いたものである。

生命は何處に宿るか

牛耳る 采配を振る、人を操縦する意。

煙管乗り 乗車驛と降車驛に最も近い驛の間の切符或は定期を利用して途中をたゞ乗りする不正な乗り方。

下馬評 下馬先の評定といふことで、よく真相を知らずにいゝ加減な批評をすること。

源氏名 源氏物語の中にある夕顔、葵、紫、松風等に倣つてつけた名前のことで遊女の高尾、薄雲等の如きがこれである。

居士 出家せず俗體のまま

動物の生命は何處に宿つてゐるか。昔からそれは頭だ、心臓だ、胸だ、腹だと種々にいはれてゐるが、今日の研究によると、どれも誤つてゐる。頭脳は全神経の集中した最高機關であるから、若し脳髓がなかつたら生きてはゐられまいと考へるだらうが、動物實驗によれば、大脳の無い犬が三年も生きてゐたし、鯉は何年でも平気で生きてゐる。小脳をとれば行動がフラク／＼して安定を缺くが生命には別條ない。心臓がなくては生きてゐられないが、必ずしも自分の心臓でなくてもよく、他人の心臓を植付けるなり、他に心臓の働きをする機械仕掛をしてやれば立派に生存することも動物實驗で證明されてゐる。肺臓は一つや半分なくても宜いことは多くの肺病患者が自ら證明してゐるし、胃袋がなくても腸さへ動いてをればよい事は、腹から飯を食ふ人間がゐることでも判る。では腸こそ生命の宿泊所かといふと、人間は飲まず食はずにゐても三十日や四十日は生きられるのだから、その位の日數なら敢へて腸を要しまい。生命の宿泊所は、どうしても一瞬にして呼吸の根が止る所でないればならぬ筈だから、といふので科學者が探り當てた所は延髓である。延髓は頸の

で佛門に歸依した男を云ふ。又眞言宗以外では男子の法名の下につける稱號。

サイノロジ 甘い夫。愛妻家。

薩摩守 電車、汽車、汽船を無賃で乗る者、平忠度は左兵衛薩摩守だったので、只乗りを忠度にかけて隠語

三百代言 昔は辯護士のことを代言人と云つた。三百文がその報酬だつたところから出た語で、辯護士まがひの仕事をする一種の事件屋、ゆすり屋。

十三里 焼芋屋のこと。寛

上方、大脳の下に下つてゐる。これは脊髄と大脳とを繋ぐ場所で、聴神経以外の一切の神経は此處を通つて全身に通じてゐる。だから若しこれを、針の先でもよいチクツと突けば人間は一瞬にして死んでしまふ。何故なら、延髓は肺呼吸や心臓の伸縮運動を司るものだからである。故に學者はこれを「生命の結び目」と呼んでゐる。

優生學とはどんな學問か

優生學とは、人類の質を、精神上・肉體上優秀にする方法を研究する學問であるが、宗教や精神修養や健康増進運動とは異り、全てを科學的手段により、合理的・必然的に行はうとするものである。最も重視されるのは遺傳學で、遺傳の力が子孫の肉體や精神に及ぼす影響を考察し、遺傳的惡質を有する病氣の撲滅を期すると共に、病氣保持者の結婚禁止又は制限、隔離、去勢等を講ずるべく運動したり、優良兒の育成保護をはかつたり、人口問題や産兒制限の可否を唱へたりすることはみな

政の頃、江戸の本郷四丁目に「八里半」の看板を掲げて繁昌した焼芋屋があつた。「八里半」は九里(栗)に近いほどうまいの意であるが、程なく「十三里」と書いた。行燈が小石川白山に現れた。これは九里(栗)四里(より)うまいといふ意と、薯の本場の川越から十三里といふ意を含めたものである。

三味線まひく 自己の利益のために實際と反対のことを云つたり、又他人にさう思はせたりして置いて一杯食はせること。主に勝負事に用ふ。

優生學の好論題である。

人口問題は果して憂ふべきか

世界の人口問題はマルサスが有名な人口論を唱へて悲觀説を立て、から急に社會問題となり、各國の學者間に大いに研究が進められ、今日でも悲觀説と樂觀説の二派に分れて論争してゐる。悲觀論者に據れば、地球の廣さには制限があり、それから産する食物には限度があるのに、人口が若し今日の増加率を以て増殖して行つたならば、近い將來に於て食物不足を告げる。従つて或る程度以上に人口の増殖を止めない限り、弱肉強食は阻止されず、世界の平和は保てない。現に歴史的戰爭は皆この表れであるといふ。なるほどこれを我が國に當て嵌めれば正にそれで、我國は年々百萬人近くづゝ増加し、米だけでも一人當り平均一年に一石餘を食べ、米の收穫は平均五千五百萬石で、既に二千萬石の不足を來してをり、稻作の改良や耕地の開拓を以てしても年々百萬石の増收を確實に得る見込みは立たない。米既に然り、

白河夜船 後選奏曲集の、「夢にだに見ざる名所の話こそげにも白河夜船なりけれ」より出た語で、熟睡してゐる状態をいふ。

白羽の矢を立てる 多勢の中から選抜する意。我國には昔から山の神や大蛇の傳説について人身御供のことがあり、それと見込まれた少女の家には知らぬ間に白羽の矢が立つと傳へられた

仁義 人の道、人間としての踏むべき道の意。博徒や股旅者の仁義は、その社會に於ける掟のこと。

制服の處女 映畫の「制服

況んや他に於てをや——と論じられてゐる。かうして近年失業問題や食糧問題等がやかましく取上げられた。併し樂觀論者はいふ——悲觀論者の説は餘りにも一國或は特定國の中にだけ閉籠つて考へるからで、少しく眼を大きくして全世界的に考へれば何でもないことだ。世界の地上面積には成程限りがある。併しまだ人類未住の地は半分以上もあり、これを平均し、開拓して物産を求めれば幾らでも餘地がある。世界が現在の國境といふ殻の中に閉籠り、お互ひに關稅の障壁を高くし、一方で不足してゐるにも拘らず一方では値段維持のために莫大な資源や物資を腐らせたり焼捨てたりするといふ無駄をやつてゐるが、若しこの一切の無駄を取去つたならば、何等憂ふるに足らぬ。プロッドといふ學者の説によれば、現在の物産額を以て、英國人なみの生活をすれば世界は二十三億三千三百萬人を包容し得べく、獨逸人なみの生活をすれば五十六億人、日本人なみなら二百二十四億人を養ひ得るといふ。若し支那人なみなら四百億人を養ふに足るかも知れぬ。然も現在は漸く二十億人だから、英國人なみに暮しても猶五十年位は大丈夫であり、その間には耕作法

の處女」から起つた語で、學校の制服を着た處女、即ち女學生のこと。

贅六 江戸時代の初頃、上方で商家の小者をでつちと云つた。雙六の賽の目が双つ共に一の時、これを「重一」といひ、略音でデツチと呼ばれた。小さい者の意である。又武家が小者を洒落れて才六と呼んだが、これは賽の目の一の反對は六であるから六といつても同じ賽コロだといふのである。以來上方では小者を才六と呼ぶやうになり、他國の者が上方人を輕蔑してサイロ

も調理法も新しい資源も發見改良されようから心配御無用である。現に我國に關するだけでも、數年前には米が有り餘つて減反論まで生れ、今も猶、臺灣米や朝鮮米の過剰を何とかしたらいかに爲政者の頭痛の種子となつてゐる。我國のやうな人口過剰に困つた固つたと云つてゐる國でさへがさうなのだから、他は推して知るべしで、少しも心配はない。戦争は人口問題が原因だと云ふが、果してさうであるかどうか。戦争阻止のために、生れ出でようとする自然力を制限したり中斷したり、生きるために伸びようとする人間自然の要求を國境といふ不自然な觀念で阻止するのが果して人道になつてゐるかどうかは大問題である。人口問題を研究するはよい。だが徒らに消極的な統計表の蟲とならず、積極的な打開の道を考究すべきではあるまいか。數年前までは失業者の續出に悲鳴をあげ、人口の増加は失業問題の脅威だといはれてゐたが、支那事變後の今日では人間の不足を嘆き、生めよ殖えよと叫んでゐる。どつちが國家のためによいことか、どつちが人類に福祉をもたらすか、この事實が解答を與へてゐるだらう。

宗教と儀禮

宗教上の常識

人間は何故宗教を求めるか

人間は物事を考へる癖がある、他の動物でも考へる力はあるが人間ほどにはアレコレと考へない。人間はアレコレと考へる。馬や牛に比ぶれば、時に愚にもつかぬ役にも立たぬ事を考へて獨りで思ひに耽り、或は喜び、或は悲しみ、或は恐れ、或は敬ふ。これを別言すれば「理想」を描くのである。動物にも道徳はある。併しそれは生存のためのみの相互規約であるが、人間の持つ道徳は自分等の描く理想と一致させようとする所に特色がある。自分は犠牲になつてもよい。理想のために死ぬなら寧ろ喜んで死なうといふ所に動物と異なる點がある。かういふ理想は、人間であ

クと呼び、更に訛つてゼイロク(贅六)となつたのだといふ。

小便をする 契約を履行しないこと。

世間師 悪事をしながら世間の眼をくらまして世渡りする者。

セコハン 中古品。

千秋樂 昔は芝居は十一月の顔見世狂言に始つて春狂言、盆狂言、秋狂言の順に續けられ、秋狂言の最後の日を千秋樂といつた。今は芝居の終りの日をいふ。

千三つ屋 山屋、ブローカ

1のこと。千の内三つ位しか當らぬの意から出た語。
第六感 視、聽、嗅、觸、味の五官の外のもう一つの感覺の意で、所謂「感」でわかるといふのがこれである。
ダットサン ダット(脱兎)とサン(太陽)の日本語と英語を組合せた名稱で、日産會社で製造する小型自動車。總じて小型のこと。
ダラ幹 ダラシない幹部の意で、勞働爭議などで勞働者の味方顔しながら資本家側に迎合する幹部のことをいふ。

る限り、たとへ如何なる野蠻人にもある。その理想は或る時は天國となり、或る時は神となり、或る時は藝術、或る時は名譽、地位となる。名譽や地位は理想としてはズツと低いものであつて、精神が高揚され、ばされるほど天國とか神とかいふ高いものに變つて来る。然らば天國とか神とかは如何なるものであるか？ それは全智全能であり、安全無缺でなければならぬ。そしてそれは愈々神祕であり大威力を有する。この考へが變化して来ると、神祕であり大威力を有するものが直ちに神であるといふことになり、不可解なもの、不可抗力を有するものは皆神となる。太陽・月・星等が神となり、山・森・水・風・雷といふ自然物や自然現象から、狐・狸の類に至るまで神となる。人間はそれ等を恐れ、恐れるが故に敬ひ、敬ふが故に自分もまたその威力や神祕性と合一し安心立命しようとする。神の正體を掴めば一向タワイもない物である場合が多い。人智が發達するに従ひ、かういふ自然物崇拜の氣持は漸々薄らいで行く。だが如何に科學が發達しても、科學では測り知れない幾多の物がある。否、科學が發達すればするほど愈々神祕さを増すことすらある。「生

談合金 請負入札の時、入札者同志が談じ合ひの上で一人が他より幾分高く入札して落札し落札者より他の者へ提供する若干金のことを云ふ。
チヨボ 義太夫、淨瑠璃の劇場に出演する義太夫三味線のこと。
チヨンになる 終幕になる大團圓になるの意。芝居の終幕の拍子木の音より出づ。又敵首の意にも用ひられるが、この場合は首をチヨン切られるのチヨンである。
陣笠 名もない代議士連。

命」といふやうなものが第一にそれである。生命とは何か？ 研究すればするほど遠くへ逃げて行く。そこで普通の科學では證明し盡せない所に何等かの解決をつけようとする。これが哲學である。併し哲學は一種の思考の論理にすぎず、それによつて安心立命することは出来ない。安心立命とは理想と合一する、合一したと思ひこむことである。宗教はこゝに生じる。即ち人間は理想を描き、神を創造するが、現實は到底神のやうな完全無缺たり得ない。併し精神生活だけでも神と合一し、そこに安心立命を得ようと焦る所に宗教は生れるのである。故に宗教は、如何に科學や哲學が發達しても、人間が理想の夢を描く限り滅びるものではない。

宗教とはどんなものを指すか

宗教とは何ぞや、といふ問の答へは、人により、宗派により異なる所であつて一概にはいへないが、これ等を總括的にいへば「宗教とは、神と人間との關係を示し、人間が神と合一し、神に至るの道を説いたもの」である。然らば神とは何ぞやとい

チンドン屋。街頭廣告屋。明治二十年頃、一組十人以上の廣告行列が禁じられた時、一人で何人分もやる鉦や太鼓や喇叭などの樂器を用ひて街頭を歩いた。その元祖は京橋福徳組の高橋金次郎である。

月並 月並は毎月といふ意で、俗氣が多くて何等新鮮味のない俳句のことから轉じて、有りふれたこと、平凡なことに云ふ。

傳法肌 俠客肌、悪くいへば暴力團の意。徳川時代の末期に江戸淺草の傳法院の特別の權力を笠に着て威張

ふと、愈々議論の多い所であるが、大體論で行けば「統一ある精神生活」であり「人間の懐く理想體」である。基督教では神を全智全能、至善至美のゴッドだといひ、神道では威嚴の結晶をさし、佛教では眞如即ち宇宙の本體を指す。みな言葉は違ふが、結局は「同じ高峯の月」であり、宗教はその神、理想體と合一し、それへの道を教へるものである。従つて宗教は哲學のやうに神を理智的に研究するものではなく、又自然科学のやうに物質的に分析するものでもなく、直ちに神の道へ飛込んで行く。もとより其處には哲學的な研究も行はれるが、哲學がたゞ知識慾を満足させて終らうとするのに對し、宗教はこれと合一して實踐しようとする所に大きな相違がある。宗教が往々にして誤りを犯すのは哲學的思考も經ずして直ちに實踐に移しそれが神と合一する唯一の道だと信ずる所にある。不自然な考へ、不道德な行爲さへも何の批判もなく盲目的に行はれ、迷信となつて社會に害惡を流す例の生じるのはこのためである。併しながら、それさへも、計畫的な世俗的野心に燃える者でなく、眞に心から信じ切つて行つてゐるものなら、單なる不道德や犯罪とは異り、そ

り立て、見せ物などに顔や腕力で無料入場したことから出た語。

天保錢 天保錢は八分で一錢に二分不足な處から、薄のろの人間を云ふ。天保錢主義は株屋の玉塚榮次郎の唱へたもので、萬事八分目にやれといふにある。

藤四郎 逆語で、素人のこと。又犯罪隠語で、盜犯者のこと。

當百 明治四年に舊銅貨が改正となり、天保通寶は十枚で八錢に當ることになつた。天保通寶は別名當百と

れを以て只管神と合一し、安心立命を得ようとする嚴肅な心を以つて行つてゐるのであるから、そこに大きな特長がある。だから宗教の使命は神人合一の實踐であるといふことが出来る。

宗教は何時頃興つたか

宗教は人間の理想から生れたものであるから、文獻に残つてはゐないが、凡そ人間の發生と共に存在したといつても過言ではあるまい。原始宗教にあつては太陽・月・星・山・川・海などいふ自然物を崇拜した。それらは目に不可思議なばかりでなく、自分等が日常多くの恵みを受けてゐて、威大なる力をも備へてゐるのだから神の具現と見るには屈強の對照物である。彼等は初はその威力や神秘性の前に只わけもなくひれ伏してゐたが、總て人智が進むにつれ、その中から威嚴とか魔力とか美とかいふものを探り出し、さういふ詮索が進むにつれて却つて下らない物の中にこそその抽象的な觀念を探り出して、石や骨や木片をまで崇拜の對照物とするやうに

いはれた處から、十枚で八錢、つまり二錢足らぬ、一人前には少々不足といふ意に用ひられる。

トーチカ心臓 支那事變より起つた語で、トーチカの如く鞏固な心臓の意。物に動ぜぬ人、又は鐵面皮の人を云ふ。

土左衛門 享保の頃、江戸深川八幡境内で相撲興行が催された時、奥州初上りの力士で成瀬土左衛門といふのがあつた。ぶく／＼肥つてまるで水死人のやうだつたので、爾來水死人を土左衛門と云ふやうになつた。

刀自 婦人は家庭の主であるといふ稱呼。轉じて老婦人、名流婦人の尊稱。

ニコボン主義 八方美人的なこと。何事にもマア／＼とニコ／＼しながら相手の肩をポンとたゝいて談笑裡に妥協するのである。

のす 伸すの略で、毆打する、ペチャンコにするの意。又豫定より遠くへ行く伸して行くの意にも用る。

蚤の夫婦 蚤は雌が大きく雄の方が小さい。亭主が小さくて細君の體の大きい夫婦を云ふ。

暖簾師 信用ある商店、商

なり、その加護を祈るやうになつた。これが呪物崇拜の宗教となつたのである。これが更に發達すると、タブーといつて、不淨なものや神聖なものに觸れる事を禁じ、これを恐れるやうになり、更にそれが部落民共通の崇拜物に變化して行つてトーチカを作るやうになり、愈々宗教の形を整へて行つた。これが更に進むと、物の中に精霊を見る考へが生じた。山の神、海の神、水の精、森の精、といふ風に天然物の中には全て精霊が潜むと考へ、汎神宗教の源泉をなしたが、その後これ等の精霊の力の強弱をはかるやうになつて神々に階級をつけ、然もその神々の上に君臨する大神の存在を認識するやうになり、これが一層發達すると、總ての神々の持つ力を統一した唯一神を創造するやうになつて遂に今日の文明宗教となつたのである。以上の宗教の形は今日でも残つてをり、文明人の間にも猶且つ呪物崇拜や、タブーや、トーチカや、精霊やの宗教又は宗教的觀念が現存してゐるが、文明教として、立派に統一された一體系を持つて今日に傳へられてゐるものの中で最も古いのは印度の婆羅門教である。それは西曆紀元前千五百年、今から三千五百年前に興り、爾來千

年がほどは印度に全盛を謳はれた汎神教であるが、今から二千五百年ほど前に印度に釋迦が現はれ、婆羅門から出て佛敎といふ一宗派を編出し、一時は印度を風靡したが、その後支那、朝鮮、日本に渡つて此處で繁榮し、印度は昔ながらの婆羅門に歸つて今日に至つてゐる。然も支那、朝鮮に渡つた佛敎も其處では漸次滅び、我國に於て最も發達し、世界第一の佛敎國となつてゐる。猶太教は三千年ほど前にイスラエル人の間に起り、エホバを以て彼等民族の唯一の守護神とし、イスラエル人のみが神の恩寵を受けてゐる唯一の人間であり、他民族は悉く神に恵まれない豚だと考へた。彼等の英雄的指導者モーゼは、有名なモーゼの十戒をシオンの地に垂れたが、これこそ猶太教の根本をなす教へであり、猶太人は今日もなほこれを守つてゐる。基督教は猶太教から流れ出た一神教であつて、紀元元年に生れたといふキリストが創始したものである。當時は猶太人の非常なる壓迫を受けたが、その後歐洲諸國に渡つて發達し、遂に今日の如く全世界を風靡するに至つた。回教は紀元六二〇年アラビヤの地にマホメットによつて興されたもので、右手に劍、左手に經典

標を悪用してイカサマ物を
賣りつける悪徳商人。
はつばをかける ハツバは
ダイナマイトのこと。他人
を脅喝して金品を捲上げる
をいふ。

半疊はんじょうを入れる 彌次ること
冷かすこと。昔、小屋がけ
で芝居をしてゐた時代に、
見物人は半疊といふ莫産を
敷いてゐた。役者がしくじ
つたりすると、見物人がそ
の半疊を舞臺に投げつけた
ことから起つた語。

半どん 日曜日、休日のこ
とをオランダ語でどんたく

といふ。半どんは半日どん
たく、半日休み、即ち土曜
日のこと。

鼻下長びかちやう 鼻の下の長い男、
即ち女好きな男のこと。

二股膏藥ふたまたこうやく 甲にも乙にも双
方に加擔して態度の曖昧な
人間のこと。

ペーパー師ペーパーし 贋造紙幣を行
使する犯人。

枕挿しまくらさ 邯鄲師に同じ。宿
屋に泊つて客を装ひ、旅客
の金品を盗む泥棒。

まげる 質に入れること。
マゲ物まげもの チヨンマゲもの

を持ち、經典コトランか、然しかずんば劍けんか、といつて積極的な布教ふけうをしたので、マホメットせいとう在世せいだい時じから既にアラビヤ全土ぜんどに行ゆ亘わたり、その後エジプト、イラン、中央亞細亞ちゆうあつあしあに廣ひろまつた。矢張りアラールやばといふ神かみを信しんずる一神教しんけうである。

佛教は我國に何時傳來したか

佛教ぶつけうは西曆紀元せいれきげん前五百年頃ねんごう、印度いんどの釋迦しやくかによつて興おこされた宗教しゆけうで、その後約千年ごやくねんの間印度あひだいんどに榮さかえたが、西紀前百年頃せいきぜんねんごう既に支那しなに傳來でんらいし、その後印度ごいんどで衰微すいびするに反はんして支那しなで隆盛りゆうせいし、紀元七百年頃きげんねんごうの唐たうの時代じだいには支那しな三藏さんざうといふ名僧めいそうが出いで、非常ひじょうなる困難こんなんを経て印度いんどに行ゆき、多くの佛典ぶつてんを持ち歸かへつてこれを翻譯ほんやくしたので、佛教ぶつけうは愈々盛さかんとなつた。我國わがくにに初めて傳來でんらいしたのはそれより少し前の紀元五五二年きげんごごにねん、欽きん明天皇めんてんわうの御宇ごう十三年であつた。當時朝鮮たうじせせんの百濟國くだらこくは年々我國わがくにに貢みつしてゐたが、その時聖明王せいめいわうは初めて佛像ぶつざうと佛典ぶつてんを傳つたへ、蘇我そが稻目いなめの自邸じていにこれを安置あんちした。保守ほしゆてき的な物部氏ものべしはその佛像ぶつざうを堀江ほりえに投な込み、これが原因げんいんで蘇我そが、物部兩氏ものべりやうしの抗爭かうさうとなり、中なか

大兄皇子おほえのわらひ、藤原鎌足等ふちはらかまたりらが蘇我入鹿そがいらかを殺ころした事件じけんなどもこれが原因げんいんしてゐる。併しかし佛ぶつ教けうは容易よういに滅ほろびず、その後聖德太子せいとくたいしが御信仰ごしんかうになつてからは非常ひじょうな勢いきほひで國內こくないに擴ひろまり、聖武天皇せいぶてんわうの如ごときは御親おんみからを「三寶さんぼうの奴やつこ」とまで仰あやせになり、東大寺とうだいじを建てて大佛だいぶつをお祀まつりになつたばかりでなく、各國かくこくに國分寺こくぶんじを建立こんりふあそ遊あそばされたので、佛ぶつ教けうは愈々全國いよくぜんこくに普及ふきふして隆盛りゆうせいの一途いっとを辿たどり、平安朝へいあんちゆうとなつてから空海くうかい、最澄さいじやうなどの名僧めいそうが出でて、支那しなから新あたらしい宗派しゆはを傳つたへるばかりか、空海くうかいの如ごときは神儒佛合一しんじゆぶつがふ論ろんなどを説といたので、諸佛しよぶつの本地垂迹ほんぢすゐせき説せつなどを立てる者が多おほくなり、各神社かくしんじやの境内けいだいに寺てらが建たち、寺てらの中に神様かみさまが祀まつられ、神詣かみまりをする人々ひとぐを寺てらの方ほうへも引きつけ、佛ぶつ教けうは益々ますます隆盛りゆうせいとなつた。たゞに信徒しんとう數かずが多おほくなつたばかりでなく、幾多いくたの名僧めいそう知識ちきしきが續出ぞくしゆつして佛ぶつ教けうを研究けんきうしたので、學問がくもん的てきにも支那しなを凌駕りやうがするやうになり、印度いんど・支那しな・朝鮮ちゆうせんで衰退すいたいした佛ぶつ教けうは最後に我國わがくにで燦然さんぜんたる光輝くわうきを放はなつに至いたつた。

大乘と小乗とはどう違ふか

三行半 離縁状。

モサ 拘摸犯人の隠語。

元の木阿彌 筒井順慶の父順昭の病死後、隣國の侵入を怖れて深く喪を秘し、容貌の順昭に似た木阿彌といふ茶坊主を病牀に臥せしめ來訪者と隣室で應待せしめた。三年目に天下の形勢を見て喪を發したが、城主を裝ふてゐた木阿彌が再び巷に現れた時、お前は誰だと言はれて、元の木阿彌だと答へたといふ。この故事から成り上り者が没落して元の素寒貧に逆戻りすることを云ふ。

小乗佛教は戒律をやかましく云ひ、戒律を保ち、峻嚴な修行をして悟りを開き、阿羅漢の位に達しようといふものであつて、比丘(男僧)二百五十戒、比丘尼(尼僧)五百戒と稱され、それだけの戒律を完全に保たなければ眞の佛教徒たり得ない。そこで印度などでは一本足で何年でも立つてゐる者、木の葉ばかり食べてゐる者、口を利かないでゐる者等といふ奇妙な修行者が多い。勿論これは佛教徒よりも更に小乗的な婆羅門教徒に多いが、かうなると信者の悉くが出家するか修行者とならなければならず、それでは社會の營みは出来なくなる。そこでそんな馬鹿な事ではない。勿論或る程度の戒律は守らねばならぬが、出家しなければ佛果を得られぬやうな不自由なものではない。商人は商人のまゝ、武士は武士のまゝで悟りを開き、安心立命しなくてはならぬと説くのが大乘佛教である。即ち小乗は個人的解脱に重點をおくが、大乘は自分もさることながら他人をも導いて人間全體、社會全體を救済しようとする。又小乗では現世で自分が成道しようとするが、大乘では現世でよい種子を蒔いておきさへすれば來世で成道すると考へる。上求菩提下化衆生、

藪井竹庵

昔、丹波に藪といふ偉い醫者があつたが、その弟子共が師を笠に着て直ぐ藪の名を持出したので却て下手な醫者のことを藪といふやうになつた。又一説には、風が吹くと藪の竹がガサ／＼するので、風邪位でも騒ぎ立てるへボ醫者をいふとも云はれる。

八百長

昔相撲部屋へ出入した八百屋長兵衛が將棋好きの關取と將棋する度にわざと負けて關取の氣嫌を取つたことから、わざと敗ける相撲のこと、或は一般に勝負にインチキをすること

といふのが大乘佛教の趣旨である。釋迦が佛教を説いた時代は悉く小乗であつた。所が釋迦入滅後六百年の頃、馬鳴尊者が出て「大乘起信論」といふ書を書き、更に百年ほどして龍樹菩薩がこれを提唱し、その後また世親菩薩が出て更にこれを強調し、遂に大乘佛教は今日のやうに盛となつたのである。我國に傳來された當時の佛教は小乗教であつたが、空海・最澄等が法輪を轉ずるに及び大乘佛教は絢爛として本土に咲き、法然・親鸞等によつて大乘の趣旨は益々徹底した。我國にある佛教各派は大部分大乘教であるが、中には三論宗・俱舍宗・成實宗などいふ小乗教も少しはあつた。併し今日では一寺も残つてゐない。印度に現存する佛教は悉く小乗教であり、蒙古、西藏寺のラマ教も小乗佛教の一派である。

佛教の教への根本は何か

佛教は印度の釋迦族に屬する王族淨飯王の皇子悉多太子が創始した。彼は十九の時、世の無常を觀じ、何とかして安心立命を得たいと思ひ、王城を秘かに出奔して

を云ふ。

六〇六號 徵毒藥サルヴァルサンのこと。パウエル・エールリツヒと秦佐八郎博士の共同発見にかゝり、六〇六番目に出来た薬の意。

ロハ臺 ロハは只の字を二分したもので、只の臺、即ち無料の腰掛、公園のベンチを云ふ。

ロース物 賣れ残り品、廢つた品。

若い燕 年上の婦人が年下の若い情人を持つてゐる様を燕の夫婦愛に譬へたもの即ち年下の情夫の意。

ヒマラヤ山に登り、婆羅門の行者阿羅邏の教へを受け、更に迦羅邏の教へを受けながら難行苦行した。何等悟る所がなかつた。そこで彼は山を下つて菩提樹の樹下に端座し、七日の後、年三十五の十二月八日初めて自ら大悟することが出来た。そこで鹿野園に行き、五人の兄弟子達に自分の悟つた所を説いた。五人は、豫てから悉多太子が苦行を中絶した事に對し心から輕蔑してゐたが、近づく悉多太子の身邊から燦然たる光輝の出でゐるのを見て驚き、思はずその前に跪拜した。そこで悉多太子は初めて彼等に四諦・十二因縁・八正道の法を説いた。その後印度各地を廻つて法輪を轉ずること四十五年、その間婆羅門の鋒々たる名僧をも説破して弟子に加へ教風天竺を風靡し、年八十にして沙羅雙樹の下で入滅した。これを人仰いで釋迦牟尼佛と稱した。釋迦四十五年間の説教は、たゞ折にふれて人に説いただけであつたので、弟子達はその遺教の忘れられることを恐れ、阿難尊者を中心として釋迦の言葉を書き綴つた。これが經典である。勿論その時には現在あるほどの多くの經典が書き遺されたのではなく、その後の名僧達が研究した所、自ら悟り得た所を書いて

外來語辭典

【ア】

アーケード 小賣商店が仕入、販賣、廣告等を協定してやるもので、大百貨店に對抗して出来た聯合式による營業組織。

アート・タイトル 映畫の美術的序幕。

アート・ペーパー 口繪等に使用光澤ある寫眞版印刷用紙。

アーム・チェア 臂掛椅子
アイデアリズム 理想主義

經典としたのも多いが、兎に角佛敎の根本をなすものは、四諦、十二因縁、八正道である。四諦とは苦集滅道の四つで、現世は苦の世界である。何故このやうになつたかといへば前世の業により煩惱に迷惑されてゐるからだ、業と惑との集諦だからだ、そこでこの煩惱を克服し、苦を滅却したならば初めて悟りの道を得るだらうと説くのが四諦である。十二因縁、八正道は、この四諦を細分して詳解したものである。即ち十二因縁は苦諦と集諦を細別し、人間は、無明・行・識・名色・六處・觸・受・愛・取・有・生・老死の十二の因果關係によつて過去から現在・未來へとつながつてゐるものであり、この十二因縁を通觀し解脱して初めて阿羅漢の位に上る。八正道とは、正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定の八つで、滅諦と道諦とを悟るには、婆羅門のやうに難行苦行しなくてもよい、正しく世の中を見、正しく考へ、正しく語り、正しく行ひ、正しく命じ、正しく精進し、正しく念じ、正しく禪定に入るならば、居ながらにして成道し得ると説いたのである。これ等をもつと判り易くいへば、人生を苦・空・無常・無我の四相と釋迦は觀じた。

アイロニー 反語、あてこすり、又は厭味、皮肉。
アヴァンチュール 冒険、獵奇。
アヴェツク 同伴。特に婦人と同伴する意に用ふ。
アウト・ライン 概要、あらまし。
アカデミック 學究的、官學的。
アクセプト 受け入れる、承諾する。
アクセント 發音の調子、言葉の音調、訛り。
アクティヴ 能動的、活動的。
アグレマン 同意、承諾の意。外交上の用語としては

即ち現世は苦の世界である。併しながらそれは全て實體なき假の存在、空の存在であつて、無常迅速極まりなく、朝に紅顔の少年も夕には白骨と化する如き、諸行無常の世の中であるとすれば、執着すべき我もないわけであるから、我執を去り、一切の執着を去り、大慈大悲の心をもつて世に處せよ、と説くのである。佛教でいふ天国、佛身合一の境地を涅槃といふが、涅槃とは我執我慾を去つた境地をいふのである。此の世界觀は釋迦独自のものではなく、婆羅門教の説く所と同じであるが、釋迦が一步前進した所は大乗的な見地に立つて八正道を説いた所にあるといはねばならぬ。

經文は眞に八萬四千あるか

佛教では八萬四千の法門といふ。つまり經文が八萬四千あるといふ意味であるがキチンと八萬四千あるあるわけではなく、それほど多いといふ意味にすぎない。釋迦四十五年の説法も在世中には一字一句も文字として遺さなかつた。そこで釋迦入

大使公使を派遣するに就て相手國の同意を求める、その同意を云ふ。
アジ アジテイションの略で、煽動の意。
アツプ クローズ・アツプの略で、映畫用語の大寫しのこと。
アツプ・ツィー・デット 當世風の、最新式の。
アデュー 左様なら。
アドレス 住所又は宛名。略してアドともいふ。
アド・パルーン 廣告氣球
アトモスフィア 雰圍氣、氣分。
アトラクティヴ 人目を惹く、仇ツぱい等の意。

滅後、教義の散逸と誤解を恐れ、五百人の弟子が王舎城に集まり、大迦葉を議長にして第一回の經典結集を行つた。その時、經・律・論の三藏が出来、阿難が經を、優婆離が律を誦出し、會衆がこれを審議し決定した。その時阿難が誦出した經は長中増雜の四部から成る「阿含經」である。この阿含經は小乘佛教の經典で、最も原始佛教の體格を傳へるものである。近頃有名になつた法句經といふのは、さういふ經典があるのではなく、阿含經の中から面白い言葉だけを拾ひ集めたものである。その後百年ほど経て第二回の經典結集があつた。この時は主として戒律に關する疑義を正したものであるが、佛滅後二百年の頃、阿育王が第三回結集を行つた。この時は外道の潜入によつて漸く紊れようとした佛教を正道に引戻すべく一千の會衆を集め、帝須を議長として、經律論の三藏に亘り大結集、大補訂を行ひ、次いで二百年の後第四回の結集が行はれ、五百の僧衆が集ひ、脇尊者を首座として三藏を審議し、各十萬頌、合計九十六萬言を大結集した。この時出來たのが「大毘婆沙論」である。併しこの時までには殆んど小乘教ばかりであつたが、佛滅後七百年の頃龍樹菩

アナクロニズム 時代おくれ、時代錯誤。
アブノーマル 不健康、病的、變質等の意。轉じて少し頭の變な人間のことをいふ。
アマチュア 素人、好事家
アミ 友達、異性の友人、戀人。
アメリカニズム 米國風、輕便主義、拜金主義。
アニ・カルト 一品料理。
アリバイ 現場不在證明。犯罪の嫌疑をかけられた者が、犯行のあつた時刻にその場に居合はせなかつた證明。
アンコール もう一度の意

薩が出て大乘の諸經典を結集した。これが今日まで大乘佛教の基礎となつてゐるもので、般若諸經典、華嚴經、首楞嚴經、法華經、涅槃經等はみなこの時に現れたのである。龍樹はその他に、大智度論・中論・十二門論・十住毘婆娑論等の名著を遺し、龍樹の前に出た馬鳴菩薩の大乘起信論、龍樹の後の世親菩薩の著書三十唯識論と共に大乘佛教の大宗とされてゐる。これ等を支那僧が支那語に翻譯し、幾多の訂正や註解を加へ、我國の名僧知識も種々な研究を發表し、かくして八萬四千の法門が出来上つたのである。

如來とか菩薩とかは何の意味か

如來とは眞如より來る者との意味で、佛のことである。佛とは佛陀といふ梵語でこれを翻譯すると正覺といふ意味になる。即ち正しく覺つた人のこと。如來も亦正しく覺つた人である。釋迦のことを釋迦牟尼如來といひ、その他阿彌陀如來、大日如來等いふのもみな佛の意味である。菩薩は菩提薩埵といふ梵語を略したもので、

で、演技者に再演を所望すること。

アンビション 野心、大望

【イ】

イージー・ゴーイング 安易な行き方、無精で無氣力な事。

イースト・サイド イースト・エンドとも云ひ、貧民窟、又は魔窟のことをいふ

イツト 性的魅力。

イデオロギ 社會意識。

イミテーション 模倣、模造品。

イーリユージョン 幻影、幻想。

菩提とは覺者の意、薩埵は衆生の意。即ち如來は、釋迦は別として他はみな此の世に生存しなかつた佛、即ち神のことであるが、菩薩は此の世の人間にして大悟徹底した人のことである。従つて眞の名僧知識であるならばみな菩薩である。龍樹菩薩、馬鳴菩薩を初め、ほろくと鳴く山鳥の和歌を遺した我が國の僧行基も人呼んで菩薩といふてゐる。但し必ずしもさうではなく、文珠菩薩、普賢菩薩、彌勒菩薩は實在の人間ではなく、智定意の三つを象徴した假想の佛であり、觀世音菩薩、虚空藏菩薩等も同様に假想の佛である。

大師・國師は何の意味か

これは如來や菩薩などの意味とは違ひ、元來は名僧に對する尊稱で、師匠、先生などといふのと同じ意味であるが、その後此の種の尊號を朝廷から名僧に贈られる慣例が生じ、それ以後は一般には濫りに用ひなくなつた。弘法大師といふのは名を空海といひ、弘法の名は大師號と共に朝廷から贈られたものである。最澄を傳教大

インタビュー 面會、應接會見の意。主に新聞雜誌記者が記事をとるために名士に面會に行くことをいふ。
インタナショナルリズム 國際主義。

インタナショナル 階級闘争を目的とする國際的組織
インテリ インテリゲンチヤの略で、知識階級。

【ウ】

ヴァージン 處女、童貞。
ヴァラエティ 唄、踊、手品、曲藝、輕業、寸劇等、盛り澤山に見せる演藝會のこと。ヴァリエテ、ヴォー

師、日蓮を立正大師といふのも同様である。國師も同様のものであるが、硫石を夢窓國師といふやうに主として禪宗の名僧に賜はる師號のやうである。上人といふのは世俗が名僧に對して用ひる尊稱にすぎぬ。

佛教の本地垂跡説とは何か

本地とは日本のことであり、垂跡とは假に姿を現はした意味である。即ち日本神道の諸神は佛が假の姿を現はしたものであつて、神は佛の化身であるといふ説である。この思想は奈良朝の初め、役の行者が既に唱へた所であるが、これを判然と口にしたのは行基である。行基は大佛建立に際し勅命を奉じて伊勢神宮に七日間參籠し、天照大神は、盧遮那佛の化身であるとの神託を蒙つた。故に大佛、即ち盧遮那佛を中央に安置し、左右に觀世音菩薩、虚空藏菩薩を配して、これを天兒屋根命と太玉命の化身だといつた。併しこれは恐らく神官達の媚か政策で、當時は佛教が盛になり、そのために神道が衰滅に瀕しようとしたので、神官達はその挽回策とし

ドヴィルも同じ意味である
ウィーク・エンド 週末、週末休暇。
ウィット 機智、洒落、頓智。
ウインタ 目くばせ。秋波
ウエイブ 波の意であるが理容上では髪に波形にアイロンを當てる意に用ふ。
ウルトラ 極端、尖端の意

【エ】

エア・ガール 旅客用定期航空機の接待嬢。
エア・ポート 飛行機離着場。
エア・メール 飛行郵便。

て却つてこんな説を立てたものらしい。盧遮那佛は大日如来ともいひ、太陽の象徴である所から天照大神になぞらへたのであらうが、その他は甚だ苦しいこじつけである。その後弘法大師もまた二十一歳にして早くも神佛儒三教の合體一致論を説いてゐるが、これは教理の中に一致點を見つけたといふ學者的立場からの所説であつて、本地垂跡などいふ大それた説を立てたわけではなかつた。併し此の本地垂跡説は、新興宗教たる佛教普及のためにも、國教として神代以來傳へられて來た神道の衰微を防ぐためにも極めて都合な説であるので、その後漸次勢力を得、神社の境内に佛寺が建つかと思へば、寺院の境内にも神社を祀り、八幡大菩薩だの金比羅大權現だのといふ混交した神様の名前まで生じるやうになつた。

佛教各派の教義はどう違ふか

佛教は十二宗五十六派に分れてゐる。それは法相、華嚴、天台、眞言、融通念佛、淨土、眞宗、臨濟、曹洞、黄蘗、日蓮、時宗の十二宗で、その中に天台三派、眞言

エース 第一人者、名人。
 エイプリル・フール 四月馬鹿。西洋では四月一日は嘘をついても善い日とされてゐるが、その習慣のことをいふ。
 エール 校歌、應援の叫び
 エキストラ 臨時雇のこと
 エキスタシ 有頂天、忘我
 エゴイスト 利己主義者。
 エス・オー・エス 遭難の救助を求むる無電信號。危険エスケープ 逃げる、すつぽかす。

六派、淨土四派、臨濟十四派、眞宗十派、日蓮九派その他を合せて五十六派となる。派はたゞ本山が違ふだけで教義は全く同じか、少しの差があるだけである。
 法相宗——は古く傳來し、南都の六宗中の錚々たるものであり、興福寺の道昭が傳來したもので、行基はその弟子であり、智通、智達等の名僧を出したが、道鏡などいふ逆賊まで出してしまつた。「諸法の性相を決判す」といふ教義から法相宗の名を得たが、説く所は眞言に近く、平安朝中期には一旦眞言宗と合併したが、明治になつて再び獨立した。奈良の法隆寺、薬師寺、興福寺などはその本山である。
 華嚴宗——華嚴經を根本經典としてゐる。これは八萬四千の法門中最も難解とされ、深遠な教理を含んでゐるとされてゐる。良辨が弘めたもので、聖武天皇はこれを厚く御信仰になり、東大寺などを建立せられたが、大佛の大きさに反比例して今日では日本一に小さい宗派である。
 天台宗——傳教大師が支那から齎したものであり、法華經を根本經典とし、中でも特に仁王經、金光明經、大智度論を天台の三經としてゐる。大智度論は一心三

エトランゼ 異國人、外國人。
 エピゴーネン 模倣者、亞流。
 エピローグ 結論、結び。
 エフエクト 效力、效果。
 エポック 新時代、新紀元
 エポック・メイキング 劃時代的の。
 エンゲージ 約束する。婚約する。
 エンジョイ 楽しむ、享樂する。

【オ】

觀を説く。一心三觀とは空假中三諦を圓融したもので、先づ一切を空と觀じ、次に有と觀じ、更に空即有、有即空と觀じるのである。これは佛敎の根本觀念であるが法華經はそれを最も巧妙に説いたものである。傳教大師は支那で榮えた天台宗をそのまゝ移植したのではなく、自ら工夫する所あり、一切の經典を排斥せず、全てを打つて一丸とした純圓獨妙な法を説き、併せて坐禪を修法して獨自の妙境に悟入しようとした。比叡山延曆寺は傳教大師の建立したもので、他に三井寺、西教寺等がある。
 眞言宗——弘法大師空海が支那から傳へた密敎である。大日如來を本尊とし、大日經、蘇悉地經、金剛妙經を祕密の三部經とした。空海は宇宙を地水火風空識の六大に分け、六大相寄つて萬物を構成し、大日如來また六大の所成である。故に如來も衆生も相融通し一體となるべきものである。即ち入我が入である。然して説法の時には大日如來を中心として諸佛を周圍に配した獨自の曼荼羅をかゝげ、絢爛たる説法を展開して人々を魅了した。然も眞言では獨自の護摩を焚く。これは本來は婆

オークション 競馬、せり賣。

オーソリテイ 第一人者。
 オーダ・メイド レディ・
 メイドに對する語で、寸法
 を取らせて洋服を作ること
 オール・スター・キャスト
 花形總出演の意で、映畫な
 どに多く用ふ。
 オフィス 役所、事務所。
 オフィス・ガール 女子事
 務員。
 オブザーヴァー 傍聴者。
 オペラ・グラス 観劇用の
 雙眼鏡。
 オペレッタ 一幕物の歌劇
 小歌劇。
 オポチュニスト 御都合主
 義者、日和見主義者。
 オミット 無視する。除外

羅門の形式ではあるが、眞言では婆羅門の如く單に供物を焼くのではなく、心の煩
 惱を燒き盡すために焚くのだと唱し、口に呪文を唱へ、心に佛を念じ、手に印契を
 結び、身口意の三密相應して大眞理に悟入するのだといつてゐる。この派には高野
 山の金剛峯寺を初めとして、醍醐寺、東寺、泉湧寺、勸修寺、隨心院、眞福寺、護
 國寺等がある。

淨土宗——法然上人源空が我國で創始した一派である。これは南無阿彌陀佛とい
 つて一念に阿彌陀佛を念じさへすれば一切成佛するといふ、實に簡単な教へである。
 これは龍樹菩薩が既に念佛淨土を説いてをり、我國でも空也上人や良忍上人が説
 いてゐたが、まだ一派をなすに至らなかつたのを、源空が強調して遂に一派を建て
 たのである。彼は深く天台に學んだが、こんな難しい事を衆生凡愚に説いたとて理
 解させることは出来ない。何かもつと單的に凡愚に迫るものはないか、といふので
 苦心慘澹の結果、空也の一念念佛を知り、遂にこれを唱へたのである。故に根據と
 する經文一つなく、たゞ南無阿彌陀佛と唱へさへすればよいのである。智恩院、禪

する。
 オリジナリテイ 獨創、創
 意。
 オリジナル 獨創的な、斬
 新な。
 オリンピック オリンピア
 に祀つたゼウス神の祭典に
 行はれた奉納仕合のこと。
 これが一八九八年に復活し
 第一回がギリシヤのアテネ
 で開催され、爾來四年目毎
 に行はれて今日に及んでゐ
 る國際競技會。
 オン・パレード 總出演、
 大行進。

【カ】

林寺、光明寺、増上寺、誓願寺等はこの派の名刹である。

淨土眞宗——眞宗ともいひ、一向宗ともいふ。淨土宗から分れたもので、法然の
 弟子親鸞が建てた一派である。同じく南無阿彌陀佛と念じるだけで成佛すると説く
 ことは淨土宗同様であるが、淨土宗が比較的到他力を説くのに對し、眞宗は絶対に
 他力を説く。法然は、吾々は凡夫であるから深遠な理窟を説かれても解らぬ。だか
 ら念佛を唱へ、彌陀の慈悲にすがつて往生するのだと云ひ、凡夫でない者の自力成
 佛を認めてゐるのに對し、親鸞は、一切の衆生は凡夫である、だから一切他力によ
 るほかに成佛の方法はない。だから一向に念佛を唱へ、罪も汚穢も一切合切阿彌陀
 佛にまかせ切つてしまへと云つた。そして法然が現世の成佛を説かなかつたのに反
 し、念佛さへすれば即身成佛すると説き、更に感恩報謝をすゝめた。だから彼は自
 ら出家とはいはず、愚禿親鸞と稱し、僧形を廢して妻を娶り子を生子、凡俗と同じ
 生活をした。故に庶民階級には非常な勢ひで弘まり、佛教中第一の信者數を持つて
 ゐる。東本願寺、西本願寺を初め、興正寺、佛光寺、専照寺等がある。

カール 捲き毛、縮れ毛、特に鍔をかけて捲き縮らせた毛髪。
ガイド 案内者、指揮者。
カウンター 計算器、又は計算係。
カクテル 混合酒。
カジノ 倶楽部、歡樂場。
カタストロフイ 大詰、大團圓。
カタログ 商品などの目録
営業案内、形録。
カツプル 一對、夫婦、二人づれ。
カテゴリー 範疇。
カモフラージ 迷彩、保護色の意から、相手の目を誤魔化す意味に用ふ。

日蓮宗——日蓮上人が創始した我國独自の宗派である。元來は天台から出、法華經を根本經典とするが、天台宗がその八軸二十八品中の前十四品を採り、理論に重點を置くのに對し、日蓮宗は後の十四品を採用して實踐に主力を注ぎ、本門の本尊、本門の題目、本門の戒壇といふ三大秘法を修し、南無妙法蓮華經を唱へることによつて成道しようといふのである。これも七字の名號を唱へて成佛を説くところは淨土宗や眞宗の故智にならつたのであらうが、立正安國論を唱へたり、念佛無間、禪天魔、眞言亡國、律國賊などといふ激しい言葉を弄して他宗を罵り、政治的批判を加へて實社會の改革を行はうとした所に日蓮宗獨特の積極性がある。

禪宗三派——臨濟・曹洞・黃蘗を禪宗の三派としてゐる。教化別傳不立文字といひ、何等の經典、何等の理論によらず、坐禪して自ら心膽を練ることによつて以心傳心に大悟しようといふ宗派である。その昔釋迦が靈鷲山に於て説法の壇に上つた時、一語も發せず、やをら一輪の花を拈つて大衆に見せたが、誰もその意を解する事が出來なかつた。その時大迦葉一人はニツコリ笑つてその意を解した。これを拈

カリカチュア 漫畫、諷刺畫、似顔繪等の意で、事物の特徴を誇張して表現したものの。
カレント 潮流、趨勢、流行する。

【キ】

キー 鍵、解説、手引。音樂用語では鍵盤のこと。
キー・ノート 音樂用語で主調音、本調子。轉じて中心思想、主旨、基礎の意に用ふ。
キヤステイング・ヴォート 二大政黨の勢力が相伯仲する時、その間にある少數の

華微笑といつて禪宗の濫觴たと稱してゐる。玄妙不思議の宗教のやうではあるが、誠に單的であり、直心道場不立文字の教義が我が國の武士氣質にピッタリ合ふ所があつて鎌倉時代には大いに榮えた。初めは達磨が支那に傳へたといはれ、支那で榮え、慧能・神秀の時に南北二派に分れ、南宗慧能から臨濟宗が出で、北宗神秀から曹洞宗が出た。臨濟は中でも最も單的なるものであるが、曹洞宗はこれに比べて些か智識的である。臨濟は榮西が我國に傳へ、曹洞は道元が傳來した。黃蘗宗は臨濟の一派で、明の僧隱元が渡來し傳へたものであり、多くの經文が各宗とも唐音で讀まれるのに對し、黃蘗のみが明音で讀む所に大きな特長がある。臨濟には天龍寺、南禪寺、建仁寺、大徳寺、相國寺、東福寺、方廣寺、建長寺、佛通寺、永源寺、妙心寺、圓覺寺、向嶽寺等があり、黃蘗宗には萬福寺、曹洞宗には永平寺、總持寺等がある。

融通念佛宗——良忍上人の唱へたもので、當時は自力宗ばかりだつた中で、初めて他力宗を唱へた。一人一切人、一行一切行、一切人一人、一切行一行と云ひ、

第三黨の持つ決定権をいふ
キヤスト 俳優の役割、配役。

キヤツシユ 現金。

ギヤツプ 破れ目、間隙の意より轉じて、意見の齟齬軋轢の意味に用ふ。

キヤバレ― 踊り子の居る酒場。

キヤラクター 性格、人物品性。

ギヤラリー 美術品陳列所又はデパートなどの展覽會場向きに造つた室の意。

ギヤング 米國に流行してゐる大規模な悪漢團のことであるが、暴力團、ユスリなどのことをも云ふ。

キヤンデイ 種々な果物などの味のついてゐる砂糖菓子。

キヤンデイ・ストア 本來は菓子屋の意であるが、主に菓子屋で喫茶店を兼ねた店の事をいふ。
キヤンピング 天幕生活。

【ケ】

クイーン 女王、女性の花形。

クーデター 非合法的な實力手段で反対派を掃蕩し權力の掌握維持を計る方法をいふ。

クーボン 利札、割引券。

一人が念佛を唱へれば一切の衆生が救はれ、多人の念佛の功德は個々人の功德を攝し、一多融通してみな佛果を得ると教へる。攝津の大念佛寺はその總本山である。
時宗――一遍上人遊行の創始したものである。法然から出で、親鸞とも違つた一派の念佛宗を唱へた。釋迦一代の書册聖教今日滅盡して唯南無阿彌陀佛を留むるのみ」と稱し、人生は無常迅速で何時死ぬかも知れない。だから平生時がこれ臨終時である、四六時中を臨終時だと思ひ、一念彌陀の名號を唱ふべしと教へる絶対名號主義である。

東本願寺と西本願寺の相違點

親鸞上人が創始した眞宗は又の名を一向宗、門徒宗等ともいひ、その總本山は、戰國時代までは大阪の石山にあり、名を本願寺と云つた。織田信長が中國征伐に行くと時、僧兵が抵抗の氣勢を示したので信長は一氣に攻め落さうとした。そこで第十一世の法主顯如上人が驚いて和睦したが、その子教如はこれに従はず、父と義絶してしまつた。信長の死後、間もなく顯如上人も死んだので、豊臣秀吉は教如を第十二世として本願寺を繼がしめた。所が顯如の後室如春尼は顯如の末子光昭を立てようとし、教如の昔の態度を秀吉に訴へたので、秀吉は教如を隠居させて光昭を立て第十二世法主として准如と名乗らせた。併し教如には猶隱然たる勢力があり、本願寺内は、何時しか二派に分れて相争ふた。徳川家康は豊臣との關係もあつて教如に同情してゐたが、關ヶ原合戦後、後陽成天皇の御裁可を得て、京都烏丸へ本願寺を興し、教如を法主たらしめた。これが東本願寺で、准如の方を人呼んで西本願寺と云つた。その後東と西とは常に感情的や政治的に相争つて來たが、元來宗教的の争ひではないので、宗教的には差別がない。けれども感情的な對立は差別のない宗旨にも少しづつ差別を生じ、東が傳統を重んじ、何處までも保守的に、地味に行かうとすれば、西は進歩的に派手に振舞ひ、祖師の法語に對しても、東が「御ふみ」といへば西は「御文章」と云ひ、祖師の降誕や遷化の日を東が今なほ舊曆で祀れば、西は太陽曆に改め、東京に於ける別院にしても、西が印度風の鐵筋コンクリート石

クライマックス 最高潮、頂點。

クラシツク 古典的。

グランド・オペラ 喜歌劇に對して正歌劇のこと。

クリスマス・イーヴ クリスマスの前夜。即ち十二月二十四日の夜行ふ宵祭。

クリスマス・カード クリスマスの贈物に用ひるカード。

クリスマス・プレゼント クリスマスを祝ふ贈物。

グループ 仲間、一味。

ドロ グロテスクの略。奇怪な、獵奇的な、變態的な。

ケープ 肩衣、婦人用の廻し外套。

【ケ】

佛教の珠數は何の意味か

造で行けば東は昔ながらの様式を墨守するといふ風である。
寺の山號の起源
佛教の寺は、何宗に拘らず、東叡山寛永寺とか、成田山千勝寺とかいふ風に必ず「××山」といふのが冠せてある。これは昔の習慣や俗稱が何時の間にか一般化したものである。佛教が隆盛したのは平安朝の頃、空海・最澄の二大傑僧が出て眞言・天台の二宗を傳來弘通した。その時彼等は高野山や比叡山に立籠つて自分等の修養を積むと共に弟子達に難行苦行をさせて精神を鍛錬した。又在家の道を聞かうとする者も人里離れた高山に登つて先づ邪氣を拂つた。かうして二宗は天下に廣まつたが、人々は金剛峯寺へお詣りしようとか、延暦寺へ行かうとかいふ代りに、高野山へ、比叡山へと呼びならはした。これが何時の程にか寺に山號を冠する習慣を生み市中にあつても山號を稱し、寺院の境内のことを「山中」と呼び「一山の僧何千」「山門」「山院」などの詞が出来るやうになつた。

ケープ 肩衣、婦人用の廻し外套。

ゲー・ペー・ウー ソヴェエト露西亞の國家保安部の略稱。

ゲルト お金のこと。略してゲルともいふ。

【コ】

コー・ストツプ 「進め、止れ」の意で、十字路や交叉點に於ける交通整理の信號

コーラス 合唱、合唱隊。

コーラス・ガール 歌劇などの下ツ端役をいふ。

コケツト なまめかしい女

コケツトリー 嬌態、媚を

珠數も今日では種々な大きさの物があるが、正式には珠が百八個あるべきである。これは百八煩惱と云つて人間には百八つの迷ひや悩みがあり、これを退治するために百八體の佛様が居られる。だから百八佛の名を唱へれば百八煩惱は立所に消滅する。そこで百八佛の名を唱へる時、一つでも數へ違ひのないやう、一つ唱へては珠を一つくり、二つ唱へては珠を二つくつて行くので、謂はゞ算盤珠の役目を務めるものである。所が後世になつて珠數そのものが悪魔降伏の威力があるやうに誤解され、兩手にかけて揉み上げ揉み下ろして祈禱をするやうになつたり、念佛宗では念佛を唱へた數を數へる案内に使はれたりするやうになつた。

基督教と猶太教は何處が違ふか

キリストは猶太人であり、猶太教の教育を受けて成長した。従つて猶太教と多く

賣る、又はさうした技巧をいふ。
コケティッシュ コケツトの形容詞で、妖艶な、婀娜ツばいなどの意。
ゴシップ 噂話、無駄話。
コレクシヨン 集合、蒐集、蒐集物。
コンミニケ 聲明書、通牒。
コンクール 音楽などの競演會、競技會。
コンサート 演奏會、音樂會。
コンサイス 簡単な、簡潔な。
コンダクター 樂隊又はオーケストラの指揮者。

の共通點を持つてゐるのは當然であるが、又一方、猶太教の持つ缺點を補ひ、猶太教に反した諸點を持つことも勿論である。イエス・キリストは西曆紀元前五年乃至七年頃にベツレヘムに生れた。家は貧しく、従つて餘り教育も受けなかつたが、信心は極めて厚く、三十歳の時豫言者ヨハネからヨルダンの河岸で洗禮を受けた。その時天に聲あり「爾は我が愛しむ子、我爾を悦ぶ」と呼んだ。イエスはこれを聞き、ハッキリと自分が神の子であることを自覺し、聖靈の導きによつて荒野に行き四十日間斷食修行し、三種の誘惑に打勝ち、愈々神の子たる自覺を強め、出で、説教した。彼の説く所は猶太教と殆んど大差なかつた。だが彼は、猶太教が祀る唯一神エホバのことを、父なる神を以てした。猶太教ではエホバが天地を主宰し、律法を定め、神の意に背くものを罰し、エホバは常に人間の外にあり、人間の上に嚴然として立ち、神と人間とを結ぶものは豫言者と天使のみであるとする。然るにキリストは、神は人間の父であり、人間は一人残らず神の子である。故に神は「汝らの中、誰か百匹の羊をもたんに、若しその一匹を失はば、九十九匹を野におき、往き

コンツエルン 同一資本の關係諸會社の統一體、所謂財團。
コント 極く短かい小説。掌篇小説。
コントラスト 對照、對比配合。
コントロール 制御する、支配する。

【サ】

サーヴィス 接待、奉仕。
サーヴィス・ガール デパートや市電の停留場等で客の接待をする新職業婦人。
サーヴィス・ステーション 御用承り所、自動車給油所

て失せたる者を見出すまでは尋ねざらんや」といふほど限りなく人間を愛し、若し罪を犯すことあるとも「悔ひ改むる一人の罪人のためには、悔ひ改めの必要なき九十九人の正しき者にも勝りて、天に歡喜あるべし」としてこれを許した。即ち猶太教のやうに戒律嚴重なものとはせず、愛を以て人を慈しんだ。また猶太教では、猶太人のみがエホバ神に選ばれた民であつて、他の民族は恵まれざる豚だと云つて排斥する。けれどもキリストは、人間は等しく神の子であるから、神の御前には一様に兄弟である。故に兄弟は愛し合はねばならぬと云ひ、更に進んで「汝らの仇を愛し、汝らを責むるものために祈れ」とまで教へた。そして神に對しては子が父を敬ふ如く慕ひ敬ひ、子が父の命に従ふ如く忠實に神の誡めに従へと云つた。その上正義の者には最後の榮光があることを説き、「一粒の麥もし地に落ちて死なずば一つにてあらん、若し死なば多くの實を結ぶべし」といつて犠牲的精神の尊ぶべきことを強調した。然もキリストは、これ等の教へを説くに當つてもむづかしい事をいはず、日常茶飯事の出來事を捉へ來つて、極めて平明な言葉で判り易く説いた。その

サークル 團體、仲間。
 サイズ 型、大きさ、寸法
 サイレント 無聲の。
 サウンド 音、音響。
 サナトリウム 療養所。特に海岸や高原などの空気のよい所に建てられた療養所の意。
 サブタイトル 映畫の説明字幕。
 サボタージュ 業務妨害のための怠業、略してサボともいふ。
 サロン 客間、又は美術展覽會。
 サンドウィッチ・マン 後に廣告ビラを下げた街頭廣告屋。

ために彼の教へは忽ち弘まり、人々は救世主だと呼び、彼を主領としてローマ帝國に反旗を翻へさうとした。併しその氣持こそ猶太教の滓であり、キリストの最も厭ふ所である。彼はそれ等の言葉に耳もかかず、只管神の道を説いた。期待を外された民衆は却つて怒り、キリストを捕へて十字架にかけた。その後キリスト教は幾多の困難と迫害に遭つたが、然も却つてそれを迫害したローマ帝國に傳播して大いに榮え、終に歐洲全土に弘まり、延いては全世界に弘まつて今日の隆盛を見るに至つたのである。それは一に猶太教のやうに排他的でなく、一視同仁の深い愛を説くものだからである。

基督教は何時日本へ傳來したか

天文十八年、フランシスコ・ザヴィエルによつて傳來されたのが最初である。ザヴィエルは當時印度に本據のあつたゼスイツト教團の宣教師であつた。時に我國は足利末期の戰國時代であつたが、間もなく織田信長、豊臣秀吉等によつて天下が統

サンプル 見本、雛形。
 サンマー・ハウス 夏別荘海の家。
 サン・ルーム 日光浴室、硝子張りの温い室。

【シ】

シーク 粹な、洗練されたの意。
 シーズン 季節、時節、よい時期。
 シーズン・セール 季節品の賣出し。
 シーズン・チケット 定期乗車券。
 シーン 場面、情景、光景
 シェーン 美しい、みよい

一され、然もこの二人はキリスト教（當時天主教といつた）を政略に利用したのでその傳道は案外樂であり、信長は京都に南蠻寺などを寄進したので忽ちにして弘通し、天正の中頃には、九州、山陽、南海一帶には信徒夥しく、遠く關東、東北にまでも傳播した。秀吉は初めは信長同様それを助けてゐたが、その傳播力の餘りに強いのと、キリスト教の背後にポルトガルの政治的意圖が動いてゐるのを見、天正十五年突如禁止令を發し、南蠻寺を焼き、宣教師を追放し、國民に信仰を禁じた。けれどもその禁止令は容易に徹底せず、九州では大友、小西等の大名まで熱心に信仰し、徳川の代となつても容易に滅びようとはしなかつた。けれども徳川幕府は、ポルトガルやイスパニヤの野心を一層恐れ、慶長十六年改めて禁止令を嚴達するのみか鎖國政策までとることとし、同十八年には長崎の會堂を焼き、多數の信徒を磔刑に處し、踏繪などの方法を考案して執拗に轉宗を強要し、寛永十四年には終に島原を討ちさへした。かうして打續く壓迫にキリスト教も漸く表面は影をひそめたが教理は人民の間に形をかへて潜在し、幕府の力の漸く衰へ初めた嘉永、安政の頃に

我國ではこれをシャンと訛つて發音してゐる。
ジエステユア 身振り、手振り。
ジエネラル・ストライキ 總同盟罷業。略してジエネ・ストともいふ。
ジエネレーション 時代。
シガレット・ケース 紙巻煙草を入れる容器。
ジャーナリスト 新聞、雑誌の記者、編輯者。
ジャーナリズム 新聞式、雑誌向、新聞中心主義等の意で新聞雑誌の作り上げる流行、或は気分のことをいふ。
ジャズ 一種の騒々しい、

は再び表面に現れた。併しなほ禁制が解けたわけではないので大々的な布教は出来なかつたが、明治六年初めてこの禁制が解かれ、明治二十二年憲法が發布せられて信教の自由が認められるやうになつてからは、世の歐風崇拜の波に乗つて順風に帆をあげ、終に今日のやうになつたのである。

基督教の新教と舊教はどう違ふか

十六世紀の中葉に、獨逸にマルチン・ルーテルといふ神學教授が現れ、ローマ教會の改革を叫び、法王の發した放逐狀や命令書を焼き捨てて深刻な抗争を續けた。これよりこのルーテル派を新教と呼び、それに對して從來のローマ教會派を舊教と呼ぶやうになつた。新教と舊教では聖書に對する解釋も若干違ふ點もあるが、最も大きな相違點はその禮典である。舊教には七祕密といひ、聖品・聖傳・洗禮・堅信禮・聖餐・聖婚・聖膏の七種の禮典があり、この禮典を経て初めて眞の信者たり得るのである。所が新教では洗禮と聖餐の二つしかなく、然もそれも極めて簡單なものである。

刺戟的な音樂。
ジャズ・バンド ジャズ音樂團。
ショー・ウィンドー 陳列窓。
シヨップ・ガール 商店の女賣子。
シリーズ 目的、内容、傾向の類似した出版物。叢書
シンジケート 政府の國債都市の公債等を引受ける銀行の團體。
シンパ シンパサイザーの略。共產黨に資金を提供する者。

【ス】

のである。次に舊教にはローマに法王といふ最高權威があり、法王は神の如く誤謬を犯すことなしといはれるが、新教にはそのやうな存在はない。又舊教には僧正といふものがあつて神と人間との中間に位するが、新教には僧正はなく、牧師といつて、たい迷へる子羊達を神の道へ導くだけのものしかない。これ等を要約すると、舊教は保守的であり形式的であるが、新教は進歩的であり形式よりも精神を尊ぶ。だからそれは進歩的な智識階級の間に忽ち勢力を得たのみか、折柄時を同じうして興つたルネッサンスの運動、自由主義的な氣風に合ひ、非常な勢で各國に弘まり終に舊教を壓倒する勢力となつてしまつたのである。中歐諸國及び英米は大部分新教であり、我國にも安政六年初めて渡來して以來、忽ち弘通し、キリスト教といへば殆んど新教である有様となつた。

聖書の舊約と新約はどう違ふか

聖書に舊約と新約があり、キリスト教に舊教と新教があることだけを知つてゐる

スプーイト 甘い、香りがよい、楽しい、愛らしい。
 スプーイト・ホーム 樂し家庭の意で、新婚の家庭のこと。
 スカイ・サイン 電光ニュース、空中電燈廣告。
 スクラップ・ブック 切抜帳、拔萃帳。
 スクリーン 幕、映畫幕。
 スケール 規模、結構。
 スケデュール 目錄、一覽表、時間割。
 スター 人氣俳優、花形役者。
 スタイル 態度、風采、又は様式、文體。
 スタディオ 元來は畫室、

人の中には、舊教は舊約聖書を基本とし、新教は新約聖書に據ると考へてゐる人もあるが、とんでもない誤である。舊約聖書とは猶太教の聖典で、その教理の殆んどすべてはこの中に總括されてゐる。三部三十九卷から成り、第一部は猶太教の根本教理を示す律法で、創世記・出埃及記・レビ記、民數紀略・申命記を含み、第二部は多くの豫言者の豫言書で、ヨシユア記・士師記・サムエル前後書・列王紀略上下・イザヤ書・エレミヤ記・エゼキエル書及び十二の小豫言書があり、第三部は以上のもを詩歌にした文學で、詩篇・箴言・ヨブ記・雅歌・ルツ記・エレミヤ哀歌・傳道の書・エステル書・ダニエル書・エヅラ書・ネヘミヤ記・歴代志略上下から成つてゐる。これに反し新約聖書はキリストの生涯及びその教訓を基礎として編まれたもので、マタイ傳・ルカ傳・マルコ傳・ヨハネ傳の四福音書は、キリストの言行を記録したものであつて、マルコ傳が最も初めに書かれ、ロマ書以下の書簡は大部分使徒パウロの書いたものだといはれてゐる。四福音書のほかに、ヤコブ・ペテロ・ヨハネ、ユダ等の書翰及びヨハネ黙示録があり、全部で二十七卷である。

基督教にはどんな宗派があるか

彫刻室等の如き製作部屋の意であるが、映畫の撮影所寫眞館、ラヂオの放送室などのこともいふ。
 スチール 映畫の一場面の寫眞、又は鋼鐵。
 ステージ 舞臺。
 ステートメント 聲明書、覺書の意で、元首、政治家外交官等が關係國民に公人としての意見やその行動方針等を陳述して正式に發表する文書のこと。
 ストリー 筋、話、物語
 スナップ 即興的なスケッチ風の寫眞。
 スパーク 電氣の火花。
 スピード 速力、速度。

大別して新教と舊教であるが、舊教を更に二大別するとローマ教とギリシヤ教となる。ローマ教はローマカトリック教ともいひ、ローマ法王を中心とし、教會を天主教會、西方教會、ラテン教會などいひ、伊太利・スペイン・オーストリー・南アメリカ等のラテン系の人種に信仰せられ、全世界キリスト教徒の半數を占めてゐる。教理は新教ほど進歩的ではないが又ギリシヤ教ほど保守的でもない。ギリシヤ教はギリシヤに興り、神學上の用語は今もなほギリシヤ語を用ひられてゐる。教會を東方教會、正教會などいはれ、トルコのイスタンブールにある天主教に統轄せられてをり、主として北歐地方に信者が多い。新教はプロテスタント教ともいはれ、福音ルーテル教會、バプテスト教會、メソチスト教會、英國教會、アングリカン派、清教派、モルモン宗、救世軍等があり、中歐及び英米に信者が多い。これ等はみな大同小異であるが、救世軍が内部組織を軍隊式にし、街頭傳道に力を注い

スピード・アツプ 速力を早めること。
スピリット 精神、魂。
スペシャル 特別の、別仕立の。
スペシャル・セールス 商店の特別大賣出し。
スローガン 團體や政黨等の運動方針を端的に現した標語。

【セ】

セーラー・ドレス 水兵服型の少女服。
セーラー・パンツ 水兵服型の末廣がりのズボン。
セールス・マン 商店の勤

である點と、モルモン宗がモルモン經を聖典とし、一種特別の風俗習慣を持ち、一夫多妻主義などを唱へてゐるところ、少なからず回教じみてゐる點に大きな特長がある。

基督教の洗禮は何の意味か

基督教の洗禮のことをバプテスマといふ。これは基督を信ずる信仰により、罪許され、汚れを洗ひ潔められて神の子とせられた事を顯す儀式である。舊約の時代から洗ひ潔めの儀式が守られ、キリストも、バプテスマのヨハネから洗禮を受けられた後、公の傳道の生涯に入つた。バプテスマは全身を水に浸して罪の自己が死んで葬り去られ、水から引き出されて、キリストにより、新しい生命の生活に復活したことを意味する。今日の教會では一・二を除く外、牧師が頭に水を注ぐ略式が用ひられてゐる。洗禮のことは基督教に限らず、他宗に於ても種々な形式で行はれ、その精神は大體同じやうである。

セカンド・ハンド 中古物
セカンド・ラン 封切された映畫が直ぐその次の週に異つた常設館で上映されること。又、さういふ常設館のことを俗にセカンド館ともいふ。
セクション 部分、區分の意で、新聞雜誌等にある「娛樂セクション」といへば、ちよつとした娛樂向きの記事を載せた欄のこと。
セックス 男女の別、性。
セット 一組、一揃ひの道具の總稱。映畫用語では撮影のために臨時に組立てた家や部屋などのこと。

救世軍は何時頃出來たか

救世軍は一八六五年英國のウキリアム・ブリス夫妻が創始したキリスト教による救民運動の團體である。當時のキリスト教は、立派な大僧正や神學者達かゝり、立派な教會で有難い説教をしてはゐたが、大方は貴族や金持のためのものであつて、眞に迷へる哀れな貧民達は殆んど顧みなかつた。養老院や孤兒院は經營してゐたがその塀の中に閉籠つてゐて、眞に巷に泣く孤兒や老人を顧みなかつた。ブリス夫妻は痛くこれを嘆き、有難い神の道を説くよりも先づ彼等にパンを與へよと叫び、ロンドンのイースト・エンドといふ貧民窟に入つて行つて授産場や病院を建て、身の糧と心の糧とを同時に與へて熱烈な社會矯風事業を起した。當初は上下から猛烈な迫害や嘲笑を受けたが、ブリス夫妻は敢然としてこれを貫き徹した。彼は多難で繁雜な行動を強靱に行ふには勿體ぶつた組織ではいかぬと思ひ、内部を軍隊式に組織し、法衣をかなぐり捨て、軍服にかへ、大將から兵卒に至るまで軍隊同様の階級を

セツツルメント 貧民階級の向上を計る社会改良家の團體又はその事業。
ゼネ・スト ジェネ・スト (ジェネラル・ストライキ) の訛りで、總同盟罷業のこと。

セレクション 選擇、選抜
セレナーデ 夜の調、夕べの歌、小夜曲。

センジュアル 肉感的の。
センセーション 煽情的、人氣に投ずる、又は感動、評判。

センチメンタル 感傷的の意
センチメント 感情、情操

【ソ】

ソーシャリスト 社會主義者。

ソーシャリズム 社會主義

ソーシャル・ダンス 社交ダンス。

ソサイエテイ 會、社會、社交界。

ソナタ 奏鳴曲。器樂曲。

ソネット 十四行詩、小曲

ソプラノ 女聲最高音、女聲高音獨唱。

ソロ 獨唱、獨奏。

ソング 歌、詩、小唄。

【タ】

設け、濟民救世のために勇ましく進軍して行つた。そして遂に今日のやうに世界的な大をなすに至つたのである。本部はロンドンにあり、各國に支部を設けてゐるが我國でも東京に日本の總本部を設け、山室軍平中將が總司令官となつて運動を進めてゐる。

サンタクロースは何の象徴か

紀元三百年頃小アジアのシシヤにサンタ・ニコラスといふ高德の名僧があり、ギリシヤ正教會の聖者の首座にまでなつた人であるが、非常に情深く、氣の毒な人を見ると人知れず色々な物を恵んでやり、殊に子供が好きで、よく子供達を勞つた。そこで人々は彼の徳に悦服し、三四二年十二月六日に彼が死ぬと、人々はその日を紀念して毎年大祭を行ひ、彼の徳を稱へた。それが何時の間にか災難よけの神様になつてしまひ、航海者、旅行者、商人等は靈前に詣で、祈願した。その日街ではサンタ・ニコラスの肖像を掲げたが、眞白な長い鬚を蓄へた童顔は子供達に特に慕は

れた。それが何時の程にかオランダに傳はり、時期も近いので十二月二十五日のクリスマスに結びつけられ、サンタクロースといふ傳説のお爺さんが出来てしまつたのである。

回教の分布状態

回教は回々教、マホメット教、イスラム教などと云はれ、西曆六二〇年頃アラビア人、マホメットがメツカで創めた一神教である。その後官憲に追はれてメデナに移つたが、後マホメットは信徒軍を率ゐてメツカを占領し、此處に鞏固な基礎を築いた。だからメツカは今日でも回教の聖地となつてゐる。マホメットは只の豫言者でなく、片手にコーラン(經典)片手に劍を持ち、布教のために自ら陣頭に立つて戦ふこと九回、十年間に五十四回も戦争をし、六三二年には遂にアラビア全土を統一した。彼の死後カリフによつて益々積極的な布教が進められ、西はトルコ、エジプト、北部アフリカ一帯からスペインにまで及び、東はベルシヤ、印度、トルキス

ダーク・サイド 暗黒面。
ダービー 英國サリ州で毎年行はれる英國第一の大競馬のことであるが、轉じて單に競馬の意味にも用ふ
タイ・アツプ 二つ一緒に組み合はせること。
タイトル 映畫の字幕、又は書物の表題。
タイプ 型、様式、見本。
タイム・スタンプ タイム・レコーダーとも云ひ、スタンプに時計が装置してあつて、一秒の狂ひもなく出勤や退社の時間を自動的に明記する機械。
タイラント 暴君。
タキシード 略式の夜會服

タン、サマルカンドに至り、史上有名なサラセン帝國及びサラセン文化を生み、又オスマントルコをも建設した。回教は目下七十二乃至百五十餘派に分かれてゐるがこれを大別するとスンニ派とシャイ派となる。スンニ派は正統派のことで、トルコ、アラビア、トルキスタン、アフガニスタン、エジプト、トリポリ、チュニス、アルゼリア、モロッコ等に廣まり、赤いトルコ帽を冠る信者數一億八千萬人と號される。シャイ派は異教派の事で、信者は白い頭巾をかぶり、アラビアの一部、イラン、印度、コーカサス、ソ聯及び滿洲の一部、新疆、青海から甘肅、雲南、河北等の支那本部、南洋にまで廣がり、その數一億二千萬人、合計三億の信徒を世界に持つてゐる。我國にも神戸及び東京に寺院があり、トルコタター人六百人、印度人百人の信者を持ち、邦人の信者も若干ある。回教徒はアララの神を信ずるは勿論であるが、傳統的にキリスト教を毛嫌ひし、佛教には比較的その氣分少く、民族的に白人を極度に嫌ふ。その教典は悉く社會の規範であり、政教一致を説くところ我國傳統の祭政一致と似てゐるとして、近時漸く回教に關心を持つ者が増して來た。

神道は宗教であるか

タクト 拍子、指揮棒。
ダツシュ 突進。
ダブル 二重になる、重なる。
タレント 才能、技倆、手腕。
ダンケ 獨逸語で有難うの意。
タンゴ スペイン風の舞踊
ダンディ 洒落者、伊達者
ダンピング 投賣、不當廉賣。

【チ】

チエーン 鎖、連鎖の意で東寶チエーンといへば東寶系映畫上映の獨占的な連鎖

今日一般に神道といはれてゐるものには神社神道と宗派神道とがある。神社神道は宗教ではないが、宗派神道は立派な宗教である。神道とは神の道を明かにしたものである。神とは、「あらかみ」で、明神の意であり、鑑即ち人の模範龜鑑であるとの説、神は「隠し身」で、人の目に見えぬものの意であるとの説、神は「明見」で、神明君臨の義であるとの説、神は「上」の意であるとの説、神は「力」と「ミ」を合せたもので、「力」は權威とか威嚴の意であり、「ミ」は集中、凝集の意であるから、従つて威嚴の權化であるとの説等がある。いづれにしても我が神道では神を太陽に結びつけて考へることに變りはなく、天照大神を太陽の如く崇め奉る。そして天照大神を中心に、天御中主神、高御産靈神、神御産靈神を天地創造の神とし、伊邪那岐、伊邪那美の男女兩神を國土創造の神とし、以下八百万の神々を祀る。然も皇室は神の御裔であり、國民は八百万の神々の末孫である所から君民一家の觀念

網のこと。
チエーン・ストア 各地に連絡ある同一系統の連鎖店
チケツト 切符、入場券。
チツプ 心づけ、祝儀。
チャーム 人を惹きつけるその力、魅力。
チャンス 機會、好機。

【ツ】

ツーリスト 観光客、漫遊者。
ツーリスト・ビューロー 観光客案内所。
ツーリング 漫遊する、週遊する、案内自動車。
ツレード・マーク 商標。

が生まれ、皇室を尊び、皇室の祖神を祀ることは、延いては自分等の祖先を祀る所以だとし、こゝから忠孝一致の道徳律まで生れて来た。いづれにしてもこの觀念は我々大和民族からは抜くべからざるものであつて、我々の血であり肉であり、宗教以上のものである。従つて神社を尊崇する心持は、宗派神道の信徒はもとより、佛教徒であらうがキリスト教徒であらうが等しく懐いてをり、少しも其處に矛盾を感じない。併しこれは神社神道に對するものである。宗派神道はこの觀念から流れ出たものではあるが、それに宗教的要素を大いに加味し、獨自の教理と觀念を以て興つたものである。これに神道十三派と稱し、神道本局、黒住教、修成派、禊教、大社教、扶桑教、實行教、大成教、御嶽教、神理教、神習教、金光教、天理教等、以上十三の宗派がある。

官幣社と國幣社はどう違ふか

神社には官幣社・國幣社・府縣社・郷社・村社・境外無格社等の區別があり、こ

デザイン 意匠、設計、模様。
テイビカル 典型的、代表的。
テイレンマ 矛盾、板ばさみ。
ティー・パーティー お茶の會、形式張らぬ會合。
テーゼ 立言、命題、論文
テープ 物をくゝる紙紐、又は布の細い紐のこと。
テーマ 主題、題材、題目
デカダン 刹那の享樂を追ふ廢類的傾向、又その一派
テキスト 原文、本文、原

【テ】

れによつて神社の格式を定めてある。そのうち官幣社と國幣社には大・中・小の各三種があり、別に別格官幣社がある。官幣社は皇室の御先祖の神々及び聖徳の御高き天皇や御功績顯著なる皇族をお祀りした神社中の由緒深きものであり、祈年祭・新嘗祭、例祭等には毎年宮内省より幣帛と新饌料を供進される。國幣社は功績高き臣下を祀つた由緒ある神社で、祈年祭と新嘗祭だけに宮内省から幣帛・新饌料を供進し、例祭には國庫から供進する。別格官幣社は、普通なら國幣社にすべきものであるが、靖國神社のやうに功績の特に顯著な臣下を祀つた神社に對し、官幣社同様の取扱ひを與へられるものである。府縣社は府縣で、郷社は近郷何ヶ村かで、村社はその市町村等で祀るものである。

儀禮と習慣

日の丸の國旗の起源

本。
テクニカラー 天然色映畫
テクニツク 技巧、手法。
デコレーション 飾り。
デザート 定食の最後に出る菓子、果物、コーヒー等をいふ。
デザート・コース デザートが出る時間のこと、挨拶、祝辭、乾杯等はこの時間に行はれる。
テスト 試み、試験。
デッサン 素描、圖案。
テナー 男聲次中音、又はその歌ひ手。
デパート デパートメント・ストアの略で、百貨店。
デビュー 初舞臺。初演奏

幕末時代の鹿兒島藩の名君島津齊彬は進取の氣象に富み、歐米文化の進歩してゐるのに驚き、早くこれを攝取して我國文化の發展に貢献したいと思ひ、それには外國との交易を開き、一方海防を固める必要を説き、幕府の許可を得て早くも西洋式の軍艦や汽船を建造したが、外國船の入港が漸く頻繁となり、外國船のmast高く懸へる旗を見て、我が國にも一定の船印がなくてはならぬと考へ、種々苦心の結果白地に赤の日の丸を考案し、安政元年以後早くも先づ薩藩の船には全部これを使用せしめたが、後幕府にその使用方を建言し、遂に文久三年八月から一般に日本船の船印とすることに決定した。その後明治三年一月、太政官令によつてこれを正式に國旗とすることに決定し、その寸法等を制定した。併しこれはたゞ官公署で用ひるのみで、一般國民は餘り用ひなかつたし、國旗崇拜の觀念もなかつたが、法學博士松波仁一郎氏等の提唱により、大いに國旗普及の運動が起され、一般化するに至つたのは漸く明治三十年頃のことである。併し日の丸の旗印は必ずしも島津齊彬の獨創によるのではない。元來東洋民族は、民族的にも宗教的にも太陽崇拜民族であり

初見參等の意で、始めて檜舞臺を踏むこと。
デマ デマゴグの略語で宣傳、惡煽動の意。
デモ デモンストレーションの略語で、示威運動の意。
デリカシー 優美、微妙、精緻。
デリケート 繊細な、優雅な。
テレビジョン 電視、電送映畫等の意で、光電子管によつて物體の活動する状況を一定の空間を隔て、再現させる装置。
テレフオトグラフ 電送寫眞。
テロリズム 暴力主義。

殊に大和民族は太陽崇拜熱が高く、天照大神の御名を初めとして、天の岩戸、八咫鳥等の傳説は遺憾なくこれを物語るものである。その後我國が、地球上の極東にあることを知つたわけでもないのに、我國のことを「日出る國」とか「日の國」とか呼んでそれを誇つた。「日の丸」の模様が初めて旗印とされたのは後醍醐天皇の御代であり、その後源平時代には武士の間に黒地或は金地に日の丸の扇を持つ習慣が流行し、これをその儘家紋や馬印にした。降つて川中島の合戦には武田、上杉兩軍とも日の丸の旗を掲げて對陣した。何故なら日輪は正義であり、戦争は必ず正義の軍であるべきであり、正義のあるところ戦勝疑ひなしと信じたからである。

滿洲國の五色旗の由來

滿洲國と新支那との國旗は、構圖は違ふが、同じ五色を配合したもので、同様に五色旗と呼ばれてゐる。この五色は、一般には五族協和の立國精神に則り、各種民族を代表したものと考へられてゐるが、實は然らず、支那では古來、藍は東、白は

【ト】

トア・エンジン 汽車や電車の自動扉開閉機。
 トイレット 化粧、化粧室便所。
 トイレット・ケース 化粧道具を入れる箱。
 トイレット・ルーム トイレットと同じく、百貨店や劇場などにある化粧室を兼ねた便所のこと。
 トータル 合計、總計、總數。
 ドギューメント 記録、文書、或は重大な事件又は意見を記録した文書をいふ。

西、黒は北、赤は南、黄は最も尊ぶべき中央を表はし、東西南北の中央に位する國家の意味に、五族協和の精神をも織込んだものである。併し新支那の國旗は、赤は漢族、黄は滿洲族、藍は蒙古族、白は回族、黒は西藏族と五族協和の意味で、これは第一革命の時、民國元年（大正元年）に制定され、國民政府樹立の民國十五年まで用ひられてゐたものを今日再び復活させたのである。

米國旗の星は幾つあるか

米國の國旗は白地に横へ細い赤線を引き、上隅には藍地に白の星が染め抜いてある。この星は目下四十八あるのを正式とする。「目下」といふのは可怪しいが、その昔は十數個であつたのが、だん／＼殖えた。それは米國が獨立的な州を幾つか集めて一國を成してゐる合衆國であるので、州一つにつき星一つといふことにし、州が殖える度に星を一つづゝ加へて行つた。米國が獨立した頃には大西洋に面した東海岸だけであり、西部はみなメキシコの領土であつたのを、日本の幕末の頃にこれを

ドグマ 獨斷。
 ドグマティスト 獨斷家、獨りよがり。
 トップ 先頭、一番、尖端
 トピック 話題、話の種。
 ドライ・アイス 乾燥氷、冷却用の固形水。
 ドライ・クリーニング 乾燥洗濯。
 ドライ・ミルク 粉末牛乳
 粉ミルク、乾製ミルク。
 ドライヴ 馬車、自動車等を驅る、又その遠乗りのこと。
 ドライヴ・ウェイ 乗用自動車用の道路。
 トラスト 企業家同盟。
 ドラマ 劇、脚本、戯曲。

併合し、その後も一州一州と膨脹して行つて、遂に四十八州となつた。従つて國旗の星は四十八個なくてはならぬわけである。

赤色を何故危険信號としたか

赤色は必ずしも危険の信號とは限らない。だが赤色は最もよく人の目につき易いので、人の目をひかうとする所には、大概赤色を用ひた。警察署、交番所、消防自動車や郵便局の車などは、その使命上世人から特別の取扱ひを受けねばならぬので赤色で染める。醫者、産婆の家にも多く赤電燈をつける。汽車や電車等に危険信號として赤色を使ふのも、要するに人目を引き易くするためにほかならない。所が、そのやうにして人目を引きたい所、赤色信號をあげる所は、みな危険が伴ふ所なので、赤色を以て全ての場合の危険信號とするやうになつたのであるが、マルクス主義者がその旗印に赤旗を使ひ、ソ聯の國旗が赤旗であることは、自ら危険思想であ

トリオ 三部合奏。三重奏
三重唱、又その曲。
トリツク 詭計、奸策、技
巧。

【ナ】

ナイーヴ 純真な、初心な
ナイト・キャップ 寝帽、
夜帽。
ナイト・ドレス ナイト・
ガウンともいふ、主として
婦人又は少女の用ふる寝巻
のこと。
ナショナル 国民の、國民
的、國家的。
ナンバー・ワン 第一人者
ナンセンス 無意味、不條

るぞよ、近寄るべからずと叫んでゐるやうで、考へれば随分皮肉なことである。

國旗の掲げ方

我が國の國旗は、横三、縦二の割合の白地の中央に、縦の五分の三の直径を持つ
赤い日の丸を描くのが正しい國旗である。國旗の竿は、白墨交互に染めてもよく、
白いまゝでもよい。先には金の珠か他の物をつけてもよく附けなくてもよい。これ
を一本掲げる時は、屋内から外に向つて右側に出し、二本の場合は左右兩側に並べ
て出す。外國の國旗と並べて出す時は、外國使臣を迎へるとか其他で外國に主とし
て敬意を表する場合であるから、外國旗を右に、日の丸を左に出す。但し大きさは
同じにし、必ず我が國旗と共に出すべきである。外國旗と二本交叉させる場合には
外國旗を、門内から見て右にし、竿を外側にする。

弔旗と竿旗の掲げ方

弔意を表する時に國旗を出すには弔旗又は半旗にする。弔旗は、竿先の珠を黒布
で覆ひ、珠と旗との間に巾三四寸の布を附ける。この黒布は、大喪の時は旗の横巾
と同じ長さにするが、さうでない時は半分位の長さでよい。半旗は船のマストや屋
上の竿の真中頃に旗を上げること、これをハーフ・マストと云ひ弔意を表する儀
禮となつてゐる。

最敬禮の仕方

日本人一般の敬禮は頭を下げるのであるが、これには立禮と坐禮とがある。立禮
では、兩手を前に垂れて兩足の上を迂り下すと共に、自然な形で上半身を前に曲げ
るのであるが、その時、掌を腿の中央まで下すのが普通の禮、指先が膝頭に達する
のが普通の丁寧な禮、最敬禮の時は掌で膝頭を蔽ふやうになるまで下げる。坐禮
の時は、正しく坐わり、兩掌を八の字に突き、指先を一寸位離らせ、拇指は開いて
食指との間に三角形が出来るやうにし、その三角形を目がけて頭を下げ、疊から一

【ヌ】

ニツク・ネーム 綽名。
ニュース 報道、消息、新
事件、新聞記事。
ニュース・ヴァリユー 報
道價值。
ニュー・ファツション 新
式流行。
ニュアンス 音や調子の微
妙な差異、明暗。

ヌーボー式 不得要領、と
りとめない性格。
ヌード・ストツキング 素

足のまゝで靴下をはかないこと。

【ネ】

ネヴァー・マインド 御心配御無用、どう致しまして
ネオン・サイン 電飾廣告

【ノ】

ノー・ストツキング ヌード・ストツキングと同じく靴下をはかぬこと。
ノーブル 立派な、貴い、高尚な。
ノーマル 常規を逸してゐない状態をいふ。

尺位 上まで下げるのが普通の禮、四五寸まで下げるのが丁寧な禮、指先をつけて頭を一寸位まで下げるのが最敬禮である。但しこの場合お尻を浮かせてはならぬ。立禮の時は頭は上體の上に眞直にしたまゝで腰を曲げるべきで、頭だけ餘計に下げたり、鎌首を上げてゐてはならぬ。頭を下げる速度は、三呼吸である。下げるのに一呼吸、止まる間に一呼吸、上げるのに一呼吸。これを亂しては失禮である。

勅題詠進の仕方

勅題は毎年十月か十一月に發表せられ、何人も一首に限り詠進することが出来る。十二月十五日までに宮内省御歌所へ差出せばよい。詠進には一定の書式がある。用紙は小奉書・杉原紙・美濃紙のうちどれでもよい。これを縦中央から二つに折り、更にそれを五つに折るから都合十行出来る。その第一行の下の方へ小さく姓名中の名だけを書き、その下へ稍々大きく「上」の字を書く。二行目中央より少し上に勅題を認め、三行目に上の句、四行目に下の句を認める。墨つぎは初句、三句、五句

ノスタルジア 懐郷病。

【ハ】

バー 酒場、居酒屋。
バーゲン・セール 大安賣
バージニテイ 純潔、處女性。
バージン 處女。
バース・コントロール 産兒制限。
パーセンテージ 百分率、割合。
パーソナリティ 人格個性
パーティ 種々の社交的會合又は黨派。
パートナー 相手、連れ、社交ダンスの相手になる異

にする。裏は、最後の行、即ち十行目に、族籍、官職、位階、勳等、姓名を書き、九行目に住所を書く。字は全て楷書を以てし、書き終つたら、歌の方を中にして三行目と四行目との間から二つに折り、更にこれを三つに折り、表面の一方に姓名、一方に住所が出るやうにする。これを封筒に入れ、封筒からはみ出した部分だけ上を折つて封緘し、郵便で出すのである。

萬歳は何時頃唱へ初めたか

萬歳といふ言葉は、元來臣下が君主を壽ぎ祝ふ言葉で、秦の代に既に用ひられ、日本へ傳來され、日本でも同じ意味で用ひられたことは既に「日本書紀」に出てる。併しそれは文字の上でのみ用ひられた所で、口に出しては云はれず、今日用ひられてゐるやうに、戦勝を祝ふ場合には、たゞ「ワア……ワア」と三度唱和するか或は「エイ、エイ、オー」と二唱した。所が明治以後になつて外國へ行つた帝大教授の某博士が、外國に萬歳の意味の歡呼の聲があるのを羨ましがり、何かよい言葉

性。
 パーマネント 耐久の、恒久的。
 パーマネント・ウエーヴ 永持ちする頭髮のウエーヴ
 ハーモニニー 音楽用語で、和音。
 パイオニア 開拓者、先驅者。
 ハイキング 徒歩遠足、天幕旅行。
 ハイ・ヒール 踵の高い婦人靴。
 パイプ・オルガン 動力送氣で奏する大オルガン。
 ハイヤー 高級貸切自動車
 パイロット 水先案内、指導者。

もがたと考へた末に「萬歳」の二字を選び、これを「バンザイ」と讀ませ、明治二十二年二月十一日、憲法發布の目出度い日に、明治天皇が大觀兵式に行幸遊ばされた砌、路傍に奉迎した東京帝國大學の學生達が、某教授の發聲につれて萬歳を三唱したのが初まりで、その後これが廣く普及せられたのである。従つて日清戰爭などにはまだ餘りバンザイも唱へなかつた。

外國では「萬歳」を何といふか

嬉しい時に歡呼の聲をあげるのは外國から初まり、英・米・佛・スエーデン・ノールエー・オランダ・デンマーク・スペイン・ハンガリー等、みな一様に「フラア」といひ、ソ聯とイタリーとは「ウラー」といひ、チェッコ・スロバキアは「スラーヴァ」といふ。ドイツも元は「フラア」と云つたが、ヒットラーが總統となつてからは、彼の徳を敬へるために「ハイル・ヒットラー」と云ふやうになつてしまつた。「フラア」は文字それ自身には日本の「萬歳」のやうな意味はなく、日本語

になほせば「ワア」といふやうな、たゞ感嘆の叫びにすぎない。運動競技の聲援に「フレイ、フレイ」といふのは、「フラア」の變化したものである。

「君ケ代」の作者は誰か

我が國歌「君ケ代」の歌詞の作者は不明である。古今和歌集に「讀人しらず」として出てゐるのが最初で、それには「我が君は千代に八千代に……」となつてゐる。それを公住卿が編んだ「和漢朗詠集」には「君が代は千代に八千代に……」と訂正して載せた。併し相變らず「讀人しらず」で、たゞ忠誠の赤心を表はした優れた和歌だといふことになつてゐただけである。所が明治五年夏、明治天皇が軍艦龍城に召されて九州地方を御巡幸遊ばされた際、それに供奉したフランス軍艦が、歡迎の意を表するために日本の國歌を奏したいから教へてくれと申入れて來たので我國では非常に狼狽し、諸外國の風習にならつて國歌を制定しようといふ議が起り、時の海軍大輔川村純義が「和漢朗詠集」の中から「君が代」を選び、これを宮内省雅樂

バザール 廉賣市、慈善市。
 パス 無賃乗車券、定期券
 又は及第、合格。
 パスポート 旅行免狀、通行券の事であるが、普通には海外旅行免狀の意。
 バック 後ろ、背景、後楯
 パツシヨネート 怒りつばい、情熱的な。
 パツシヨン 情熱。
 ハツピー・エンド 幸福な結末。
 パトロロン 後援者。保護者
 パラシュート 落下傘。
 パラダイス 樂園、天國。
 パラドックス 矛盾、逆説
 バランス 平均、均衡。
 バレエ 劇の合間などに行

はれる華やかな舞踊。
パロメーター 晴雨計、氣
壓計。
パンガロー 屋根の勾配の
緩い庇の深い建築。
ハンディキャップ 優劣を
平均させるために優者に負
はせる不利の條件。

【七】

ピアノラ 自動ピアノ。
ピーク 尖端の意であるが
登山用語では山の尖つた絶
頂のことをいふ。
ピーナス 美と戀の女神。
ヒーロー 英雄。文藝上で
は小説の主人公。

所の一等伶人林廣守氏に作曲せしめた。けれどもそれが餘り日本的な和樂本位で、洋樂器に乗りかねたので、當時の海軍々樂隊教師エツケルトに囑して洋樂にも適するやうに作りかへ、四重唱にした。これを國歌として一般に公示したのは明治二十三年である。

陛下・殿下・閣下の意味

高貴の方に言葉や書面や物を捧げる時には、直接では恐れ多いから、御座席の側にある近侍の人にまで差出し、その人に取次いで貰ふのが禮であり、自分との身分の隔りが多ければ多いほど取次も幾人かの手を経る。例へば玄關番から三太夫に、三太夫から奥様に、奥様から主人に、といふ風になる。昔の御殿などでは、主人は御殿の奥に居り、その側、次の間、階段上、階段下などに臣下がをり、自分は階段の下まで進み、それからそれへと取次いで貰ふべきである。そこで、天皇に對し奉つては御殿の陛下、即ち庭先までしか進めず、皇族方に對し奉つては御殿の下

ピエロ 道化役者。
ピオニール 先驅者、共産
少年團。
ピクニック 郊外散策、遠
足。
ビジネス 事務、實業。
ビジネス・マン 事務家。
ピック・アップ 選擇、精
選。
ピツケル 登山用の鶴嘴。
ピユア 純な、清淨な。
ピユイテイ 美しい。
ピユイテイ・スポット つ
け墨子。
ヒューマニスト 人道主義
者。
ヒューマニズム 人道主義
ヒューマニテイ 人間性。

まで、大臣方では座席(臺閣)の下まで、長者では足の下までしか進めないとしてある。そこで、陛下の下に居る侍臣にまで物申す、殿の下の侍臣にまで物申すといふ意味で、陛下・殿下・閣下などといふのである。臺下、机下、椅下、足下、座下、榻下、床下、座右、碩北等、みな同様の意味である。閣下は、軍人では將官以上、文官では勅任官以上に限る。僧侶に限り貌下と呼ぶが、貌は獅子の意で、佛は獅子に跨つてゐるからである。

三三九度の盃は何の意味か

三は天地人を象つた目出度い數であり、九は三が三度重なつた上に、數の極致であるから非常に目出度いとされてゐる。酒を飲むのは、酒は元來神に供する神聖なものであるからでもあるが、本來は、昔は何かを二人が誓ふ時には、盃に血をしぼつてお互ひに飲み交したものであり、男同士の間では、武士でも、俠客でも、酒の中へ血を滴らせて飲み交はす習慣は今日もなほ現存してゐる位だから、二世を契り

ヒユツテ 登山者の宿の山小舎。
 ヒロイズム 英雄主義。
 ヒロイン 小説や劇の女主角。
 ヒンチ 危急、危機。
 ヒント 暗示。

【フ】

ファースト・インプレッジョン 第一印象。
 ファースト・ラン 封切映畫の上映、又その上映館。
 ファッション 流行。
 ファッション・ショー 百貨店等で流行の着物や洋服をマネキン等に着せて宣傳

する事。
 ファン 愛好者。
 ファイアンセ 許嫁。
 フェアリー・ランド 仙郷子供の樂園。
 フェミニスト 女權主義者即ち女性の地位向上を唱へる者のことであるが、單に婦人に深切丁寧な男といふ意味にも用ふ。
 フォーム 型、形。
 フォリー 氣狂ひ、馬鹿げた行爲等の意から轉じて、レヴュー團、曲藝團の意味にも用ひられる。
 ブック・レヴュー 新刊批評。
 フット・ライト 舞臺の前

一身同體たるべき夫婦が血をすゝり合つたのは當然のことで、その習慣が今に残りこれが何時の頃からか酒だけとなつたのである。婚禮の盃は三組の土器で、初めに嫁がのみ、婿へさし、嫁へ返して終り、第二の盃は婿から嫁へさして婿に返り第三の盃は第一同様にし、かうして三三九度の盃を終る。

祖先の祭は何年目にするか

佛教では人が死ねば先づ初七日から初まつて七日目毎に祀り、七七四十九日に大きな法事をし、續いて百ケ日、一周忌、三年、七年、十三年、十七年、二十三年、二十七年、三十三年、三十七年、五十年、百年、百五十年、二百年等となり、神道では死後五日目に五日祭を行ひ、十日祭、二十日祭、三十日祭、五十日祭、百日祭となり、その後は一年、五年、十年、二十年、三十年、四十年、五十年、百年、百五十年等に行ふ。但しこの中で佛教の年の數へ方は、死んだ年を一年に加算する。従つて一周忌は滿一年目であるが、三回忌は滿二年目、七回忌は滿六年目といふ風

になる。忌日を死亡の日にとる事は云ふまでもない。キリスト教では、元來死者を祭ることはなく、その思ひ出の會をするにしても其の人の誕生日にとるべきであるが、日本式に靈を祀りたい人は任意に行ふがよい。

忌日と服喪は何日間か

忌日と服喪の期間は宗教によつて多少相違するが、大體昔から行はれてゐる日本の習慣によれば次のやうである。

故人との關係	忌日數	服喪日數	故人との關係	忌日數	服喪日數
高祖父	十日	三十日	養子	十日	三十日
曾祖父	二十日	九十日	嫡孫	十日	二十日
祖父	三十日	百二十日	末孫	三日	七日
父	五十日	百三十ヶ月	曾孫	三日	七日
養父	三十日	百五十日	玄孫	三日	七日
繼父	十日	三十日	伯叔父母	二十日	九十日

方の下から俳優を照らす光線。脚光。
 プライド 誇り、自尊心。
 プライヴェート 個人的の
 フラウ 妻。
 ブラヴォー 「うまいぞ」で
 かした」等の意で、俳優の
 妙技などを褒める時に浴せ
 る語。

プラス・バンド トロンボ
 ーン、コルネット、小太鼓
 など眞鍮の楽器を用ひる吹
 奏樂團。
 ブラックリスト 黒表。即
 ち注意人物の氏名表。
 フラツパー 現代的なお轉
 婆娘。
 フラトニツク・ラヴ 肉慾

義父	母	十 日	三十 日	兄弟姉妹	二十 日	九十 日
夫		三十 日	百五十 日	異父母兄弟	十 日	二十 日
妻		二十 日	九十 日	從兄弟姉妹	三 日	七 日
嫡子	子	二十 日	九十 日	甥	三 日	七 日
末子	子	十 日	三十 日	姪	三 日	七 日

法名と戒名とは違ふか

法名とは出家得道して僧籍に入つた時につける名で、戒名は、在家のまま佛道に
 歸依し、その印として授けられる名である。眞宗や淨土宗等では授戒會といふもの
 を行ふが、信者はその時佛前で佛の戒律を守ることが誓ひ、誓願の印として戒名を
 貰ふ。丁度キリスト教信者が洗禮を受けた時にクリスチャン・ネームを貰ふのと同
 様である。佛教徒が死んだ時につけられる名は法名といつても戒名と云つてもよい
 が、正しくは法名といふべきである。何故なら、死者は頭を丸めるべきだが、これ

を離れた精神的戀愛。
 プラン 計畫。
 フリー・ランサー 専屬で
 ない俳優、自由契約者。
 プリマ・ドンナ 歌劇の花
 形歌手、女性の第一人者。
 フルーツ・パーラー 果物
 を食べさせる喫茶店式の店
 フル・スピード 全速力。
 プレイ・ガイド 芝居等の
 案内所、切符前賣場。
 プレゼント 贈物。
 フレッシュ・マン 新人。
 プレミアム 賞金付、割増
 金付。
 フレンドシップ 友情。
 プロダクション 製作、作
 品の意であるが、普通に映

は出家得道した印であるから、その時つけられる名は法名の譯である。従つて、生
 前戒名を持つてゐた人も、死んだ時の法名は別に授けられるのが普通である。勿論
 戒名をそのまま法名にする場合もあるが、その場合につけられた名は正しく法名で
 ある。

鬘斗は何の意味か

鬘斗は鮑の肉を延したものだから「延し」といふので、不死延命の薬だとされて
 ゐる。だから昔は出陣や儀式の時には肴として酒と共に出したが、後には三寶に載
 せて客に見せるだけとなり、それが順次轉化して今日の鬘斗となり、猶簡略に文字
 で「のし」と書いたり鬘斗の繪を書くだけでも通用するやうになつた。鬘斗は目出
 度い場合に海の物、山の物を贈る時に、海の物を代表させたのであるから、贈物自
 身が海の物であつた場合には鬘斗はつけてはならず、又不祝儀には決して附けては
 ならぬ。

畫製作所の意に用ふ。

プロツク 集團、團體。

プロット 筋、構想。

プロパガンダ 宣傳、傳道

プロフィール 横顔、側面

プロポーズ 申込む、提議

する。

プロムナード 散歩。

プロローグ 序詞、前口上

【へ】

ペイソス 哀感。

ペーヴメント 舗道、舗装道路。

ページェント 野外劇、公

共劇。又「航空ページェン

ト」など、民衆化した演習

贈物の容器に紙を入れる理由

贈物を貰った時、その容器たる盆や重箱等に紙やマッチを入れて返す風習がある。これは附木を入れるのが本當である。附木には硫黄がついてゐる。硫黄は「祝ふ」に通じるから、目出度いことを祝ふ意味になる。マッチも硫黄がついてゐるから附木の代用とされるのは宜い。白紙を入れるのは、附木もマッチもないからといふお詫びの印で、これを「移り紙」といふ。「移る」とは返すことで、「返す」といふのはあまり露骨すぎる言葉で失禮だからといふのである。従つて附木にせよ移り紙にせよ、凶事や結婚の贈物には決して入れない。「返す」とか「移る」とか「祝ふ」とかいふことを忌むからである。

長壽の祝ひ年と因縁

六十一歳を還暦又は本赴還りといひ、十千十二支が一巡して自分の生れたと同じ

の意に用ふ。

ヘゲモニー 指導權、霸權

又は指導的役割。

ペシミズム 厭世主義。

ベスス 最善、最良、極致

ベスト・テン 或る組織内

の優秀なもの十種をいふ。

ペター・ハーフ 愛妻、愛

人。

ペダンテイツク 學者ぶる

ペット 愛人、愛するもの

ヘッド・ライト 電車、自

動車等の前照燈。

ベッド・ルーム 寢室。

ベビー 赤ん坊、乳呑兒の

意であるが「ベビ！辭典」

といふやうに小型のものの

稱呼にも用ひる。

千支に還つたことを祝ひ、赤ン坊に返つたからとて赤い着物に赤い頭巾を着たりする。七十は古稀といひ、支那の詩人杜甫の詩に「人生七十古來稀」と歌つたことかから初まる。七十七は喜壽の祝といふ。喜の字を草書體で書くと「七十七」となるからである。八十八は米壽の祝で、米の字が「八十八」と書くからである。この上に百歳なども祝はれる。

金婚式等の年數は何時か

結婚してから何年目かに祝ひをする。これは西洋の習慣だが、日本でも漸次行はれるやうになつた。

綿婚式	一年	絨婚式	七年	銀婚式	二十五年
紙婚式	二年	錦婚式	十年	眞珠婚式	三十年
革婚式	三年	レース婚式	十三年	紅玉婚式	四十年
花實婚式	四年	水晶婚式	十五年	金婚式	五十年
木婚式	五年	陶婚式	二十年	金剛石婚式	七十五年

ペン・ネーム 筆名。

【ホ】

ボイコット 非賣同盟、同盟排斥。
 ポイント 點、要點。
 ボーイ・スカウト 義勇少年團。
 ポーズ 姿勢、姿態。
 ボータブル 携帯用の、携帯用蓄音器。
 ホープ 希望、期待。
 ホーム・シック 懷郷病。
 ホケット・マネー 小遣錢。
 ホジション 地位、形勢。
 ホス 親方、又親分乾分の情實關係で行はれる政治の

正月の飾物はどんな意味か

門松——起源は何時頃か分らないが、八百四十年程前、堀河天皇の御代には既に廣く民間の風習となつてゐた。遠く天照太神が天の岩戸におかくれになつた時、榊を立てた故事から出たともいはれてゐる。松は祭木ともいひ、千年變らぬ緑が目出度いからで、男松女松を立てるのは、伊邪那岐、伊邪那美の兩神に形どつたともいふ。竹は直くなる心を喜び、梅は霜雪を凌いで咲く氣品を愛でたもの。江戸時代には十五日まで立て、おき、これを松の内といつたが、今では六日に取り去る。
 注連繩——注連繩は神の鎮座まします所と人間の世界とを境するため張つたもので、邪をのぞき汚を避ける意。これを正月に使ふやうになつたのは藤原時代の初期からである。
 菫菜——裏白・穂長等といひ、齒は齡、菜は枝で、長壽を意味し、裏の白い方を用ひるのは潔白と白髪になるまでの意を重ねたもの。

こと。
 ホップ 斷髮。
 ホネー・ムーン 蜜月。
 ホビユラー 通俗的な、一般的な。
 ホワイト・セール 夏向きの品を賣出すこと。

【マ】

マーク 商標、記號。
 マーケット 市場、日用品廉賣市。
 マイク マイクロフォンの略で、擴聲器、ラヂオの送話器。
 マイナス 引去る、減する轉じて低能兒、負債。

譲り葉——一名親子草とも書き、長く子孫に福を譲る意。
 昆布——昆布は和名をヒロメといひ、廣布と書き、廣くなる意味と、喜こんぶの意とを重ねてある。
 海老——腰の曲るまでとの長壽の意。
 橙——代々續き榮える意。
 串柿——柿は嘉來、又は萬物をかき集める意味で目出度い。
 勝栗——勝來に通はせ、武家が出陣の際は必ず食べた物。
 穂俵——その實が米俵の形に似てゐるから。
 鏡餅——鏡は人の心を映し、神靈の宿るものであり、人の鑑となるものであり、餅は持ちのよい目出度いもの。これを二つ重ねて愈々目出度く祝ふ。
 若水——立春の日に生氣の方の井戸から汲んだ水は一年の邪氣を拂ひ、腹中を調へ、熱氣を下すといはれる。
 屠蘇——鬼氣を屠絶し人魂を蘇生せしめるの意で、桂心・防風・葳蕤・蜀椒・桔

マガジン 通俗的な雑誌。
 マスコット 福の神。
 マスター 主人、親方。
 マチネー 本来は朝、午前
 の意であるが、演劇用語で
 土曜、日曜、祭日等に行ふ
 晝間興行のこと。
 マドモアゼル 未婚婦人へ
 の敬稱。
 マドロス 水夫、船乗、船
 頭。
 マニア 氣狂ひ、熱中の意
 で、演劇マニアは演劇狂。
 マニキュア 美爪術。
 マネージャー 支配人、監
 督。
 マネキン 衣裳モデル、生
 き人形、美装した商品宣傳

梗・大黃・烏頭・赤小豆等を刻んで紅絹の袋に入れ、大晦日の暮亥刻に井戸に侵し
 元日寅刻に取あげ、酒の中に入れて飲む。昔は体内の邪氣を拂ふ典藥として普段
 にも飲んだが、江戸時代からは専ら正月のものとなつた。元は酒であつたが、女
 子供にも飲みよいやうにと、何時の頃からか味醂になつた。
 雑煮——室町時代に初まり、元祿時代から盛になつた。地方により、家風によつ
 て作り方は多種多様であるが、何でも目出度い意味のものをゴタ／＼入れた汁の中
 へ餅を入れて食べる。長持ちのするやうにとの意。
 煮豆——マメ(健康)に暮せるやうに。
 田作り——今年も豊年であるやうに。
 數子——多くの子孫が生れて家が繁盛するやうに。
 福茶——茶の中へ梅干、黒豆等をいつたものを入れ、惠方に向つて飲む。先づ口
 中の汚れを清め、心身の邪氣を拂ふためとある。
 七種粥——正月七日の朝に食べる粥で、七種とは七種の草、即ち、芹・薺・御

嬢。
 マンネリズム 文藝などに
 於ける製作の固定してしま
 つた傾向、習癖、臭味等の
 意。
 ミール 食物、食事。
 ミス 未婚の婦人を呼ぶ語
 ミスター 一般男子への敬
 稱。
 ミステーク 間違ひ。
 ミステイシズム 神秘主義
 ミストレス 主婦、女主人
 ミスプリント 誤植。
 ミセス 既婚婦人に附す敬
 稱。單に奥様の意にも用ふ

形・蕪萎・佛の座・菘(蕪菜)、蘿蔔(大根)で、室町時代に支那から傳はつた習慣
 であり、藥草を食べて消化を助ける意。
 小豆粥——平安朝時代、宇多天皇の御宇に支那から傳はつた習慣であり、初めは
 七種粥と云ひ、小豆・大角豆・藜・粟・箕子・薯蕷・米の七種を混ぜて粥を作つた
 が、後世になつた小豆だけを食するやうになつた。十五日の朝食、食べる習慣で「東に
 向つて再拜し、跪いて之を食すれば年中の疫氣を除く」と世診問答に書いてある。

藪入とはどういふ意味か

正月十六日に嫁や奉公人を生家に歸し、一日の休養を與へる。これを藪入とい
 ひ、かなり古くから行はれてゐた。七月十六日にも藪入をさせるやうになつたのは
 江戸中期からのことで、前には正月だけだつた。支那から傳來した習慣らしく、
 藪入とは「走百病(ヤブイリと讀む)と云ひ、齋魯の人は正月十六日に寺に遊ぶ
 風習あり、これの傳はつたもの」と解する説「佛教に閻魔の賽日といひ静息をさす

ミゼラブル 不幸な、悲惨な。
 ミッション・スクール キリスト教関係の學校。
 ミューズ 文藝美術を司る女神、轉じて藝術の意に用ふ。

ミュージカル・コメディ 流行歌や華美な踊りを取入れた喜劇的なお芝居。
 ミラクル 奇蹟。
 ミリタリズム 軍國主義。

【ム】

ムーヴィー 映畫のこと。
 ムーヴメント 運動、行動
 ムード 気分、情調。

日といふことより起る」といふ説「農工商の奴婢が主家の暇を得て一兩日或は四五日親里に宿入するのが轉じて藪入となつた」との説「雇人は多く草深い田舎の出身者で、これが元の藪の中へ歸つて行くから藪入といつた」との説等があり、どれが正しいか判らないが、最後の説が妥當ではないかと思はれる。

雛祭は何時頃起つたか

雛祭は人皇第十代崇神天皇の御宇（二千四十年ほど前）に既に雛遊びをしてゐたと歌に見えてゐる。これはたゞの遊びであるが、紙で人形を造つて遊んだものらしい。その後、それにその人の年齢や名を書いて神社に納め、禍を救ひ、幸福を祈つた。又、厄年の者の雛形を造り、これで身體を撫で、それを身代りとして川や海に流し、厄を拂つた習慣があつた。これが工藝の發達と共に漸次立派な雛人形が出来て、やうになり、立派になると同時に川へ流すに惜しく、柵に飾り、酒食を供へて祀り且つ遊ぶやうになつた。これが三月三日の上巳の節句と結びつくやうになつたの

ムーラン・ルージュ 赤風車の意で、巴里の有名な歌劇場の名であるが、東京の新宿にも同名のレビュー劇場がある。
 ムツシュー 英語のミスターに相當する佛蘭西語で、男性に對する敬稱。

【メ】

メイク・アップ 化粧。
 メー・デー 五月一日に行はれる萬國労働者の國際的祭日。
 メード・イン・ジャパン 日本製。
 メール 男性。

は、後土御門天皇の頃かららしい。この雛が立雛から坐り雛、内裏雛と變化して行つた。もとより宮中及び上流社會にのみ行はれたこととて、内裏様を初め官女、五人囃等みな宮中の風俗を傳へてゐる。これが民間にまで流行し出したのは、江戸中期の享保以後である。

彼岸とは何の意味か

彼岸は春秋二季にある。氣候の變り目で、冬と春、夏と秋を境する日である。「暑い寒いも彼岸まで」といひ、事實その通りである。三月二十一日頃、九月二十三日頃は曆の上、天文學上、太陽が中間に位し、晝と夜との長さが同じになる日でありキリスト教でも此の日を記念する催しがある。復活祭といふのは、キリストが復活した日ともいふが、又、太陽が復活する時期をこれに一致させたのだとの説もある。いづれにせよ、人間の自然現象に對する喜びや驚異をかういふ形に現はして祝ふのである。彼岸といふ言葉は佛敎から出てゐる。梵語では波羅蜜多といひ、佛が凡夫

メイン・タイトル 映畫の主字幕。
 メカニズム 宇宙現象を機械的法則又は作用によつて説明しようとする主義。
 メガフォーン 擴聲用のラツパ。
 メソッド 方法、順序。
 メッセージ 傳言、聲明の意で、公の使命を帯びた人が新聞雜誌を通じて大衆に送る挨拶の意味を持つた公文書などを云ふ。
 メツセンジャー・ボーイ 使ひ歩き少年、配達員。
 メトロポリス 首府、大都會。
 メニユー 献立表。

達を、煩惱の此の岸から悟りの彼の岸に渡してやらうといふ意味である。寒い冬のこの岸を離れて、暖い春の彼の岸に渡る、暑い夏のこの岸から涼しい秋の彼の岸に渡る、この氣候の變り目と佛の誓願慈悲とを一致させたところ、なか／＼巧みである。我國では聖徳太子の頃、既にこの日に落日を拜する風習があつたが、延暦二十五年、崇道天皇の大法要をこの日に営んでから、彼岸と佛事とが結びつき、この時には佛參墓參をするやうになつたといはれる。

節分に豆を撒く理由

宇多天皇の御代に、見眼鼻といふ惡鬼が節分の夜に鞍馬山から下りて来て、女子供を奪つて行つて食べようとしたので、三石三斗の豆を投げつけて鬼を追拂つた、といふ傳説がある。だからその後も惡鬼をよけるために、鬼の嫌ひな柁と鰯を門口に立て、その上豆を投げつけて惡鬼を追拂つたのに初まる。「福は内」は「鬼は外」の反對語として後世考へ出されたことである。

引越に何故蕎麥を配るか

家を引越した時近所に蕎麥を配つて挨拶にかへたり、大晦日の夜に蕎麥を食べたりする習慣がある。蕎麥は「ソバ」であり、「近くへ来たからどうぞ宜しく」「ソラ正月」が近づいたぞ」の意味である。

五月に鯉幟を立てる理由

五月五日は男の節句で、庭に鯉幟を立て、軒に菖蒲の葉をさし、菖蒲湯へ入る。菖蒲は「尙武」に通じ、殊に葉が刀の形をしてゐるから愈々男らしい。鯉幟は、支那の傳説によれば、黄河上流の龍門といふ大瀧を遡つた魚は昇天して龍となるといはれ、それを遡るのは鯉だけだといふので目出度えられる。即ち鯉は出世魚だからである。尤も瀧を遡るのは鯉に限らないが、支那の傳説により此の出世魚を飾つて、男よ斯くあれかしと祝つたのである。

【モ】

メラニコリー 憂鬱症。
 メリー・ゴー・ラウンド 馬や自動車などを取付けた圓形の舞臺が音楽につれてぐるぐる廻る子供の娛樂場。
 メルシイ 有難うの佛蘭西語。英語のサンキュー、獨逸語のダンケに同じ。
 メロディ 音楽の旋律。
 メロドラマ 樂劇。
 メンタル・テスト 智能考査。
 メンバー 仲間、額觸れ。
 モーション 行動、動作。
 モード 型、流行。

モーラル 道徳的、精神的
モダン 現代的、當世風。
モダン・トピック 現代的な話題。
モチーフ 動機、原動力。
 文藝上では意向、音楽上では曲の題材の意に用ふ。
モットー 標語、金言。
モツブ 群衆、暴民、烏合の衆。
モデル 模型、型等の意で文藝家や美術家が表現しようとする實在の對象物をいふ。
モンスター 妖怪、巨大な人。
モンタージュ 組合せ、映畫構成。

惠方詣りとは何の方角か

惠方とは吉方のことである。陰陽師は十干十二支をうまく結びつけて、歳徳神がその年々によつて吉方にゐるから、年の初めにこれへお詣りすれば一年中福を授かり、難を免れると説いた。果してさうか否かは保證の限りでないが、その吉方をあげてみると、甲と己の年は寅卯(北東々)、乙と庚の年は申酉(南西西)、丙、癸、戊、辛の年は巳午(南南東)、丁と壬の年は亥子(北北西)の方角であるが、人は方々に棲み、神様は同じ一ヶ所にござるから、その神様は毎年誰かしらの惠方に當つてゐるわけで、又お忙しいわけである。

千社札は何の意味か

今から百五十年ほど前の天明・寛政の頃、谷信敏といふ篤學者があつた。天愚孔平といふ筆名を持つてゐたが、愛兒を亡くしたので、その冥福を祈るため、各地の

ヤンガー・ジエネレーション 新時代、次の時代、若き人々。
ヤンキー 米國人に對する蔑稱。

【ヤ】

ユートピア 理想郷。
ユーモア 滑稽、諧謔、上品な洒落。
ユニーク 獨特な。
ユニオン 聯合、同盟、組合。
ユニフォーム 制服、運動服。

【ユ】

土用丑の日には何故鰻を食ふか

神社に参拜し、一社一枚で千枚の納札をした。これが當時大評判となり、眞似をするものが續出した。初めはみな死者の冥福を祈るつもりであつたが、後には自分の死後の冥福を祈る者も現れ、だん／＼遊戯化し、道樂半分、面白半分から、遂に自家廣告とまで墮落し、徒らに高い所や危険な所へ貼つて得意がるやうになつた。

凡て習慣は大した理由も根據もなく起ることが多く、御幣かつぎや洒落が後には勿體らしい習慣となつてしまふ。例へば千人針に五錢白銅を結びつけるのは、五錢は「四錢(死線)を越えて」だからといふ洒落から來たのであるが、その洒落の判らぬ人は何かしら尤もらしい理由があるのだと思ひ、五錢白銅を結ばねばならぬやうに考へてゐる。夏の土用丑の日に鰻を食ふのにも何の理由もない。昔狂歌の名人蜀山人が、夏枯れ時で困つてゐる知人の鰻屋の愚痴を聞き、獨特の奇智を働かせて店頭へ「土用丑の日」と大書した看板を出させた。何の事だか判らない所に却つて

【ラ】

ライヴアル 競争者、主として戀愛の競争者の意に用ふ。
 ライター 點火器。
 ライト 光、光線。
 ライト・ランチ お手輕料理。
 ライフ 人生、生活、生命
 ライブラリー 書齋、圖書館。
 ラヴァー 愛人、戀人。
 ラヴ・シーン 戀愛場面。
 ラウド・スピーカー 擴聲器。
 ラスト 最後、最後の。
 ラスト・シーン 最後の場面。

百パーセントの宣傳價値があつた。知つたかぶりをしたがる負けず嫌ひの江戸つ子は「饅棒奴、土用丑の日には鰻を食ふべしとチャーソンと物の本に書いてあるのを知らねえか」などと馬鹿なことを云ひながら、負け惜しみで、うまくもない鰻を食つた。これが起源である。或る學者が大いに萬巻の書を漁つて研究したが、土用丑の日に鰻を食ふべならぬ理由も習慣も何處にも見當らなかつたので或る日蜀山人に聞いてみると、「なアにね、江戸つ子は物見高いからね」といつて澄してゐた。一旦かういふ習慣がついてしまふと、負け惜しみの江戸つ子は借金を質においても鰻を食べ、どうしても鰻に手の届かぬ者は、形が似てゐるからといふので鱈を食べた。そして遂に今日のやうになつてしまつたのである。併しこれを衛生的見地から考へてみると、大いに結構なことである。夏は誰でも脂肪分の多い食物を嫌ふために夏痩せをするが、その時、かうして無理にでも脂肪の多い鰻を食ふことは營養的には大いによろしい。蜀山人はまさか營養食のつもりで鰻を獎勵したわけではないが、洒落や御幣かつぎがよい結果を生んだ適例である。

日常社會常識

趣味と娛樂

歌舞伎十八番とは何々か

天保十一年に七世市川團十郎が初代團十郎の百九十年忌記念興行として「勸進帳」を上演した時、市川宗家のお家藝として傳はる荒事狂言十八を選び、これを「歌舞伎十八番」と名づけたのが初まりである。勸進帳・矢の根・助六・鳴神・暫・景清・解脱・不動・不破・關羽・毛拔・外郎賣・蛇柳・押辰し・象引・鎌髭・七つ面・鬨。以上であるが、このうち「外郎賣」は「助六」の中に、「鬨」「蛇柳」「不動」は今日の中に含まれてをり、獨立して上演することはなく、「鬨」「蛇柳」「不動」は今日には文献も型も傳はつてゐない。併し兎に角昔は此の十八番を市川宗家得意の藝とし

【リ】

面。
 ラヂオ・コメディー ラヂオで放送される喜劇。
 ラヂオ・セット ラヂオの受信機。
 ラヂオ・ドラマ 放送劇。
 ラヂオ・ニュース ラヂオで放送される社會の出來事は退却時の混み合ふ時間。
 ラツセル 排雪車。
 ランチ 晝食、轉じて手輕な食事のこと。
 リーダー 指導者。
 リード 導く、先頭に立つ

リーフレット 引札、ちらし。
 リーベ 恋愛、愛人。
 リサイタル 獨唱會、獨奏會。
 リスト 目錄、氏名一覽表
 リズム 節奏。
 リセプション 招待會、歡迎會。
 リファイン 洗鍊された、上品な。
 リベラリズム 自由主義。
 リユック・サツク 登山用の防水布で作った大型の袋
 リンチ 私刑。

【ル】

ルージユ 赤の意であるが一般には化粧用の棒紅をいふ。
 ルーズ だらしない、不正確な。
 ルーム 部屋。
 ルナ・パーク 夜の公園、歡樂場。
 ルンペン 浮浪人、失職者

【レ】

レーザー 剃刀、西洋剃刀
 レース 羊毛又は糸で網編みした裝飾用の布。
 レイオン 人造絹糸。
 レヴェル 水準、水準點。
 レヴェュー 歐洲大戰後佛蘭

た所から、「得意のこと」を「十八番」といふやうになつた。

歌舞伎狂言の立方

歌舞伎劇は、昔は初めに時代物かお家騒動物をやり、次に一幕物か多幕物の中的一幕を置き、次に世話狂言をし、終りに所作事を演じて打出すのを定式としてゐた。それで最初を一番目、次を中幕、次を二番目、終ひを大切と呼んでゐたが、今日ではそのやうな立方に拘泥せず、所作事を中幕や二番目に入れたり、世話物を大切にしたり、勝手な立方をするやうになつた。

芝居の二枚目三枚目とは何か

芝居には立役、二枚目、三枚目、荒事師、和事師、老役などいふ言葉がある。俳優の地位や藝風、適役等によつて分けた言葉である。昔は劇團の座頭を立役、次にえらい者を二枚目、その次を三枚目と云つたが、今では變化し、男性の主役を演じ

る者を立役、色男役者を二枚目、道化役を三枚目、老人になる者を老役、女に扮する男優を女形と云ひ、その娘役を若女形、年増役を花車形と云ふ。又、戀愛物の得意な俳優を和事師、豪勇無双の武人を得意とする者を荒事師、宙乗りや輕業的な事の得意なものをケレン師と云つてゐる。

歌舞伎俳優の屋號

歌舞伎俳優は一般に藝名を持つてゐるが、なほそのほかに屋號をも持ち、大向ふから讚め言葉をかける時には此の屋號を呼ぶ。

尾上菊五郎(音羽屋)	中村吉右衛門(播磨屋)
市川左團次(高島屋)	市川猿之助(澤瀉屋)
市川羽左衛門(橋屋)	松本幸四郎(高麗屋)
中村歌右衛門(成駒屋)	實川延若(河内屋)
中村福助(成駒屋)	市川壽美藏(升田屋)
中村福助(成駒屋)	市川松蔭(若松屋)

西に興り、目下日本でも流行してゐる、急調子の音楽に合せて多数の男女が踊り歌ふもの。

レギュラー 正則の、本式の。

レコード 記録。蓄音器の圓盤をレコードといふのは音響を記録したものである。

レコード・コンサート レコードでやる音楽會。

レジスター 自動金銭登録器。

レストラン 西洋料理店。

レディー 淑女、貴婦人。

レディー・メード 出来合品。

- | | |
|-------------|-------------|
| 市川三升(成田屋) | 市川八百藏(立花屋) |
| 片岡仁左衛門(松島屋) | 片岡我當(松島屋) |
| 澤村宗十郎(紀伊國屋) | 大谷友右衛門(明石屋) |
| 市川荒次郎(大黒屋) | 坂東三津五郎(大和屋) |
| 澤村訥子(紀伊國屋) | 市川男女藏(瀧野屋) |
| 河原崎長十郎(山崎屋) | 尾上多賀之丞(音羽屋) |
| 中村翫右衛門(成駒屋) | 坂東壽三郎(豊田屋) |
| 中村魁車(新駒屋) | 守田勘彌(喜の守屋) |
| 岩井彙三郎(大和屋) | 助高屋高助(紀伊國屋) |

六法を踏むとはどんな事か

歌舞伎芝居で、辨慶や兒雷なども「六法を踏む」と云つて、足をあげ、手を擴げ、力の籠つた華やかで豪快な歩き方をして花道を引込んで行く。これは六つの法があるといふ譯ではなく、江戸の初期に六法組と名づける武士があり、非常に長い

レポ レポート又はレポーターの略で、情報通信、無産派の連絡係。

【ロ】

ロ 法則、法律。

ロカル 田舎、地方的。

ロカル・カラー 地方色

ロタリー 新式の排雪車

ロケーション 映畫の出張撮影。

ロヂック 論理、理窟。

ロツク・アウト 閉め出し

ストライキに對する工場閉鎖。

ロビー 控へ室、次の間。

ロボット 人造人間。轉じ

兩刀を差し、腰や肩をひねりながらユラリ／＼と大股に歩いた。所謂肩で風を切つて大道狭しと歩き廻り、豪傑を氣取つてゐた。その風俗が面白いといふので、歌舞伎役者が眞似をして舞臺にかけ、ヤンヤと喝采を博したが、その後これが漸次誇張され様式化されて今日のやうになつたのである。たゞ歩かず、飛ぶやうにして行くのを飛び六法といひ、十數間の花道を三足半に飛んで人氣を取つた俳優もあつた。

聲樂の聲の種類

聲樂の聲には先づ男聲と女聲があり、これを高低により三種つゝ六種に分けてゐる。ソプラノ(高音)メツオ・ソプラノ(次高音)アルト(中音)以上が女聲又は子供の聲で、男聲は、テナー(次中音)バリトン(上低音)バス(低音)である。併しそのほかにドラマチック・ソプラノだの、コロラチュラ・ソプラノだのといふのがあつたが、これは、聲の高低や強弱ではなく、調子または歌ひぶりにつけた名前である。

てでくの棒の意に用ふ。
ロマンティック 空想的、
傳奇的。
ロング・ラン 映畫の連續
上映。

【ワ】

ワイ・エム・シー・エー 基
督教青年會。
ワイフ 妻。
ワルツ 圓舞曲。
ワイン 酒、葡萄酒。
ワイヤ 繩針金、電線。
ワンダフル 驚くべき、不
思議な。
ワンピース 上下連續した
婦人や子供の服。

映畫一本の製作費は幾らか

金は使ひやうで幾らにもなる。有名な「五人の斥候兵」のやうに、多摩川の河原へ支那風の門を一つ建てたきりで一切が終つた場合には、會社は儲かつて仕方がない。だが映畫會社では平生から人件費や設備費がかかるので、どう安く工夫しても六七巻もので一本四圓から一萬數千圓かゝり、特作品となると一萬圓から六七萬圓、もつとかゝる。これを平均すると一本二萬圓見當と云はれてゐる。

西洋畫は何故裸體が多いか

それは美術の傳統に基く。東洋人は形よりも精神を尊び、従つて人間よりも自然を描いたが、西洋人は精神よりも形を尊び、その結果人間を最も多く描いた。これは非常に興味あることで、東洋人と西洋人の氣質は太古時代から此のやうに違つてゐたのである。西洋畫に風景を見かけるやうになつたのは極く近代の事で、昔は人

スポーツ用語

ア・インド・ラン 野球で、
敵失によらず堂々生還する
こと。
アウト・カーヴ 野球の外
角球。投手の球が打者の身
近くから遠くへ角度がつい
て曲る球。
アウト・コーナー 野球の
本壘板の外側。
アウト・ドロップ 野球で
打者の手許で外側へ急角度
に落ちる球。
ア式蹴球 十一人を以て一
組とし、敵味方二組に分れ
て行ふフットボール。

物畫ばかりであり、若し自然を描いても僅かに人物の背景として用ひられたに過ぎない。而して西洋美術の淵源はギリシヤ美術に初まり、ギリシヤ人は殊に人間を尊び、多くの自然現象さへも人間化しないでは理解出来ず、あの美事な神話を生んだのであるが、そのギリシヤは昔は非常に氣候のよい所で、常に裸體或は半裸體で暮し、オリムピック競技の時などは全く裸體になつた。その風俗をそのまま描いたから、どうしても裸體の繪が多いのであるが、更にギリシヤ人は人體を美の極致だと考へてゐたので、繪や彫刻を製作する場合には、モデルが僅かに身に纏つた衣までも脱がせて描いた。此の思想と風習がそのまま後世までも傳はり、美々しく着飾つた着物までも脱がせて裸體を描くやうになり、それが美の最高のものだとの固定した考へが出来てしまつたのである。それは丁度、南畫が揚子江上流の巍々たる山岳を畫いたのを見倣ひ、そのやうな山水の少い土地に棲む日本畫家までが、南畫といへばあのやうな山を書かねばならぬやうに思つて、平氣で見た事もない風景を書くのと同様である。

アット・バット 野球の打撃数。

アンダー・スロー 野球の下手投げ。

イン・カーヴ 野球用語。

アウトカーヴの反対で、本壘板上を通る時、急に打者の方に曲る球。

インコーナー 野球で、打者の方に近い本壘板上の一端。

インシュート 野球で、打者に對して近目へ流れ込む球。

インタフェア 他の競技者への妨害。

インドロツプ 野球で、イン・カーヴしながら急角度

南畫と北畫はどう違ふか

南畫は又の名を文人畫とも云ひ、職業的畫家でない人が自分の風懷を述べるに繪の形式を用ひたもので、文人、即ち素人の書いた繪である。従つて専門的な筆法や約束を無視し、字を書くのと同様な氣持で、字を書いた序に興の赴くまゝに筆を走らせたもの。従つて大抵は詩と畫とを同時に書き、繪は水墨を主とし、後世で着色するやうにはなつたが、極く淡彩に限られてゐた。これは支那の昔、王維が藍田の南に隱棲して脱俗的な生活を營み、詩文に親しみながら畫筆を揮つたのに初まる。従つて形よりも筆勢や氣品を重んじ、精神を移さうと努めた。併し今日では甚だ職業的になり、南畫の精神は寧ろ俳畫に見られるやうになつた。これに對し北畫は支那の李思訓父子が創始した着色の巧緻極まるものではあるが、土佐繪のやうに様式化されたものではなく、謂はゞ寫生風な活達な畫風である。この區別は明時代の眞雲卿といふ人が、當時禪宗が南北二派に分れて隆々たるものがあつたので、それ

にならひ、新興畫派を南北二派に分けて呼んだのである。

將棋の段位と駒割

將棋は初段から九段まであり、九段を以て名人とする。名人は昔は終身の名譽的段位であつたが、今日は實力本位となり、四年を以て一期とし、七段と八段が名人位獲得の大爭鬪戦を行ひ、最優秀の得體を得た者が名人に挑戦し、名人を倒せば次の名人になる。現在の名人は木村義雄氏で、昭和十三年春、此の實力名人第一世の名譽を獲得した。昇段は大成會の規約により採點法を以て、一定の得點を得れば昇格する。駒割は、從來角落を四段差としてゐたものを五段差に、六段差だつた飛車落を七段差とし、一段差は香平交とし、二段差は香落、三段差を香落角落の三番勝負、四段差を角角香落、五段差を角落、六段差を角香と角落二番、七段差を飛車落、八段差を飛香と飛落二番、九段差を飛香落としてある。初段以下は一級、二級と下がつて行く。

に落ちる球。

インニング 競技の回数。

インフィールド 野球の内野、従つてインフィールド。

フライは内野飛球。

ウインニング・ボール 野球の勝利球。

ウインタースポーツ 冬季競技。

ウエスト・ボール 野球のつり球。

ウエルタ・ウエイト 體重百三十五ポンドから百五十

四ポンドまでの拳闘選手。

ウオーミング・アップ 競技前の軽い準備運動、肩な

らしを云ふ。ウオーム・アップはその略語。

エキストラ・インニング 野球の補回又は延長戦。
 エクサイティング・ゲーム 熱戦、接戦。
 オーヴァ・スロー 野球の上手投。
 オーヴァ・ラン 野球で、二壘三壘を走り越えてアウトにされること。
 カーヴ 野球の曲球、魔球。
 キツク・オフ 蹴球で、蹴り始めの意。
 キツク・ターン スキーの方向轉換のこと。
 キヤプテン 主將。
 グライダー 滑走機、無發動機飛行機の意で、丘の傾斜面等を滑走した勢ひで離

圍碁の段位と手合割

圍碁は初段から八段まであり、七段を上手、八段を準名人とし、それ以上を名人としてある。現名人本因坊秀哉氏は第二十一代の本因坊である。段位は三年間規定の成績を續ければ一段昇る。その手合割は、一目二段差とし、日本棋院の規定によれば、同段者は互先といつて交互に黒石を持ち、一段違ひは先相先として三回勝負中下手が黒・白・黒の順で持ち、二段差は下手が絶対先手、三段差は先二として下手が三回目に二目おき、四段差は二二先、五段差は定二目、六段差は二二三、七段差は三三二、八段差は定三目であり、その成績は春秋二回の大手合に限り採點される。初段以下は一級を上位とし、二級、三級と下がつて二十四級までであるが、同じ級の中でも甲組、乙組の區別がある。

オリンピックは何時起つたか

陸し、風と上昇氣流を利用して飛行するもの。近年高級スポーツとして世界的に流行してゐる。
 グランド・スタンド 競技場の正面觀覽席。
 グランド・ルール 或る競技場特有の規則をいふ。
 クリーン・ヒット 野球で絶妙の安打の意。
 クロス・ゲーム 接戦。
 ゲーム 競技、試合。
 ゲーム・セット 試合の終了。
 ゲッツー 野球の併殺。
 コーチ 選手を指導訓練すること。
 コーチャー 一般競技では

オリンピックは西曆紀元前七七六年、即ち神武天皇御即位よりも猶百十餘年前にギリシャに創始された。ギリシャ人はゼウスの神を民族の最高神として畏敬してゐたが、それを祭るオリンピア大祭に際し、神慮を慰めるための奉納競技として行はれたのを以て矯矢とする。この競技は一切官吏の手によつて主宰せられ、各都市や植民地からは、それ〴〵地方官吏によつて選ばれたその土地の代表選手が送られ、郷土の名譽と信仰を賭けてゼウスの神前で崇嚴に眞劍に行はれ、優勝者には神苑に生ひ繁る橄欖の枝で作つた冠を授けられた。競技種目は競走、跳躍、槍投、圓盤投、角力の五つであつたが、この運動競技のほかに、美術、文學、辯論、音樂等の競演大會も行はれた。これはギリシャ民族の思想を統一し、一致團結の精神を養ひ文化と體位を向上させるのに非常に役立つた。その後ギリシャが滅びてローマの時代となつても、ローマ人はこれを眞似てオリンピック競技を續けた。併し信仰心のない彼等はたゞ競技を楽しむのみで、遂には専門家の妙技競演會と化し、更に觀覽的興業物に墮してしまつた。かくて西曆三九四年には、一千年の歴史を遺したのみ

コーチする人の意であるが
野球の場合は、一壘と三壘
の外側に立つて味方の走者
を指導する者をいふ。

ゴール 決勝線。

コールド・ゲーム 野球で
両チームが五回以上戦つ
た後、雨その他の原因で試
合終了となつた場合、兩テ
ームが均等に攻撃を完了
した時の得点で勝敗を定め
ること。

サイド・スロー 野球の横
手投げ。

サウス・ポー 野球の左利
き投手。

シーソー・ゲーム 追ひつ
追はれつする試合。

で果敢なく亡んでしまつた。所が十九世紀の末フランスの史家で教育家たるピエール・ド・クーベルタン男爵が、普佛戦争後青年の志氣の沈滞せるを嘆き、一八九四年歐米の同志を巴里に招じてオリンピック復活の議をはかり、古代オリンピックの精神を世界的に擴大し、人類の體位を向上し、公明正大の氣を養ひ、以て國際平和にも貢獻しようとし、賛成を得て、一八九六年、由緒深きギリシヤの首都アゼンズに第一回大會を開催した。これが近代オリンピックの初めである。

オリンピックは今迄何處に開かれたか

オリンピックは一八九六年にギリシヤのアゼンズで第一回が開かれてから、四年毎に開催せられて來、既に十一回を數へるが、中に一回開催があるから、實際には十回しか開かれなかつた。

回数	年次	開催國	開催場所
第一回	一八九六年	希臘	アゼンズ

シートノック 野球で、各
選手がそれ／＼正式の位置
について守備の練習をする
こと。

シャット・アウト 零敗。

スケデュール 毎日の練習
時間表、又は試合の豫定日
割。

スコア 得点記録。

スコア・ボード 得点を
記録する掲示板。

スタート 出發點。

スタディアム 競技場。

スタンド・ブレイ 観客本
位にやる技。

ストラック・アウト 野球
の三振。

ストレート 連勝或は連敗

第二回	一九〇〇年	佛國	パリ
第三回	一九〇四年	米國	セントルイス
第四回	一九〇八年	英國	ロンドン
第五回	一九一二年	瑞典	ストックホルム
第六回	一九一六年	獨逸	ベルリン(世界大戦のため中止)
第七回	一九二〇年	白耳義	アントワープ
第八回	一九二四年	佛國	パリ
第九回	一九二八年	和蘭	アムステルダム
第十回	一九三二年	米國	ロスアンゼルス
第十一回	一九三六年	獨逸	ベルリン

次の第十二回は昭和十五年(一九四〇年)我が國の建國二千六百年をも紀念して我が東京で開催する豫定であつたが、支那事變のためにその準備不可能となつて棄權し、ために豫てから候補地とされてゐたフィンランドの首都ヘルシンキで催されることになつた。

スパイク 滑り止めの靴の底釘、又はそれをつけた靴。
 スポーツマン・シッフ 運動精神。
 スライディング 野球の滑り込み。
 スラッガー 野球の強打者
 スランプ 不振。
 スロー・ボール 野球の緩球。
 セーフティ・バンド 野球で、内野手の油断を見すましてやるバンド。
 セット 庭球の得点計算の一単位で、十ゲームから成つてゐるものこと。
 ソーン 組の意。
 ダーク・ホース 元來は競

オリンピックの五輪の意味

国際オリンピックのマークは五色の輪が交叉してゐるが、赤は歐洲、緑は南北米大陸、黒はアフリカ、黄はアジア、青は大洋洲を意味し、全世界を貫く國際的な競技であることを表したものである。

武藝十八般とは何か

弓・劍・騎馬・薙刀・槍・水練・忍術・柔術・鐵砲・臺目・火矢・棒・鋌・突棒・刺股・十手・烽火・大筒、以上十八であるが、なほこれに、流鏑馬・犬追物・牛追物・水馬・居合・鎖鎌・騎射・騎馬筒・手裏劍・笠懸の十藝を加へて二十八般とする。支那にも武藝十八般があり、矛・鎚・弓・弩・銃・筒・鞭・鏈・杵・劍・斧・鉞・戈・牌・戟・鎗・棒・樞である。

相撲の四十八手は何々か

相撲の勝負を決定する手段を「手」といひ、古來、投十二手、掛十二手、反十二手、捻十二手、合せて四十八手とされてゐた。その名を擧げると、投十二手は、大腰、下手投、上手投、からみ投、首投、掬ひ投、撥投、負ひ投、懸投、押投、つかみ投、逆手投。掛十二手は、河津掛、免れ掛、扇り掛、外掛、内掛、飛掛、大渡し、折のかけ、一足掛、手斧掛、三所掛、なた掛。反十二手は、掛反、一寸反、つまぞり、撞木反、入替反、さび矢、無雙、絹擔ぎ、寢反、朽木反、波枕、わく拔。捻十二手は、ひねり、頭捻、腕捻、左捻、右捻、籠手捻、うたせ捻、逆捻、突落し、奏者とり、合掌捻、捻り捨てである。所が明治以後では餘り用ひられぬものも出來た代りに、他に多くの手が出來、今では約百五十手がある。その主なる物を擧げると、突き、突出し、突放し、突落し、押し、押切り、押放し、押飛ばし、寄り、寄り切り、寄放し、寄飛ばし、上手投、下手投、掬ひ投、逆投、小手投、二丁投、首投、

馬用語で、力量の知れない馬のことであるが、今日では一般に力量の豫測されぬ競争者の意に用ふ。
 タイ 對といふ當字を用ひ同一の意に用ふ。
 タイアモンド 野球の内野の進行中止を求め、又は命ずる場合に用ふ。
 タイムリー・エラー 野球で最も大切な場合にやつた失策。
 タイムリー・ヒット 野球の適時安打。
 タツクル ラ式蹴球で敵に掴みついて引留める戦法。
 ダツシュ 突進、又は短距

離競争のこと。
タツチ 野球で球を走者につけること。
ダブル・プレー 野球の併殺。
ダブル・ヘッダー 野球等で一日二回の連続試合を行ふこと。
ダブル・ステール 野球の重盗。
チーム 競技の組、團體。
チーム・ワーク 競技に於ける團體的行動、連絡、統一等の意。
チエンヂ・オヴ・ベース 野球で投手が同様の投球モーションで速球緩球を巧みに取りまぜて投球すること。

腰投、懸投、櫓投、背負投、矢柄投、佛壇返し、高無雙、内無雙、外無雙、切返し、卷落し、頭捻、首捻、合掌捻、取つたり、肩透し、胴捻、素首落し、撓出し、膝折、さば折、突櫓、上手櫓、下手櫓、引落とし、引廻し、蹶手繰り、手繰出し、送出し、手繰込み、内掛、外掛、渡込み、凭れ込み、浴せ倒し、浴せ掛、大渡し、手斧掛、三所攻、河津掛、掛凭れ、昇り掛、飛違ひ、捻り捨て、掛反、撞木反、撞反、居反、絹擔ぎ、上手透し、下手透し、鴨の入首、首突き、上突張、あふり出し、引小跨、足取り、爪取り、掬返し、腰砕け、張手、ひさご廻し、櫓、片櫓、咽喉輪攻等である。

力士の階級はどうなつてゐるか

力士の最上級は横綱であり、その下に大關・關脇・小結がある。これを三役といふ。三役の下は前頭であるが、前頭には五つの階級があり、第一階級は幕内十八人これを成績順に並べ、一番上級を前頭筆頭又は一枚目といひ、次から二枚目三枚目

チャレンジャー 前年の選手権保持者又は保持國に對して挑戦資格を得たものを云ふ。
チャンピオン 選手、優勝者。
ツーベース・ヒット 野球の二壘打。
デヴィス・カップ 米國のデヴィス氏が一九〇〇年に庭球世界選手権を得た人に寄贈した大カップのこと。以後この大カップを爭奪する世界最大の庭球戦をデ盃戦といふ。
テキサス 野球で内外野の中間に落ちる小飛球安打。
トーナメント 多數競技者

と數へる。第二階級は幕下十兩又はたじの十兩といふ。昔は一年間の給料が十兩だったから出来た詞で、本當の名は前頭である。第三階級は十兩以下の三段目、第四階級は序の二段、第五階級は序の口といふ。こゝまでが相撲番付に名前がのる。それ以下は前相撲、間中、本中などといひ殆んど問題にされないが、序の口となつて初めて相撲と云ひ得るやうになる。關取と普通に云ふのは幕下十兩以上の力士で、もう押しも押されぬ力士である。大關以下は成績によつて位置を變へられるが横綱は名譽の役だから成績に關せずその位置に止まる。それだけに責任も重い。

相撲の年寄は何をする人か

「年寄」とは元老とか長老とかいふ尊敬の意味であるが、今日の財團法人大日本相撲協會では此の名稱が一つの役名となつてゐる。年寄には一定の數があり、源氏名が出来てをり、力士又は行司を廢業した者が空席になつてゐる年寄の名を襲名する。みな協會の役員として經營上の事務を分擔し、本場所の時は四本柱とか監査役とか

間の争覇戦。野球等ではリ
ーグ戦の語を用ふ。
トス 野球で下から軽く球
を抛る意。

トライ ラ式蹴球で、相手
方のゴールに飛込んで球を
つけること。

トラツク 圓形競走路。

トレイニング 練習、訓練。

ドロン・ゲーム 撤回試合
無勝負、引分試合。

ドロツプ 野球で投手が打
者に對して投げた球が角度
がついて下へグイと曲るの
を云ふ。

トロフィー 優勝戦、賞品。

ナイン 野球チームの別名

ナショナル・ゲーム 國民

になつて審判に當る。又年寄は大抵自分の「部屋」といふものを持ち、多くの弟子
や行司を養ひ、自分も土俵に立つて後進を董陶する。

勸進元とは何か

相撲・芝居・サーカス等の興行を主催する責任者を勸進元といふ。昔、寺や宮を
建築する場合その他に寺や宮へ収入を寄附即ち勸進する條件の下に境内で興行する
ことを許された。勸進する責任者だから勸進元といひ、寺社奉行に届出して興行の
許可を得た。それが後世では他の一切の興行にも使はれるやうになり、旅興行の場
合には今も尙これが用ひられてゐる。

遞信關係の常識

郵便局の二は何の意味か

我國の郵便事務は明治八年五月に開始せられ、當時は「驛遞寮」といつたが、明
治十年三月萬國郵便聯合條約に加盟したのを機とし、全國共通のマークを「丁」と
制定した。併しこのマークはどうも面白くないといふので、明治十八年十二月官
制を改めて驛遞寮を遞信省と改稱したのを機會に、遞信省のテの字を模様化して現
在のやうなものを作り、明治二十年二月十九日官報を以てこれを公布したのである。

切手と印紙は何處が違ふか

切手は正しくは郵便切手といひ、郵便物を取扱ふ時にその手数料として政府が人
民から貰ひうけるものであり、印紙は正しくは収入印紙といひ租税又は各種收納税
を徴収するために發行したもので、税金・罰金・科料・各種手数料等は、現金で收
めてもよく、収入印紙で收めてもよいが、罰金・科料等のやうに特に収入印紙たる
べしと規定されたものもある。小賣商人の用ひる通帳、預金通帳、家賃地代通帳、
質屋の通帳、判取帳、各種契約書、十圓以上の賣上金受取書等には必ず印紙を貼ら

的競技。

ノー・ゲーム 無勝負、無
效試合。

ノー・ラン 野球で敵に一
點の得點をも與へないこと

ハードル トラツク競技の
一種に用ひられる障礙物。

ハイ・ジャンプ 高跳び。

ハイ・ハードル 高障礙物
競走。

バッティング・オーダー
野球の打撃順。

バッテリ 野球で投手と
捕手とを合せて云ふ。

バッテリ・エラー 投手
の投球上の失策と、捕手の

捕球上の失策とを云ふ。

ピツク・アップ 蹴球で球